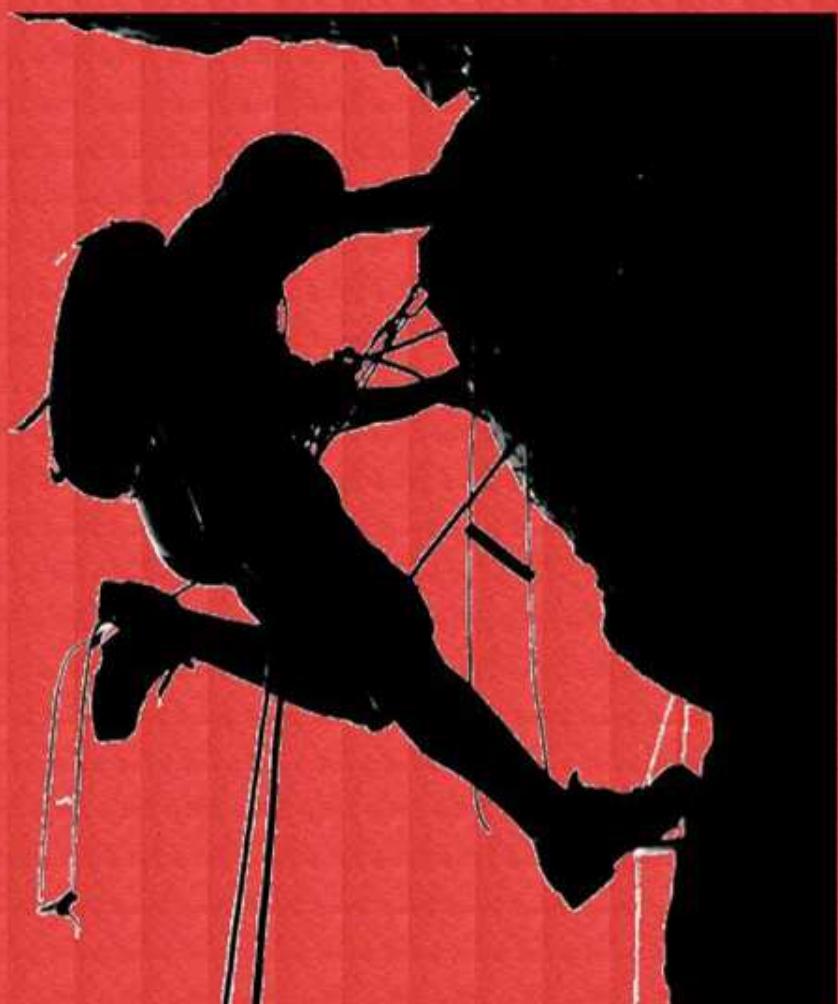


溪稜

NO. 27



60周年記念号
浦和溪稜山岳会

創立 60 周年を迎えて

浦和溪稜山岳会は創立 60 周年を迎えました。この間一貫して山登りのスタイルを変えることなく浦和の町の山岳会として登り続けてきました。幾多の浮き沈みもありましたが、ひとえに先輩および会員諸兄ならびに埼玉県山岳連盟を始めとする関係山岳会の皆さま方の深いご理解と暖かいご支援により今日まで山岳会を続けてくることができましたことを心から感謝申し上げます。

当会は戦後の復興期から高度経済成長期へと時代が変わりつつある昭和 31 年 12 月 8 日に浦和市立高校山岳部 OBG が集まり『溪稜山岳会』と称して発足しました。当時は高砂町にあった初代会長の実家を本部とし、山行面ではオールラウンドとはしていましたが、表丹沢や西丹沢、そして谷川岳東面の未開拓の沢などを次々と繰り返し登っていたようです。

その後、高度経済成長時代のもと空前の登山ブームが到来し、様々なグループが山岳会を自由に結成した巷で言う『三人寄れば山岳会』の時代となりました。母校卒業者の入会が激減したこともあり、山行と運営のマンネリ化から脱するために昭和 38 年 4 月に『浦和溪稜山岳会』と改称し、同年 6 月に OB 会から一般社会人山岳会へと改組を行い現在に至っております。改組した当初は新たに外から入会された方々により会活動は再び息を吹き返したとのことです。

その後も山行面ではオールラウンドであるスタイルを変えることなく、春・夏・冬の年 3 回の合宿と毎月 1 回の月例山行からなる会山行と会員同士で行く会員山行を活動の中心として国内の山岳から海外の高嶺を目指して登り続けてきました。

その結果、会員の中には自らの目標や夢を達成された方も多数おります。

他方、理由はどうあれ反省しなければならないことも多々ありました。山行面では幸いにも最悪の事態には至りませんでしたが転落や落石等による骨折等重篤な怪我や、車社会へと時代が変化し山の行き帰りでの自動車事故、運営面ではオールラウンドとはしていても年齢層や多様性の広がりによる考え方の違いや片寄りによる意見の対立などがありました。

山やの世界は、自己主張が強く人の言うことは聞かない割に一旦気を許すと本音で弱音を吐いて互いの傷をなめ合うような奴らが多く当会も正にそんな奴らの集まりです。そんな奴らですが、一つ共通しているのは山への想いです。今までの会活動を振り返ると良いことも悪いことも問題に直面した時には、山への想いを原点に会員自らがそれぞれ知恵を出し合い、例えそれが最大公約数であっても何とか皆でまとめ上げ解決を図ることの繰り返しを行ってきたように思えます。

創立以来当会で活躍された百余名を越える会員皆それぞれが山への想いを紡ぎそれを会員同士で繋ぎ続けてくれたことが 60 年にわたり会活動を支え続けて来たのだと思います。

創立 60 周年を記念してここに近年の記録をホームページから抜粋して記念誌として発行すると共に、創立から今までの 60 年の記録を永久に保存すべく DVD にデジタル保存いたしました。

浦和溪稜山岳会が今後も浦和の町の山岳会として登り続けるために後輩たちに伝えたいもの、そして期待を込めて念願しております。

これまで同様、皆さまからのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

浦和溪稜山岳会 会長 中山法行



目次

創立 60 周年を迎えて	1
目次	2
寄稿 現会員へ	3
あの頃（写真集）	4
近年の山行記録より	12
前穂高岳 西穂高岳（2003年春合宿）	12
岳沢～西穂高岳（2003年春合宿）	13
北岳バットレス Dガリー奥壁上部フランケ～四尾根（2004年10月）	14
谷川岳 一ノ倉沢南稜（2006年10月）	16
北岳バットレス（2006年10月）	17
涸沢岳西尾根（2006年冬合宿 B隊）	19
八ヶ岳 集中（2007年2月）	20
剣岳早月尾根（2007年春合宿）	21
室堂から剣岳（2007年夏合宿）	22
黒部川下ノ廊下と裏剣（2007年10月）	23
剣岳・早月尾根（2007年冬合宿）	5
八ヶ岳 裏同心ルンゼ・石尊稜（2008年1月）	26
剣岳・小窓尾根（2008年5月）	28
剣岳・早月尾根（2008年5月）	33
北岳バットレス・ローテルプラット（2008年7月）	35
南アルプス野呂川シレイ沢（2008年7月）	38
巻機山 米子沢（2008年10月）	40
秋の荒川三山と赤石岳（2008年10月）	41
剣岳 早月尾根（2008年12月）	44
西穂西尾根（2009年3月）	47
明神岳・東稜（2009年5月）	49
2009年夏合宿 IN 穂高岳（2009年夏合宿）	53
上越 足拍子岳（2010年2月）	57
早池峰山・栗駒山を訪ねて（2010年6月）	58
裏銀座～船窪岳～針ノ木岳（2010年7月）	60
湯檜曽川支流高倉沢廻行（2010年8月）	66
北岳冬合宿（2010年冬合宿）	68
谷川岳東尾根（2011年2月）	72
夏合宿・尾白川本谷～甲斐駒ヶ岳（2011年8月）	74
レディース隊冬合宿・女峰山（2011年12月）	77
黄連谷左俣（2012年1月）	78
近年の会活動記録	80
浦和溪稜山岳会・会員名簿	92
編集後記	94

寄稿

現会員へ

ある日、現会長の中山氏が訪ねてきて「特に若い会員を対象に、会報に初代会長として何か啓発的なものを書いて欲しい」といった趣旨のことを言ってきた。

このところ会とも疎遠で、会活動の実情も知らないし、エッセイの類いの依頼ならいざ知らず、正直言って困惑する。

近頃は、歳と共に思考能力も大分衰えてきて、人にアドバイスや思索への示唆をするなんてことは、まずお呼びではない。意識や感性、価値観なども多様化している現状では、もうぼくなど出る幕ではなさそうだ。

それでも、ここで試しに「自分から理想や目的を設定して、試行錯誤でもいい、果敢にその実現に向けチャレンジしてみよう」なんて言葉や「当たって砕けろ！」などという掛け声を並べてみると、いささか手前ミソになるが、ぼくにもそんな言葉や掛け声に該当するような事例が、いくつか浮かび上がってくる。

例えばそのひとつとして、戦後間もなく高校で先輩と一緒に山岳部（実はこれが後年の溪穂山岳会の母胎となった組織）を造ったが、その初めての山行が谷川岳だった。そして出合から一ノ倉沢を眺めて「日本にもこんな山があるのか」と驚いたが、登ってみたいという意欲は湧いても、残念ながら僕の周りには経験者が居なかった。

その後、丹沢や谷川南面の沢などでトレーニングを積んで、三年後ザイルも持たない丸腰で、完登の成算もないまま、単独で一ノ倉の壁に取り付いた。まさに「当たって砕けろ」の気迫である。

さて快調にルンゼを抜け、滝沢上部を駆けるように登って稜線に立ったぼくは、その容易さに「これが一ノ倉か？」とやや失望感を持ったことを覚えている。だがこれが僕の岩登りのターニング・ポイントになり、東面のルートを次々と登ることになる。

さて、ここまで駄文を労してきたが、あえて会長の要請に沿って、ひとこと提言をすれば、ぼくなども興味を持って多くの山の本を読みあさってきたように、若い会員の人も自分なりに選択して、内外の山の名著や古典に取り組んでみることだ。そこから、それぞれ実践的な教訓や、個性的・論理的な登山観（登山哲学）、アルピニストの知性や人間性・叙情性、そして登山の魅力や醍醐味などが、感得できるはずである。

これら名著の好個な案内としては、「山の名著・30選」 福島功夫（東京新聞刊）などがある…。と言い添えて、おさまりの悪い文のくくりとする。

辻 勝四郎

あの頃

過去の山行記録



昭和 40～45 年ころ 八ヶ岳小同心右岩峰試登



昭和 41 夏合宿 雲ノ平



昭和 42 年 バットレス4尾根



昭和 43 年 5 月 八ヶ岳地獄谷



昭和 43 年夏合宿 剣岳



昭和 43 年冬合宿 八ヶ岳広河原 BC



昭和 43 年冬合宿 蓼科山





昭和 44 年冬合宿 横尾尾根



昭和 46 年 7 月 谷川岳一ノ倉沢登攀ノゾキ付近



昭和 46 年 5 月 鹿島槍



昭和 46 年 10 月 衝立岩 洞突ハング乗越





昭和 47 年冬合宿 猿倉



昭和 49 年夏合宿 横尾涸沢



昭和 51 年夏合宿 本谷山 塩見岳



昭和 50 年 9 月 会津駒ヶ岳



昭和 52 年 3 月合同山行 八ヶ岳



昭和 57 年 5 月 鹿島槍天狗尾根



昭和 54 年夏合宿 越後三山縦走

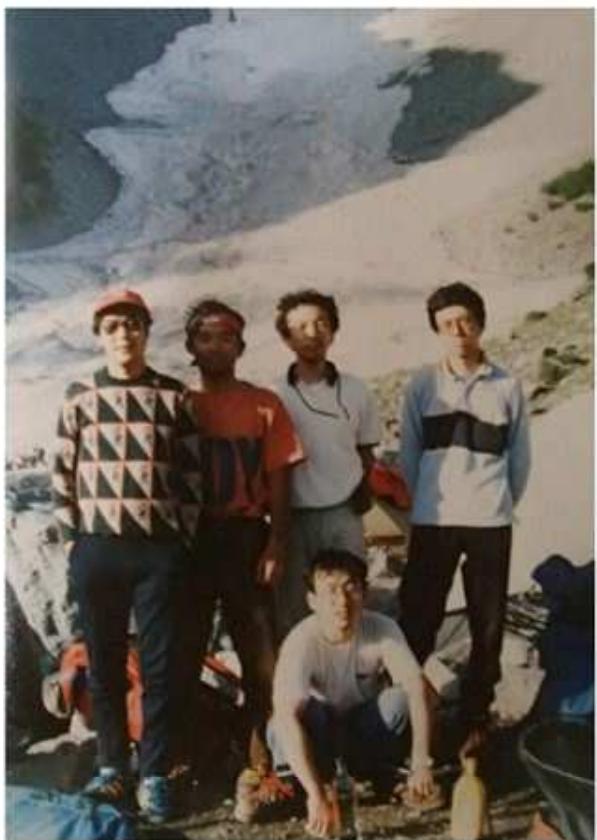


昭和 59 年 剣岳、早月尾根



昭和 55 年冬合宿 笠ヶ岳

昭和 61 年 3 月 南アルプス塩見岳



昭和 62 年夏合宿 北アルプス涸沢 BC



平成 4 年 12 月 奥穂～西穂縦走

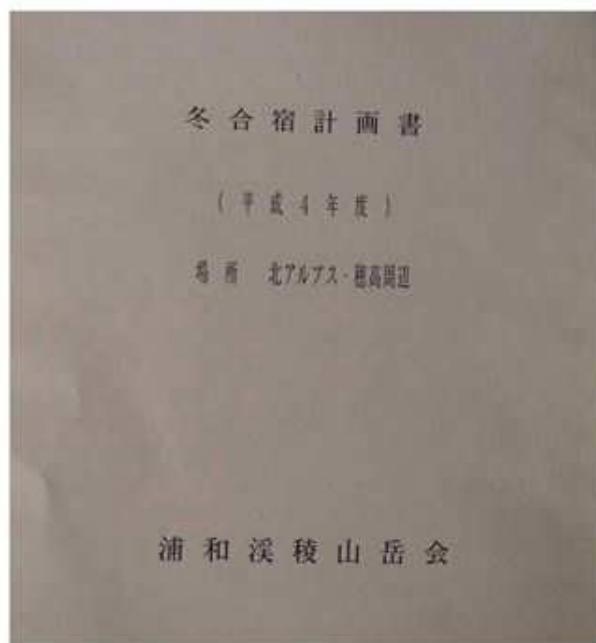


平成 3 年 5 月 白馬岳主稜



平成 4 年 北岳バットレス

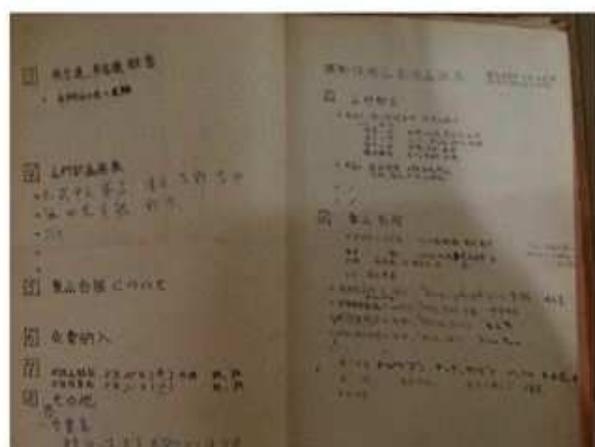
浦和溪稜の活動



平成4年冬合宿計画書



溪稜祭



昔の山話会資料



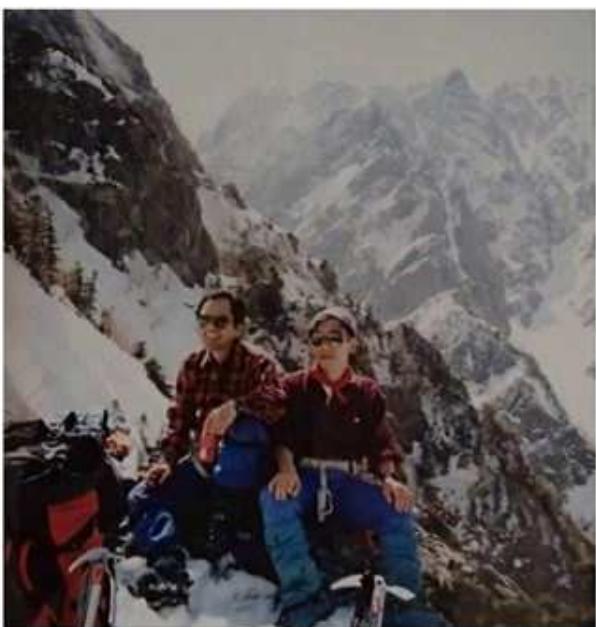
浦和溪稜 30周年





浦和溪稜 40周年

その他の写真



近年の山行記録より

場所 前穂高岳 西穂高岳(春合宿1)
日時 2003年5月1日～5日
メンバー 森田、大野、安田、中山

4月30日23:30分川越発で沢渡駐車場3:30着。あ～眠たい。

5月1日と、言うことで朝寝坊。上高地村営食堂で恒例の朝定食を食べて9:30に出発。北尾根へ向かう。



写真の通り残雪は少ない。但し天気は快晴・無風で絶好調！2時間で徳沢。もう一時間歩いて奥又白谷残雪末端へ。暑いし、荷物が重いしで早くもバテバテ。一向に足取りは駆らずで慶応尾根コルにて行動をあきらめる。PM3:00いや～な予感がよぎる。夕食を食べて即就寝。

5月2日、3時起床5時出発。慶応尾根を登るが一向にペースは向上せず。結局3時間掛かって八峰頂上へ。さあ～ここからわくわくドキドキの岩稜歩きだぞ～。でもちょっと度が過ぎたかな～。で緊張のあまり胃が痛いとか、唇真っ青とか、オエ～げろ吐きそうで、ロープワークどころで無くなり、雪の無いぼろぼろの6峰手前でこれ以上は無理！と、撤退決定し7峰8峰コルまで戻って涸沢まで続く沢をロープ2本で90mを2回フィックスして上部の急な斜面を下りて、あとは「すたすた」まっすぐ涸沢へ下る。最後は涸沢ヒュッテのギャラリー20～30名に拍手喝采で迎えられ、あ～あ、はずかし！（詳しくはY田、O野から特に感想など。）おまけに長野県警の山岳救助隊に事情聴取（なんでこんなところ降りてきたのかだって！）そうだよ見たら涸沢ヒュッテや涸沢小屋から真正面の丸見え迫力満点の斜面だから。やれやれ。でも明神尾根の状況が県警から聞きだせた。雪が無いって！。だめだこりや！すぐにK川会長に連絡。5峰は中止。明日岳沢集合に計画変更。でテントを張り早々に就寝。あ～あ疲れた。でも天気はいいんだよな～これが。



5月3日、2時起床4時出発。ザイテングラートの登り3時間掛かって穂高山荘へ。さらに一時間掛かって奥穂の頂上へ。ここまで体力勝負の道のりでした。でも吊尾根の縦走に入つて南稜の頭からが今回の山行で一番の本

番でした。踏み跡はあるのですが、岳沢側に結構な傾斜で残雪が残っており、もし滑ったらなんて考えたら怖い、恐怖、がたがた震え、足がすべりなんてことはあったようで、しかも、後ろから我々のステップを追つて来たパーティのメンバーの一人が転落しちゃったのです。しかも眼の前で！。何かに引っ掛けたのか頭から落ちていったそうです。M田君の目の前で。でも、見事に滑落停止が決まって20mくらい落ちたところで停止しました。直後、O野君が岩と雪の隙間に落ちこちやったのです。首まで。先頭をわたしは歩いていたのですが、『中山さん大野がはまっちゃった！』と呼ぶ声。尾根をのり越していた私からはぜんぜん見えなかつたので、後ろから来ているY田に状況確認。とりあえず落ちたわけでは無い。滑落を現実に見て体が固くなつたのかな？まあ、M田がいるからまかせてみるかで、じっと待つ。なんとか対処できたようでO野が仁王像のようなすごい顔をしてやってくる。M田も顔が上気している。必死の形相つてやつ。ロープつけようか迷つたが、よくよく考えたら転落見て固くなつたなら、滑落停止は何のために訓練しているのかわからなくなる。結局、滑落停止で止まって怪我も無くすんだのを現実眼の前にしただけで、現場で使つた実例を勉強しただけなんだ。止まって当たり前でいつも訓練しているんだと、思つたら、メンバーは全員訓練してやれるのを確認しているし、きっと大丈夫とメンバーの技量を信じることにしてロープは出しませんでした。



と、ということで吊尾根最低鞍部を通過。夏道どおり前穂のトラバースに入る。雪はどんどん緩んでスリル満点の緊張のトラバースが続く。でも！さすがにみんなトラバースが様になつきました。かっこいいでしょ！で、紀美子平で大休止12:30重太郎新道をそのまま素直に下降すれば良いものを、トレースが無いのと先行パーティが奥明神沢に向かって下降・トラバースをしているものだからついていっしゃいました。大きな誤算はメンバーがこのようなことになつてはいなかつた。懸垂とかロープクライムダウンとか。まあいいや。時間がたっぷりあるからと、思ったのも油断でした。思いつきり時間が掛かって奥明神沢に降りたのが17:00くらいになつてしましました。あとはただ歩いて岳沢のテント場へ後発隊がずいぶんと心配していました。ごめんなさい。テント場整地と設営をやってもらいしかもビールと水までもらいました。高くつきそうですね！なにせみ～んなバテバテだった。長い一日でした。お疲れ様！。



5月4日、後発のメンバーは4:30に出発。ルートは天狗のコルから西穂高岳・西穂沢下降で岳沢ベース帰着。我々先発は昨日の疲労もあり、5:00起床。下界まで疲労を残したくないというY田は休養日。3名で西穂沢～西穂高岳往復にむかう。だだ広い沢を登って稜線へ(でも4時間もかかりました)稜線はすでにハイカー？でにぎわっていました。



雪が全くない！ズック！ズックですよみんな！ヘルメットかぶり、ハーネスつけて違和感たっぷりでした。11:00に頂上で縦走してきたメンバーと落ち合いました。添付写真からも雪の状態がわかるでしょ！デジカメが3倍ズームまでだったので小さく写ってしまいました。ごめんなさい！しばし休憩後全員で西穂沢の下降を行う。出だしは急だが雪が腐っていて滑落の心配なし。よつて浦和溪稜伝統の全員ばらばらマイペースの下降になる。なんだかんだいったって一番楽しいひと時だったような気がします。グリセードはいるは、歩きはいるは、シリセードはいるはで、かつとんで、あつというまに見えなくなっていた人もいました。テント場には13:30帰着。



沈殿Y田君が冷たい大量の飲み物を用意いてくれました。ありがとうございます。まだ時間も体力？もありそうだったので、帰りの渋滞を考えて一日早く上高地を出、沢渡の駐車場に今夜は泊まることにしました。早速パッキングして14:30出発。16:30過ぎにはタクシーに乗っていました。17時過ぎには駐車場につく。歩いていける沢渡温泉(湯の花荘は断られた)で、風呂が狭いから5人ずつ順番待ちして18:30ごろからテントを張って寝る予定だったのですが、打ち上げ風の晩飯になってしまいました。うちの山岳会じゃめずらしいよ。こんなこと。うちでは沢渡駐車場じゃ、きっと初めてだよ！Kさん、Yさん食事当番お疲れ様でした。

5月5日、5時に車で出発し、19号交差点のロイヤルホストで朝飯・清算して、午前中には埼玉に帰ってきました。食事担当・パーティリーダー及び参加各位 大変お疲れ様でした。怪我無く戻ってこれてよかったです。当初の冬に備えた偵察はできなかつたですが、あきらめずに行きたいものです。さらにレベルアップした山行を組んでいきたいものです。協力を宜しくお願ひします。

=====

場所 岳沢～西穂高岳(春合宿2)
日時 2003年5月3日～5日
メンバー 中田 掛川 北村 鈴木 内海

=====

5月2日の22:00に北浦和出発。上信越道に入つてからしばらくして大渋滞！！沢渡に到着したのが翌日の4:00過ぎでした。2日昼に、先発隊から連絡があり、明神の稜線上には雪が無い！ことやその他の理由により、岳沢集合に変更。携帯って便利ですね～。



5月3日
6:30頃に起きて、上高地で朝食を摂り、8:30に岳沢に向かって歩き始める。明神V峰を見上げるとホントに雪が無い！テント場予定地にも

雪が…。岳沢への登路も雪が少なく、半分くらいは土の上を歩いているようだ。しかも暑い！寝不足！！(オレだけ？)バテバテでした。岳沢までといふこともあり、休憩を長く、のんびり登る。テント場に12:00に到着。午後からはやることがなく、土方仕事よろしく、2時間かけて、テント2張分(4～5人用、6～7人用)の整地を行う。スコップは1本でよく掘ったものです。さらに時間があったので、キジ場も作製。全ての工事が終了したのが15:00。ビールを買ってきて、酒盛りが始まりました。こんなのがんびりしていていいのでしょうか…。

この日、先発隊と定時の無線交信が取れず…。16:00になってしまった。前日に16:00台はあけておくように連絡があったので、何度かコールするも連絡取れず。前穂の方を見るもそれらしい人影は見えず、17:00にM野さんに連絡を入れてみるが、特に連絡は入っていないとのこと。その後、M田君からコールが！どうやら無事らしい！！無線の声はちょっとお疲れ気味。先発隊はかなりお疲れの様子。いろいろあったのでしょうか！テント場を坪1万でどうかと聞くと、あつさり流されてしまった。お茶を用意してお出迎え。三々五々テント場に到着。先発隊の皆さん、ホントにお疲れ様でした！！



5月4日
前日のミーティングで天狗沢から西穂に行き西穂沢で帰ってくるルートを行くことにしていた。3:00起床。4:30出発。先発隊のテントは暗く誰も起きていられないらしく、暗い。起こさないようにしづかへにテント前を通るが、転んでしまった！！(多分、誰も気付いてないでしょう！！)このくらいの時間になるとヘッドランプをチカチカさせているが、ほんのりと明るくなっている。岳沢ヒュッテの前を通過し、天狗沢の出会いへ。沢の中央付近にデブリがあり、その

左をルートにとる。デブリの末端で小休止。この頃になるとあたりは明るくなり、周囲の山々が浮き上がってくる。

9:00 くらいになると雪がグシャグシャになるので、早めに天狗沢を抜けようと思ってました。デブリの末端を5:20くらいに出発。ここからはトレースもパッチリついていて、1時間くらいでいけるだろうと思ってました。雪面は締まっていて、アイゼンがよく効いてました。しかし、下降のトレースなので、歩幅が大きい！トレースと足の長さが合わない。もう少し足が長ければ…。天狗沢も半分くらい過ぎる頃には、2組に分かれ始めた。(どのように分かれたかはご想像にお任せします)下からは、左の沢に入ると、時間短縮できるよ、と天使？の声が…。心を鬼？にして天狗のコルへ。6:50天狗のコル着。雪がクサル前に到着できたが、明神を見ると、稜線上は雪がない！予定ではあそこにいるはずだったけど、行ってたらどうなってるんでしょう？



天狗のコルからはベンキマークを追いかながら夏道を行く。所々、雪が残っており、そこを歩くこともあった。日陰にある雪は、中が凍っているようのが多く、イヤ～な感じ。一箇所だけアイゼンをつけるも、そこ以外は使う機会も無く、ノーザイルで行く。途中一人が、腹の調子が悪い～！という以外は順調に進めました。(その方は帰りの車中でもモゾモゾしながら運転していました。)11 時には西穂で西穂沢パーティーと合流し、一緒に西穂沢を下降しました。

ホントに皆さんお疲れ様でした！！

M.U

=====

場所 南アルプス・北岳バットレス Dガリー
奥壁上部フランケ～四尾根

日時 2004年10月16日～17日(前夜発)

メンバー 掛川(L)、鈴木(直)、川元

=====

15日北浦和PM8:30 発、直樹君宅PM9:00、八王子ICより一路バットレスへ、高速道路では休まず、甲府昭和 IC で降り、途中コンビニで食料調達。市営駐車場で仮眠予定が、夜叉神峠に空きがあるとの事で、夜叉神峠まで上がるに至る。夜叉神峠 AM00:00 着、駐車場は、80%位埋まっていたが、余裕はあった。早速軽い宴会を始め明日のクライミングの話に花が咲く。明日のことを考え、AM1:30頃には車の中で、就寝zzzz(明日のことを夢に見ながら)

翌日(16日)、AM5:30 起床、AM6:00 発のバスに乗ろうと支度をバタバタ始めたが、衰れバスは待ってくれず…行っちゃった～、待ってくれ～…(4

台も来たのに！) しかたなく、AM7:00 発に乗ることにする。やっと待ってきたと思ったら満員で…次にしてくれと、車掌がほざく…ほざくなまだしも…オカマ風、交渉し立ち席で乗ることにした。バスの中での案内も、ナント『オカマ』じゃないか…参りました。天気は予報だと晴れ模様のはず、しかし重苦しい空模様、雲が空一面、雨さえ降らなきや良いか～と思いつつ、バスに揺られ広河原着 AM7:45 頃。身支度を整え AM8:00 出発、相変わらず変わり映えしない天気、周りは紅葉見物の客と、北沢峠方面の登山者で賑わっている。北岳方面は、数パーティだけ、前のバスでだいぶ入っていたので、我々が出遅れているのだとと思いつつ、正面に見える北岳バットレスを見ながら、吊橋を渡り入山。

空模様は相変わらずだが、八本歯のコルが明瞭に見えるので天気は持ちそう。時たま日差しは出るがパッとしない。二俣着 AM10:00 このあたりで登山客と出会う、あと一踏ん張りでバットレス沢に着く、ここまでは何とか持ちこたえた体調が、徐々に不調に向かう、バットレス沢出会い着 AM11:00。小休止、これからクライミングするルートを偵察する。バットレス沢に入り闇志が燃えてくるのと裏腹に、体調は最悪状態、両足にアクシデント発生！(クソー…下品だね！)、休養しつつ騙し騙し歩を進めるが、なんともしがたく中休憩を取る。この調子だと四尾根の取り付きまでは時間がかかり、今日のクライミングは不可能となるため、急遽Dガリー奥壁経由のルートに変更する。(二人共ごめんね！)



Bガリーから急なガレ場をトラバースし、何とかDガリーの取り付けに PM1:00 着。空模様はパッとしない上、残雪らしきものがチラチラ有る。早速、登攀準備にかかり PM1:30 取り付く。

1P(III)、フェースを 10m程左上し、ザイルの流れを考慮してテラスで切る。



2P(III)、5mのフェースを直上し、ハイマツ交じりのリッジを 30m 登りビレーするが、50mザイルがキンクし伸びない、出せない。

3P(II)、ほとんどコンテ状態で 20m。

4P(III)、ルンゼ状を 40m 登り広場にてビレー、通常はここよりバンドを右に 20m程トラバースすると4尾根の取り付けに至るが、現在は、バンドが崩壊し、少し下の草付き状の場所をトラバースをしているら

しい。

5P(III)、ルンゼから右ヘフェースに移り40m伸ばし2人用テラスに着く、おいらは2m下のバンドで待ち状態、ここでも、50mザイルがキンクし、伸びない、出せない状態、トップから重た~いのコール。

6P(III)、上部のかぶり気味の岩を目指し30mフェースを直上、かぶり気味の岩を左から10mほど巻くが、川元娘がいっぱいのコール、トップの直樹君から少し伸ばしてくれ~とのコールが返り、少し前進しザイルを出す、微妙なバランスでテラスに着いたらしい。

7P(III)、テラスから3mほど左に移動し、ルンゼ状に入りフェースに移る。上部には、奥壁の核心部である二段ハングが見える、ハングめざし40m伸ばしテラス着。もうすでに時刻もPM5:30を回り風が出てきて寒い、セーター等防寒をし、軽い行動食をとる。

8P(III)、草付きの上昇バンドを20m直上し、上部フランケのテラスに着くが、良いピレーポイントが無いらしく行ったり着たりで多少時間を費やす。この時点でき空は満点の星、振り向けば甲府市内の夜景が素晴らしい、だけど寒い~ヘッドランプを着け終了点を目指す。

9P(IV)、細かいフェースと凹角を30m直上しバンドテラス着、この時はもう既に周囲は暗闇状態、上部には奥壁の城塞が黒い塊として異様な雰囲気に見える。高度感は微塵も無く唯ひたすら寒さに耐え、フェースと格闘する。川元娘にとっては、初めての夜間クライミングなのでかなり厳しい、すぐ下からヘッドランプで照らし、スタンス、ホールドを指示するが、寒さもあり思うようにいかず苦闘している!.....

10P(VI)さらにフェースからクラックへと入り、またフェースへと移り、4尾根最終ピッチのリッジへ、リッジから左ヘトラバースしルンゼに入る、ルンゼを5mほど登り、枯れ木のピレーポイント着、相変わらず寒い~早く終わりたいよ~と独り言。このポイントから右下に中央稜への懸垂支点がある。ここから甲府市内の夜景は絶景である、また、四尾根越しに白根御池小屋の灯りがボツンと光るのが見える。しかし堪能している余裕はまったく無し、空には満天の星、風は強いし、寒くて震える始末。何とかして~寒いからもう山は止めようかな~なんつて!

11P(III)、もう終わりだ!リッジを登り傾斜の落ちたフェースを30mでハイマツにてピレー、やっと安定した場所に立ち3人共一息つく、それからさらに岩と砂交じりの壁を30m延ばし、ピバークポイントの平らな広場に着、しかし、またまたザイルがキンクし絡まって何時になんでもザイルは伸びてこない!、二人とも上がってこない!。

寒いよ~何とかしてくれ~10分位し

たら上がって来て、やっと全員安全な場所に揃い、登攀終了PM7時頃。



完登の握手もそこに、クライミング用具とザックをおっ放り出し、コンパクトテントを寒さに耐えながら張り、すばやく潜り込みコンロを点火、…【暖か~い】…【天国~】…落ち着いたら、腹も減り食事の支度をするが、水が少ない、今日は行動食と、持ち上げた残り少ない大吟醸で、完登の祝宴をあげ、楽しく?苦しく?寒かった!登攀の回顧をしているうち、皆に笑顔が戻り今日の登攀の話に花が咲く。《お疲れ様でした!》BPは多少傾斜しているが登攀の時を考えると、快適で天国ダ~…明日の好天に期待して、PM10時頃就寝

zzzzzz (~) ムニヤムニヤ

今回、持参した新しいザイル50mのキンクが激しく、流れない、送り出せないで、リードしていた直樹君は大分四苦八苦して苦労していたようだ。(ご苦労様でした!)

翌日(17日)、太陽の日差しがテントを染め始めた頃目が覚めた、AM5時起床、残り少ない水でラーメン2個と、もち4個でラーメンもちを作り、3人ですり合う。テントから自然現象?で、出てみると青空でピーカン、正面には雲海上に朝日で染まった富士山がドーンと聳え何とも表現できない雰囲気……これから昨日の苦しみを忘れ、また山に来てしまう。登攀具を整理してテントを撤収、AM7時に快適だった一夜のBPを後にする。踏み跡をたどり稜線へ、稜線着AM7時20分。



登山者数名と行き交う、昨日の落ち込みが嘘のように爽快な気分、稜線を15分程歩くと北岳山頂、山頂着AM7時45分頃。早朝から登ってきた登山者で山頂は賑やかである、360度の大パノラマ、富士山を始めとし、甲斐駒、鳳凰三山、間ノ岳、千丈岳、八ヶ岳など…眺望を楽しみ、脳裏に焼きつけて、記念撮影を行いAM8時10分山頂を後にし下山。



肩の小屋着AM8時40分、5分程休息をとり、遙か下に見える白根御池小屋を目指す。皆、気分は青空同様爽快なようで、ルンルン気分で草滑りを滑るように下山。白根御池小屋着、AM9時45分。小休止と軽い食

事を取り、御池小屋を AM10 時発。これから淡々とした登山道と、樹林帯を下り広河原へ。今までルンルン状態だった気分もこの下りで打ちのめされ、体力が消耗しヘロヘロ状態。だから下りは嫌いだ！…ま一登りがあれば当然下りも有るよ！、膝を騙し騙し下山し、広河原着 AM11 時 20 分。(直樹君は 11 時のようだった) 12 時発のバスには何とか間に合った。バスに乗り夜叉神峠に PM12 時 40 分着。



身支度と登攀道具を整理し、PM13 時に夜叉神峠を後にし、市営駐車場そばの温泉に入り疲れを癒し、PM14 時帰途に着く。中央高速が事故渋滞で浦和着 PM19 時 30 分頃。(夜叉神峠～広河原バス代 820 円／片道)

今回のバットレス登攀はルート的には困難ではないが、少し時間がオーバーし夜間登攀になってしまった事、また、新しいザイルのキンク処理をせずに使用したことが、大いに反省点であり、事故も無く下山できたことが何よりである。

記:N. kakegawa

=====
場所 谷川岳 一ノ倉沢南稜
日時 2006年 10月29日
メンバー 掛川、安田、鈴木(直)、川元、山下
=====

【10月29日】

立派な建物になった「谷川岳ベースプラザ」を後に真っ暗な林道を一ノ倉へ向けて歩き出す。(4:20) かつて何度も歩いたこの道を久しぶりに辿る。足裏にアスファルトの固い感触を感じながら一日の登攀への気持ちが少しずつ昂ぶってゆくを感じる。懐かしい感覚だ。
或る時は希望に燃え、或る時は不安に押し潰されそうになりながら、一ノ倉に向かう時、感じるこの気分は何年経っても変わらない。
まだ暗く沈んだ一ノ倉の出合に着く。

何人かのクライマーが登攀具を付けている。岩場はまだ闇に包まれたまま。

ゆっくりしているうちに先行パーティの4～5人が歩き始めた。
「我々は明るくなったら歩き始めればいい」
しかし、彼らを先に行かせたのが「大きな失敗」だったと後で気付く事になるのだが。
出合発(5:40)



この時期になると雪渓は姿を消し、ヒヨングリの滝が露わになるのだが、今年は思いの外残雪が残っている。色褪せたフィックスザイルに掴まりながらテールリッジをひたすら登る。

予想外な好天に加え、ほぼ無風、Tシャツ一枚でも充分な程だ。



汗だくになって中央稜の取付きに着く。衝立の垂壁を横目に鳥帽子奥壁横断バンドに目を遣ると、先行パーティが南稜テラスに向かっているのが見える。



歩き方の技量からも、あまり「岩慣れ」していないパーティのようだ。我々もそそくさと取付きに向かう。途中、中央カンテ方面のパーティから落石の洗礼を受ける前に迅速に行動しようとするが、何せ久しぶりの一ノ倉だ。小砂利の載った濡れたスラブを恐る恐る歩きながら、漸く南稜テラスに這い上がった。

登攀具で武装し、安田・山下ペアはツルベで、掛川・鈴木・川元トリオがそれに続いて南稜、1P目に取り付く。(9:00)

出だしのフェースはやや細かいものの丹念にホールドを拾いながら快調に登る。岩は硬く不安はない。チムニーは中に入らず右のフェースを登る。つい中に入りたくなって、出口でニッチもサッチもいかなくなるので初めから、横目で睨んで通過。

2～3P目、フェースを快適に超え、草付を辿る。4Pで先行パーティに追いつく、が中途半端な所でビレイしているので横をすり抜け数メートル上でピッチを切る。ここで鈴木



氏の追撃に遇い他のメンバーも追いつくが結局、先行パーティの行動待ちとなってしまう。

気温も下がり始め、じっとしていると寒くなってきた。振り返ると白毛門の大きな山塊とその右手になだらかな稜線を拡げて上州武尊が柔らかい日差しを受けている。たおやかな光景と足元に広がる一ノ倉沢の深い谷の間でゆっくりと時間が流れゆく。久しく忘れていた光景だ。



ようやく動き出した先行パーティに付いて我々もザイルを繰り出しがすぐに動きが止まってしまう。どうやら最終ピッチでかなりもついている様子だ。

遅くとも昼前には終了しないと6レンゼとテールリッジの下降にそれぞれ2時間掛かったとしてヘッドランプのお世話になるギリギリのタイム、何とか明るいうちに出来に下りたい。見上げると国境稜線には低い雲が湧き始めている。急がねば…。

6P目、高度感のあるカンテライン。硬い岩にしっかりとフリクションを効かせて高度を掴み取ってゆく。登攀の「醍醐味」だ。

安田氏から譲って貰いトップで最終ピッチを気持ち良く登る。ほぼ垂直だがしっかりとホールドのあるフェースだ。抜け口の大きな岩をガッチリと掴んで終了点に立つと、人々の充実感に満たされる。程なく全員無事登攀終了。固い握手で不安のない充実した登攀を祝う。(12:15)

…と、ここまでは良かったのだが先に6レンゼを下し始めた先行パーティが一向に動かなくなってしまった。上から眺めていてもすぐ下の懸垂ポイントでじっとしましたまだ。

登りで散々待された挙げ句、今度は懸垂でもこれでは、怒りも収まらない。「何やってんだ！ 奴ら」「懸垂でモタつくなら谷川なんて来るんじゃねえよ！」などと口汚く、罵りまくる。聞こえないように。そうは言っても急かして動くものでもなし、途中停滞を繰り返しながらも漸く井戸の底みたいな6レンゼを抜け、南稜テラスに降り立つことが出来た。



中央稜取付きまでは更に慎重に下り、先行パーティを突っつきながらヒヨングリの滝の登り返しを終えると、どうとう日が暮れてしまった。

ヘッドランプの白い光軸を頼りに沢音の徐々に大きくなる一ノ倉沢出合に着いたのは(17:45)だった。

梢の合間に半月の見え隠れする林道を、疲れた身体とは裏腹に軽い充実感に内心ニンマリしながら歩く。

カサカサと音を立てて、足元を舞う枯れ葉が木枯らしの季節が近いことを語っていた。



記：山下

場所 北岳バットレス
日時 2006年 10月07日～08日
メンバー 中山、内海、小川、鈴木(直)、北村、川元、福王子、山下

【10月7日】

7月の会山行が天候不順で流れたので、そのリベンジ山行である。出発当日まで本州を覆っていた雨雲も北に去り予報は晴天を告げていた。ただ冬型の気圧配置が強くなりそう。7日朝の集合で順調に芦安の駐車場に到着、バスに揺られて広河原へ。今日は白根お池の天場までだから楽である。しかし…雨がバラバラと…。北岳の稜線は雲に隠れている。何だか嫌～な予感がする。

お池小屋周辺は冷たい雨が吹き荒れていた。早々にテントに入り、食事＆酒のあと早めの就寝。うう…会で一番大きくてこのテントに8人は辛い…明日晴れてくれたらいいなあ。

【10月8日】

4:30起床、5:30テント発。樹林の中を二俣へ向かう。やたら寒いぞ…見上げる北岳は上部が雲に覆われているが、ん？…うげげ！ 何だか白くなってる。樹林が凍っているみたい。ってことは昨夜稜線付近は雪だってことかえ？

まあ日が昇れば溶けるだろうし何とかなりそうだ、と甘い考え。鳳凰三山の向こうから日が昇り、バットレスが金色に輝き始める。赤や黄に彩られた尾



根筋はもうすっかりと秋の装いだ。
「山っていいなあ」などと思うのはこんなときだ。



一歩一歩、高度を上げてゆく。
見上げるとBガリー、Cガリーとも凄い行列だ。
悪天によるルートの状況から殆どのパーティが4尾根主稜に集中してしまったようだ。



オーダーは小川・鈴木でピラミッドフェース、中山・北村・川元、内海・福王子・山下の2パーティが4尾根主稜である。

人数が多いので内海パーティと中山パーティはAガリーから上部岸壁を抜け横断バンドで4尾根に取り付いて渋滞路をエスケープしようと画策、これが見事に当て外れ。浮き石だらけで足の踏み場もない、側壁へ逃げようにも泥々の壁で草付をそろそろと這い上がる感じ。滑った転んだの挙げ句、やつとの思いで横断バンドに辿り着くが大幅な時間ロス。「もーやだ、あんなトコ登りたくない」「今日の核心だったんじゃね？」好きなことを口走りつつ4尾根取付へ。取り敢えず順番をキープしなくては。まるで昼時のファミレスみたいだ。



驚きの人数！取り付けのテラスに上がりきれないパーティが下で待っている。小川・鈴木パーティはピラミッドフェースを早々に変更し4尾根に取り付いている。

ここで登攀具を武装し、腹ごしらえも済ませてひたすら待つ。
前に5~6人の順番待ちは思ったより早く廻ってきた。さて行くか！
中山パーティに続いて内海パーティも登り出す。

1P目

出だしのクラックに足を突っ込むも途中で抜けなくなって大慌て。

3P目

ここで1時間半もの渋滞待ち。信じられない。
中山君は20m登ったところで先がつかえて進めずにいる。その間残りのメンバーは凍り付くような強風に煽られ続けながら、足場が安定しているので防寒着をしっかりと着込む。
う～中山君、カワイイゾ。

5P目

強風に煽られながらリッジを上がる。天気が良かつたら気分の良い高度感の筈だが、あまりの寒さに楽しむ余裕なし。またここで散々待たされる。何やってんだマッタク！

6~7P目

懸垂下降後、クラックからカンテラインを辿る。6人が殆どタイムラグなしに行動。楽しむと言うよりひたすら登るだけ。

こうなつたら日没と競争だ。何としても稜線直下でのビバークは避けたいし暖かいテントで酒が飲みたい。

17:30全員登攀終了。
シッカリ握手で無事を祝う



暮れかかって踏み跡を稜線目指して登る。もうヘッドライトなしでは足元も覚束ない暗さだ。



慎重に辿り着いた稜線は強風の吹き荒れ「エビの尻尾」が岩を覆う冬の世界だった。

仙丈や甲斐駒に連なる稜線が夕日の中にドッシリと浮かぶ莊厳な景色が拡がっている。
とてもカメラなど構えている余裕もなく一気に大権沢を下る。
先行したメンバーの後から川元娘と山下がトボトボとついて行く。それにしても夜間行動なんてホント久しぶりだ。足が痛くて堪らない。そうはいっても歩かなくては辿り着けない。

沢から吹き上げてくる風に逆らいながらやつとの思いで辿り着いたテント場では思わぬ悲劇？が待っていた。

昼間の強風でテントが飛ばされていたのだ。
中はメチャクチャ。
ランタンが割れ中はガラスだらけ、個人装備もテントごとシェイクにしたみたいになっている。
何とか元の位置に張り直し、取るものも取り敢えず片付けて何とか夕食だけは済ます。
あ～ゆっくりと酒でも飲みたかったんだけどな～。
でもこれが冬山の稜線でなくて良かった。
帰ってきたら「テントがない！」では大変なことになるからなあ。

【10月9日】

僅か2時間弱の下山路を痛む膝を庇いながらやつとの思いで広河原山荘前へ下る。

昨夜飲めなかった残りの酒とビールで乾杯。





今度は雲一つ無い稜線にキリリと立つ北岳を眺めながら広河原を後にした。
今回はルート的に十分な力量を持ったメンバーだったので充実

した山行を実践することが出来たが更に高度なルートにトライ出来るよう、研鑽を積んでゆきたいと思う。

記:山下

=====

場所 潟沢岳西尾根(冬合宿 B隊)
日時 2006年12月31日～2日
メンバー 安田(L)・風間(SL)・鈴木g・北村・福王寺・山下

=====

【12月31日(日)】
まだ明け切らぬ新穂高温泉を後に林道を歩き出す。
雪は少なめ、気温も思いの外高い。



約2時間で白出沢出合の少し先、渾沢岳西尾根の末端に取り付く。特に明瞭な道はないが笹藪の中に続く急登を喘ぎながら登る。
途中倒木をくぐったり岩根を掴んでよじ登ったりとかなりのアルバイトになるが、その分順調に高度を稼いでゆく。



旗竿を持参してくれた安田氏は引っ掛かる倒木に怒りの雄叫びを上げている。振り返ると笠ヶ岳がその胸板にベットリと雪を纏った姿で屹立している。

15時、別段早いベースでもなかったがそろそろ陽も西に傾きかける頃、2400メートル付近の台地に登り着くことが出来た。

台地周辺は6～8張りが幕営中だったが、全員での必死の整地で何とか充分なベースを確保することが出来た。

風もない穏やかな大晦日である。

軽い酒宴で過ごしこの日は終了。

新穂高着(6:00)-林道入口(7:15)-尾根取付(9:00)-2,400mテント場(15:00)



【1月1日(月)】

明るくなるのを待ち、アイゼンを付けて行動を開始する。いきなりの急登を一気に登り切り森林限界を超える辺りで、尾根は左から降りる支尾根に合流する。



下山時、視界が利かないとき、このまま真っ直ぐ降りてルートを踏み外し安い場所だ。シッカリと旗竿を立てて左上する。

目の前が一気に開け、振り返ると雪を被った北アルプスの山々が視界一杯に波打っている。



ここから更に急峻な蒲田富士を登る。下から見上げた程危険な箇所はなく、しっかりとステップを踏みピッケルを打ち込んで高度を上げる。

登り着くと更にその先にピークがあり、途中狭い雪のリッジを超えてながらの登高が延々と繰り返して行く。



一旦F沢のコルまで下り、一気に渾沢岳のビーグル目指して尾根が伸びてゆく。右半分が雪の詰まったルンゼになっている。降雪直後なら積雪状況を気にしつつ、左の岩稜沿いにピッチを伸ばす場所だが、充分に締まった雪は安心できるステップを提供してくれている。

一步一步高みに向かってアイゼンを蹴りこむ。吹き付ける西風に目出帽を下ろしヤッケのフードを深々と被る。右上に雪の鎧を被った奥穂が迫ってくる頃、無事に渾沢岳の山頂を踏むことが出来た。

雪煙が舞う前穂。振り返ると黒々とした槍の穂先が聳える。時間的にも無理できない状況ゆえ、奥穂往復は断念し往路を下る。

正直言えは冬の北ア最高峰のピークを踏みたい気持ちもあったが「また来ればいいさ」と自分自身に借りを作る事にしよう。



傾斜のある斜面を駆けるように下ると一汗かく頃に天場に着くことが出来た。大半のテントは撤収しガランとした台地で軽い酒宴となる。夜が更けるにつれ雪が舞い始めた。

幕営地発(6:00)-蒲田富士ピーク(8:30)-F沢コル(9:00)-涸沢岳頂上(10:30)-下降開始(10:45)-幕営地着(13:00)

【1月2日(火)】

今日は新穂高に下るだけだ。
重くなったテントを疊み一気に尾根を駆け下りる。

今回の山行では鈴木(G)さんが風邪で酷い体調不良だったが、下山に際しどんなに辛そうでも、最後まで装備の分担を拒み歩き通した「溪稜の先輩」としての心意気に敬服の念を禁じ得ない山行でもあった。

下山開始(7:30)-林道(9:30)-新穂高着(11:40)

記:山下

=====
場所 八ヶ岳 集中
日時 2007年2月10日~11日
メンバー 中山、鈴木 N、内海、小川、木村、福王寺、奥園、山下
=====

2月10日

美濃戸バス停より先へ車を乗り入れ河原へ降りるところから対岸に渡り奥園氏の指導の元、アイスクライミングの実地講習を受ける。バイルの振り方、アイゼンの置き方はもとより、スクリュー・ハーケンの所持の仕方など、普段気が付かない部分など実際に重要なアドバイスがあって参考になった。さすがプロの指導、と感心しきり。



奥園氏は所要の為、ここで下山となる。
天気も上々、赤岳山荘の駐車場に車を置き、歩き出す。

入山者もかなりの数が入っている。ルートの込み方が心配だ。

特急並みのペースで鈴木(直)氏が先導、皆アゴを出しながらも何とか行者小屋に到着する。疲れた身体に鞭打って整地、整地。楽しい我が家での設営に勤しむ。軽い酒宴で一日目は終了。



2月11日

翌朝、強い風の舞う天場を後に赤岳主稜へ向かって歩き出す。鈴木氏は遅れて入山する中山チーフを待つて後を追うこと。



登山道から取付点へトラバースする。すでに何パーティかがザイルを伸ばしている。

小川-木村、内海-福王寺-山下でそれぞれザイルを組み登攀開始。

登るより待ち時間の方が長く先行パーティが動いたら其処まで動く、という繰り返しにかなり疲れるが、お陰で中山・鈴木両氏も難なく追いつくことができた。雪はかなり締まっていてアイゼンもシッカリ効いて快適だが吹き付ける風が厳しい。



人間を二人も抱えているので救助出来る余裕はない。
取り敢えず赤岳頂上を目指してザイルを伸ばすのみだ。



途中、ナイフリッジ状の下山路に多少緊張するものの、夕暮れになって雲の切れた空から夕日に輝く八ヶ岳の展望を満喫しつつ下山。
遭難者救助らしきヘリが旋回しつつ沢筋に降りてゆくのが見えた。後で聞いたところによると怪我はしたが命に別状はなかったとのこと。



夕闇迫る天場に到着、明日は下山するのみ。今夜も軽い酒宴で夜は更けといった。



2月12日
全員下山。赤岳天望荘でもらった入浴券でお風呂に入り皆スッキリ。
楽しい山行でした。

【2月10日】
赤岳山荘発(12:00)-行者小屋テントサイト(15:30)

【2月11日】
BC発(6:20)-主稜取付(7:40)-赤岳山頂(14:30)
-BC着(17:00)

そのうち前後して登っていた単独登攀者が滑落したとのコールが掛かる。岩場から転がり落ち、沢筋を滑落して消えていったという。こちらも初心者に近い。

=====

場所	剣岳早月尾根(春合宿)
日時	2007年5月3日~5日
メンバー	中山(L)、鈴木直、内海、安田、瀬藤、北村

=====

5月3日(木) 馬場島～早月小屋付近(TS)
今年の冬合宿は剣岳となつたため、冬山偵察及び富山県条例適用のため冬合宿ルートを登る。
前夜6時間掛け、自家用車2台で馬場島駐車場まで入る。
着いた時間はAM4時で夜空が幾分白んでいた時間である。

我々が仮眠のテント張る一方で既に出発準備をしているパーティもあった。

7時起床で8時出発。
尾根下部に雪は無く、1400m付近から雪の上になる。
1900m台地はこんな雰囲気・バックは富山平野・日本海



小窓尾根がよく見える。
早月小屋はピーク2つ先。
思い起こせば剣岳は10年ぶり、なんて感傷にふけって登っていたら足がつった。



13:00に早月小屋着。
テント設営しながら遅れたメンバーの到着を待つ。

5月4日(金) TS～剣岳～TS
本日は頂上往復のみ。
天気良好、6時出発。
まさに雪稜を行くって感じの写真が撮れました。



獅子頭・かにのはさみなどは難なく通過し、10時に頂上。で記念撮影。





剣沢方面・小屋とテン
村が見える。



かにのはさみ下降中。
余裕？の一こま

途中、懸垂下降を1ピッヂたりして時間がかかり、13:00にテント戻る。

5月5日(土) TS～馬場島
5時半にテントを撤収し下山開始、良い天気が続く。

9時に馬場島着。

10時に上市公営浴場で風呂に入り、帰京する。



尾根上の道は時折2級程度の岩場が出てくるが、晴天下では特に問題なく通過できる。

一峰を過ぎ、二峰を急いで登り、二峰の懸垂下降点に着く。

前回数年前に来たときはここで2時間待ちだった。
今回は待ち無し。



懸垂下降後はもろい岩くずの尾根を注意しながら進む。



11時頃頂上着
帰りは別山尾根の登山道を忠実に下る。
人の行列で混雑した暑くて長い下りに3時間掛かった。
剣山荘で飲んだ生ビールはカラカラに乾いたノドには絶品だった。

8月13日(月) TS～八峰6峰Cフェース～TS
1日早く帰る木村と別れ、6人でまた剣沢を下り、長次郎雪渓に入る。

途中沖山がリタイヤ。

学生の合宿が多いから、下級生が上級生にしごかれている。

昔なつかしき歌(新人哀歌)が出てきそう。

剣稜会ルート取り付きには6時に着く。

エッ！10数人待っている。
日陰で寒い中、3時間待つ。

やっと順番がきて登り始める。



前夜自家用車3台で扇沢に入る。駅舎にて仮眠
始発のトロリーバスにて黒部ダム、ケーブルにて黒部平、ロープウェーにて大観峰、トロリーバスで室堂に入る。

途中、黒部平にてお盆のラッシュで40分待つ。

室堂出発10:00
雷鳥沢キャンプ場を経て、御前小屋までの暑い坂道を登る。
御前小屋からは剣岳を前方に仰ぎながらゆつたりと下る。



剣沢キャンプ場に着いてベースを設営する。
やっぱりえらく混んでいる。

夜は星が綺麗だった。



ルートはやさしいのでどんどんロープが延びる。

はずだったが、1ピッチ登るごとに30分待ちがある。

8月12日(日) TS～源次郎尾根～剣岳～別山尾根～TS

4:00出発。剣沢の雪渓をアイゼン履いて下る。
雪渓から草付きの取り付きは明瞭な道が付いている。
急な樹林の斜面はロープを1ピッチ張る。



あっという間に午後に
差し掛かる。ここは上
部ナイフエッジから続
くトラバース



14:00に終了。裏剣方
面が下に見える。
計画は八峰を上に縦走して頂上を越えて帰
るはずだったが、時間
切れで5・6のコルへ下
り、
長次郎雪渓・剣沢雪
渓を経てテントへ戻る
ことにする。
5・6のコルへは最後
懸垂下降した。



疲れてテントに戻った
のは18時すぎだつ
た。



8月14日(火) TS～別
山～雄山～室堂＝扇
沢(P)
テントを撤収してブチ
打ち上げ縦走をする。
別山から剣岳をバック
に記念撮影



大日岳と早月川・日本
海



八ヶ岳・富士山・南アル
プス



五色が原・薬師岳・黒
部五郎岳・笠ヶ岳



もちろん槍・穂高もバ
ッヂリ

室堂発11:00のトロリ
ーバスにて帰る。
天候に恵まれ、大展
望の合宿でした。

=====

場所 黒部川下ノ廊下と裏剣
日時 2007年10月6日～8日
メンバー 中山、内海、安田、鈴木直、木村、川
元、掛川、風間

=====

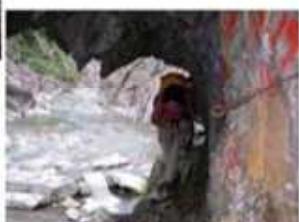
10月6日(土) 扇沢(P)=黒部ダム～内蔵助谷出
合い～下の廊下～仙人ダム(BP)



下の廊下の開通情報
が出たため無事出発
できた。
しかし、情報というの
は恐ろしい。すごい人
の集中。
黒部川沿いの細い道
が人の波でいっぱい。
内蔵助谷出会いから
下の廊下に入る。道
はものすごく良い。
まずは、新越しの滝



いよいよ谷が深くなっ
てきた。
でも道幅はしっかり
有。
慣れてくるとそれほど
でも無い。



岩をくりぬいたところもあ
りました。



白竜峡間近
白竜峡の休憩ポイント
すごい人数

白竜峡の通過



岩をくりぬいた所が続
きます。
景色と足元と頭上に
気をつけて通過しま
す。



白竜峡から歩くこと2時
間で十字峠に着きま
す。



十字峠からはさらに水
平歩道が川から高くな
り、落ちたら上るのも大
変・助けるのも大変に
なります。
2時間歩くと黒部川第
4発電所送電線引き出
し口が見えてきます。



最後に仙人ダム湖に
掛かる長い吊り橋を渡
ります。

我々は、阿曾原温泉まで行かず、だらしなく、吊り橋を渡ったところで泊まってしまいました。

10月7日(日) BP～仙人新道～仙人の湯～仙人の池～二股～三の沢(BP)



5時に出発し、仙人新
道を登り高度を稼ぎま
す。
3時間掛かってやっと
仙人谷へ下降点に着
きました。
硫黄臭さと湯煙に引か
れる風景です。

12:00に仙人の池に着きました。反対側から登つ
てくると突然、池に写った八峰が姿を現すので、
誰でも感動するようで、歓声があがりハイにな
るようです。私もそうでした。



お決まりの記念撮影。
ここに一時間も滞在し
ました。

本当なら池の平で泊まる予定でしたが、天気が悪く
なる情報があり、レンズ雲も出ており、
帰りのこともあるので真砂沢に向かうことになりました。
午後の裏剣を見ながら仙人峠から二股へ下ります。



15:00二股はすでに日が翳り薄ら寒くなっていました。



三の沢を過ぎたところ
で、何かやる気が無く
なり(10時間も歩いて
いるので疲れたのもあ
る)
ザックを降ろしたら、夕
食が始まりました。

結局ツエルトを張って寝てしまいました。

10月8日(月) BP～ハシゴ谷乗越し～内蔵助谷
～黒部ダム=扇沢(P)

夜半から雨が降り始め、AM2時頃から急激に激しくなってきました。

寝ていると三の沢を岩が転がって落ちていくような地響きを感じ、いやな予感が走りました。

2時に全員に起床してもらい撤収しながら朝食を済ませ、4時に出発しました。

剣沢を渡り、ハシゴ谷乗越への急な登山道を歩くうち夜が明けてきました。

後方を振り返ると三の沢・四の沢がキバを剥いていました。

ハシゴ谷乗越から少し内蔵助谷に下ると、斜面から水が噴出し、登山道が水に覆われて沢のようになっていました。

最初は石伝いでも良かったのですが水量がどんどん増えて、沢登り用品がほしい位になりました。1時間で下れるところを2時間掛かって下り、増水し轟音響く、内蔵助谷の鉄橋を渡りました。丸山東壁下を通過し黒部川沿いに出るまでも横切る沢の増水で靴を濡らしました。ピチヨビチヨです。キバを剥いた黒部って感じですごいの一言です。写真なんか撮る余裕はありません。冷静に、落ち着いて、舞い上がらないように、周囲とメンバーを見渡すことに集中しました。出会いの岩屋で休憩した後、万が一お助けが必要な増水があつても良い様に、シューリングを繋げて10mほどお助けを作つて出発しました。結局、内蔵助谷ほど問題は無く11時にダムのバス乗り場に着き、11:30のトロリーバスで帰りました。後で聞いた話ですが、我々が通過して2~3時間後で内蔵助谷の鉄橋で人が流されたそうです。危険か危険じゃないかとか、それを予感する・しない、そしてそれを信じて早く予防措置行動をとるつて、経験とか知識とかでは無く、人の感性に頼る部分が大きいと思いました。でも、情報を早く正しく入手し、こうなる前にもっと先に予防していたら、もっと苦労は少なくなったとも思えます。

=====

場所 剣岳・早月尾根(冬合宿)
日時 2007年12月30日~3日
メンバー 中山(L),瀬藤、鈴木直、内海、安田、
鈴木五

=====

12月30日(日)
大宮7:28発→長岡→滑川→上市着11:00
上市駅にて昼食・着替え・準備(上市駅にはコンビニのみ有・食事は出来ない)
12:00頃『上市交通』タクシーにて伊折へ。
本来は12月29日入山だったが、日本海を進む2つ玉低気圧による雨を嫌って、入山を一日遅らせた。
遅らせたために今度は強い寒気による冬型に変化。
雨より雪のほうがまだまし。
林道はあつと言ふ間に積雪が増していく。
伊折先2kmくらいにあるゲートまでならタクシーで入れそうだったが、積雪の勢いがすごいのでタクシーが上がり難い伊折から歩きになる。タクシー2台でジャンボタクシーと同じ8000円のはずが、なぜか1台分4000円で済む。実は帰りは別の会社を利用したら5800円だった。

タクシー会社は選ぶべき!
林道歩きは8km程度だが、吹雪でしかも湿雪。よつて結構濡れる。
途中で山岳警備隊の雪上車とすれ違う。
いいな~乗せてもらいたいな~なんて思っていたら、馬場島に向かう雪上車にはしっかり客がしかもぎつり乗っている。これは一体何なの?
公費で運転しているのに一般客乗せて?誤解そ

れともアルバイト??
警察庁に投書しちゃおうかな!!!!
富山県警のホームページ見ても説明は無いよ!

なんてぶつぶつ考えて歩いて馬場島16:00着。
派出所で一人一人の発信周波数が異なる『山探(ヤマタン)』を人数分受け取る。
ヤマタンを入れた封筒がかなり残っていたことから、入山しないパーティが多いことが判った。
馬場島にて幕営。

12月31日(月)
朝から大雪。60cmは積もつたと思う。
7:00出発でテント場からワカン使用。幸いなことにトレースがあり。
1時間ほど登ったところでラッセルの先頭に追いつく。
ラッセル先頭は腰から胸の雪で、ザック背負ってのラッセルはつらい。
よって、ザックおろして空荷でラッセルをおこない、交代したらザックを取りに戻るスタイルで行う。
あつという間に追いついた人間で30名近い行列。
ただ、それも3時間ほどで上部から下山してきたパーティとすれ違い終了。
雪は相変わらず吹雪状態。視界は50m~100m位。
途中、我々のパーティは遅れた鈴木五を待つているうちに、他のパーティから取り残される。
遅れるところの吹雪の日はトレースがどんどん埋まっていく.....実感した。
途中下山してきたパーティとすれ違う際、人数と山岳会名を聞かれた。
早速『1400m付近、浦和溪稜6名発見!』って無線連絡してました。
1時間歩くと寒い20分待ちが何回か続き、1700m付近でどこかのパーティがテントを張った跡を再度整地してテントを張る。
やっぱり状況が悪くなつた際には、標準的な体力を持ってないと、効率が悪くなつたり危険な目に会う可能性が増えるため、標準的な体力は必要と感じた。
テント場から上部へ続くトレースはすでに無し。翌日がおそろしい!!。



高度が低く気温もそれほど下がっていないため、よく濡れます。
よってテントの中はいつもこんな感じで干し物がいっぱい下がっています。

内海が最新オールインワン携帯電話を持ってきており、ワンセグがバッチリ入る。
これじゃラジオは不要と思える。

1月1日(火)
60cmの新雪。テントが1/3埋まった。除雪して8時出発。
いきなり胸から頭のラッセル。やっぱり予感的中!

ふかふかの新雪で傾斜が雪崩れのではないかと不安。よって樹林を絡むように尾根を上がる。

5時間かかって150m登る。ラッセル人員は我々6名。視界が利かなくてもファインディングをしっかり行うことで極力無駄な体力消耗防ぐことが大事。急な斜面を登りヒョッコリ明瞭な尾根に上がったところで、急な尾根をファインディングできずに迷っていた下山パーティと出くわす。

さらに早月小屋から下山してきた数パーティと12時すぎにすれ違う。

また『1800m付近、浦和溪稜6名発見！』って無線連絡してました。

なんだ行方不明扱いかよ！

小屋は屋根まで埋まって、小屋より上部尾根も大量の積雪。

危険・時間が掛かるとのことで下山するパーティがほとんど。

我々の登高ペースだと、本日中に小屋までたどりつきデボを回収することは無理と判断し、残念だが我々の登高もここで終了とする。

で、写真を一枚。最高到達点でこんな感じでした。



結局、下山も時間が掛かって、1200m付近15:00にテントを張る。少し雪も止んできた。今日もワンセグはバッチリだった。



1月2日(水)
今日は下山して帰るのみと思って出発は8:00とする。
出発風景を一枚写真で紹介。

積雪はほどほど。

ところが少し下ると立山川への急な尾根にはトレイスがあるが松尾平へはまったくトレイス無し。

我々も間違ったトレイスにすぐ気づいて引き返しルートを探す。

おそらく昨日下山したパーティがつけたトレイスと思われ、このまま降りれば立山川沿いの林道に出られると思える。しかし、我々単独では知見がなく途中がどうなっているが想像すらできなかったので、早月尾根を忠実に下山することにした。

正規にルートはすぐにわかったので偵察しながら慎重に下る。

なんのことは無い、30分も降りれば、松尾平からは再び明瞭なトレイス。

途中馬場島から上がってきたパーティーとすれ違い一気に下山



気分になる。11時。で、写真一枚。登れなかったのに皆にこやかでしょ！

馬場島登山口には12時すぎに着く。あと3時間歩くのがいやになり相談して本日は馬場島荘に泊まる。

山探返却時に遭難者がつけていたヤマタンを使いまわしするのか山岳警備隊員に聞いたところ、そんなことは無いと口を濁しながら言っていた？？？すると……。

馬場島荘は、風呂・食事付きで部屋にはデジタル放送受信テレビ。

さらに、写真家の佐伯郁夫・克美ご夫妻が宿泊されており、おおいに写真談義で盛り上がる。

私は佐伯先生のことを立山・黒部カレンダー『四季彩』で知った。

先生いわく、良い写真とりたきや、山が一番良くなつたタイミングでいつでもそこに出かけられる準備をして、現場に立てば誰でも良い写真は撮れる。カメラの性能じゃ無い。自分自身の心得の問題だよ。考えてみれば当たり前。写真だけじゃなく山登りも同じだと思う。

謙虚さが一番大事ということ。

そんな、思いが通じたか…天候回復で荘厳な夕焼け写真一枚。小窓尾根のマッチ箱が見える。



1月3日(木)

7時出発。3時間歩いて10:00伊折ピックアップで上市へ。本日が一番良い天気。皮肉なもの。魚津12:00のはくたかで越後湯沢経由16:00には大宮着解散。

お疲れ様でした。中山

=====

場所 八ヶ岳 裏同心ルンゼ・石尊稜

日時 2008年1月13日～14日

メンバー 中山、鈴木直、内海、福王寺

=====

1月13日(日) 美濃戸～赤岳鉱泉(TS)～裏同心ルンゼ～TS

本来は1月12日から3日間の予定だったが、季節はずれの南岸低気圧通過があり出発を一日遅らせる。

福王寺マイカー利用でAM8:30美濃戸着
美濃戸の状態はこの時期としては雪が少ない。
実は写真では良くわからないのだが前日の雨とその後の寒気で路面はアイスバーン。
やまの上のほうは雪が降って真っ白。入山者も少ないのか車もまばら。

9時に出発してアイスバーンの林道・巻き道・山道を登って11時には赤岳鉱泉に着く。



赤岳鉱泉の建物の目の前にテントを張る。
12時にはアイスクライミングの支度をして出発。裏同心ルンゼに向かう。
トレースはしっかりとしており何ら問題は無い。
1時にはF1に取り付く。



問題はF1より上部にあった。ひたすら谷を歩く。F2～F3は氷があっても2～3m。

F4～F5に至っては写真の通りほぼ全滅。ひたすら谷を歩く！！



PM2時30分には大同心基部で記念撮影完了。

ダイヤモンドダストが降り注ぐ中を大同心稜を下降する。



PM3時30分にはテントに戻る。
夕食のキムチ鍋が旨かった。もちろん美濃戸で買った白酒も旨かった。

1月14日(月) TS～石尊稜～地蔵尾根～TS～美濃戸

三又峰ルンゼか石尊稜かと思い悩む必要は、前日の裏同心ルンゼで無くなった。

素直に石尊稜取り付きに向かってAM6:00にテントを出発する。

小同心ルンゼに入り、『あれが石尊稜だ！』なんて話しているうちは良かったのだが、下を向いてひたすら歩いているうちに急にルンゼの傾斜が立ってき

ており、上に見える景色も下で見た景色と違っていた。

結果として、三又峰ルンゼ入り口を見過ごし、鉢岳ルンゼに入り、危うく日の岳リッジに取り付くところだった。

ぜんぜん素直じゃないや！

早速修正して石尊稜の取り付きへ。

幸い先行パーティが1パーティであった。

ロープは①. 鈴木・福王寺、②. 内海・中山で組む。

最初の登り始めが核心。厚いベルグラびっしりだが、アックスが良く効く。

① パーティはつるべ登攀では無いのに、とにかく速い。つるべ登攀の②パーティはどんどん引き離される。

上部リッジ手前の雪稜をコンテで進む①. 鈴木・福王寺ペア。(3倍望遠で撮影しないとわからないくらい遠くにいる。)追いつくのが大変だった。



後ろを振り返るとこんな感じです。結構高度感が出てきました。



最終ピッチ福王寺トップ！



後ろを振り返ると高度感バツチ。

終了点(縦走路)はAM11:30着。

登攀開始からここまで一回も休憩が無かったのは辛かった。

でも、苦労も吹っ飛ぶすばらしいロケーションでの記念撮影。



赤岳と南アルプス



10分ほど休憩して地蔵尾根経由で下山開始する。

トレスは連休ということでバッヂリ着いておりファインディングに問題は無い。

中山乗越から赤岳鉱泉へ向かう道から望む横岳西壁・中央部が石尊稜
(見ればすぐわかるのになぜ間違えたんだろう???)

13時30分にテントに戻る。

ゆっくり濡れたテントを日干しながら撤収作業。

14時30分に赤岳鉱泉を出発し16時には美濃戸の駐車場につく。

もちろん途中の林道ではスッテンコロリンをやりながらです。

17時前に駐車場を出発し、成人式で渋滞の無い中央高速で帰路に着いた。

=====

場所 鶴岳・小窓尾根

日時 2008年5月3日～5日

メンバー 中山、内海、鈴木直、安田、北村

=====

5月2日(土) 浦和高砂小学校前出発21:00=関越道=上信越道=北陸道=

5月3日(日)=馬場島(P)3:30 7:00まで仮眠

馬場島8:00～取水口9:00～雷岩11:30～1600mピーク13:30～1900m(TS)15:00

天候 終日快晴

富山県警派出所に入山の挨拶をし、早月尾根パーティと別れ、左に白萩川沿いの林道に入る。私は20数年ぶりの小窓尾根・そして他のメンバーは初めてであった。

20年前はこんな立派な道標は無かった。たしか、車止めのクサリがかけてあつただけだ。

地図を頼りに林道を進んだはず。



新緑に彩られた白萩川沿いの林道から見上げる小窓尾根は高く・そして遠くに見えていた。
残雪は山の上も下も少ない。

一時間歩き取水口より右岸高巻き道へ入る。

巻き道はまるで夏の頃のように暑い。
昔話で恐縮だが、夏は巻き道を進んだものだが、5月は残雪を利用して河原伝いに行けた。

一箇所渡渉はあったが水量も水深も大したことは無く、雪の上で裸足になって靴を背負って冷たい川をジャブジャブ渡って対岸の残雪上に這い上がった方が早かった。

巻き道の途中から河原に降りた。



タカノスワリのゴルジュが残雪伝いに通過できるものと思っていたが、案の定ぱっくりゴルジュが口を開けて通過を阻んでいた。

渡渉は無理なので先ほどの巻き道を登り返し、峠を越えて池ノ谷合流点対岸の残雪上に下降した。水の音がゴーゴー聞こえ残雪が少ないことが良く判る。

両岸からのブロックや落石に注意しつつ15分ほどで雷岩へ進む。

一時間のロス。しかし、ここで大休止する。

写真は雷岩と白萩川下流を見る。通常なら雪の上に雷岩は出でないはず。



先行パーティが小窓尾根に向かって雷岩より50mほど上から支尾根に取り付いていく。

雪が少なくドロ泥の尾根になっているみたいだ。



なつかしい大窓がきれいだ。いつかは北方稜線と思いつつ20年すぎてしまった。
雪が少ないのでここで水が汲める。雪解け水は冷たく美味しかった。

気を取り直し、我々も小窓尾根支尾根に取り付く。
雪の上は良いが、雪が無いところは地面むき出しのドロ壁だ。
ブッシュを掴んで無理やり登るところが数箇所。
40分程掛かって尾根上の踏み跡にたどりつく。ここから傾斜が緩み、歩きやすくなる。
さらに尾根を行くとやっと小窓尾根尾根上に上がる。
木陰が恋しい登りである。



雷岩から2時間掛かって池ノ谷が一望できる1600mピークに着く。



記念撮影その1(池ノ谷と小窓尾根をバックに)
(小窓尾根で見えていいるところは2100m付近)

記念撮影その2(北方稜線をバックに)



早月尾根パーティと無線交信後、上に向かって出発。
ゆるやかな尾根が続いている。



15:00に1900m付近のテント場に着く。
ところが残雪が少なく、尾根北側のかろうじて残った残雪を利用してテントを張ることになる。

5張りほどがひしめきあつた。

5月4日(月)

TS 5:00 ~ニードル 7:00 ~ドーム 8:30
~ピラミッド 10:00 ~マッチ箱 11:00 ~小窓の頭 12:00
~小窓王懸垂点 13:00 ~ 三の窓 14:00(TS)

天候 終日快晴
朝は少し冷え込んだので、アイゼンを着け出発。
残雪が少ないため、ブッシュ漕ぎを交えながら急な細い尾根を登る。
一時間登り2100mピーク。
ここからはニードルとドームが頭上に見えてくる。

写真中央左の急な尾根が小窓尾根。(2名が雪壁を登っている)
上部に尖った岩峰(ニードル)と丸い頂稜(ドーム)

雪壁は実際に行ってみるとこんな感じでスッパリ白萩川まで切れている。



こんな雪の割れ目も通過しました。

ニードルが頭上に迫つてくると尾根は急傾斜になってきた。



尾根を左右に登りやすい斜面を探して登る。

ニードル基部には7:00に到着した。
ここで無線交信。剣尾根の頭と早月尾根上部が良く見え始める。



昔は、ニードルの通過はトラバースルートが崩壊しつつだったので、ニードルを登って、反対側に歩いて降りるのが普通だった。ところが、ニードルが崩れ、小クワガタのハサミみたくなったのもあり、どうも迫力が無くなかった。

トラバースバンドも歩けないくらいに壊れて、それが逆に7~8mの懸垂下降で楽に通過できるようになったみたいだ。

写真だけ見ているとどこかのショートグレンデで懸垂の練習をしているように見えるが、実際は下は結構切れ落ちている。



ニードルは懸垂下降後もバンド沿いに白萩側に出て尾根上をドームとのコルへ岩稜伝いに30mほど下降する。



ドームは通常正面から右に登っていくのだが、雪が全く無くブッシュが露出しているので、白萩側の雪壁を登った。ドームの頂上からはチンネが見え始めた。写真左V字に切れた右側の一枚岩がチンネ、マッチ箱が正面に大きく立ちはだかる。



ドームからは正面に見えるピラミッドを登る。



まず、ピラミッドとのコルに下りて、尾根伝いにそのままピラミッドの壁下まで登る。

振り返るとドームの丸いピーク。

次に古いフィックスロープの掛かったバンドを5mほど右にトラバース。

その後右斜め上方へ少し、次に左上方へ少し登るとしっかりと踏み跡に乗れる。我々はここでロープを20m程使用した。

踏み跡伝いにピラミッド上半分の三角壁の基部をブッシュ伝いに右に大きくトラバースし、池ノ谷側からくる支尾根を登りピラミッドの肩に上がる。マッチ箱のコルに人が立っているのが見える。



マッチ箱のテント場。ハイ松だらけの斜面だが、ドーム頂上以降マッチ箱の頭間では唯一の避難場所。



いよいよ核心(いやハイライト)でマッチの岩場が迫ってくる。



22年前の正月にこの狭い避難所で数パーティがひしめきあって2日間に渡って冬の嵐をやり過ごした。



ここどうやって登るのだろうと思うくらいそびえ立つマッチ。



なつかしの風雪の岩稜。凍った硬いザイルが風で頭上に舞い上がり通過するだけで2時間掛かった岩稜。



あれから20年経って、5月に夏山のように乾いた岩稜を通過する。登ったり、降りたり、跨いだり、バランスで渡ったり、結構忙しいがあつという間に通過完了。



最後はチムニーと呼ばれている雪壁をのぼり、マッチの頂稜に続く尾根をひたすら一気に上がる。いよいよ北方稜線との合流が近づいてくる。

11:00 早月尾根パーティと交信する。



剣岳頂上もだいぶ低くなってきた。小窓王とチンネ、池ノ谷ガリーが間近になる。

12:00 小窓の頭に到着。
小窓尾根は終わった。



今宵の泊まり場である三の窓まではもう一息。後立山連峰の山々を見ながら小窓の頭のコルへ下り、北方稜線と合流する。100m程の高低を持つピークを雪稜沿いに2つ越えて小窓王の基部へ向かう。



池ノ谷ガリーの急斜面が近づいてきた。小窓王の基部では雪がぐちゃぐちゃに腐っているので懸垂下降の順番待ちを数分行った。

懸垂下降は見ての通りそんなには急ではなく、雪の状態次第でクライムダウンもできる程度。でも、懸垂下降は50mはたっぷりあった。



写真は我々が懸垂した場所を三の窓から見る。ノーザイルでクライムダウンする場合は、滑落したら池ノ谷左俣の谷底まで一直線だから十分注意が必要。



写真は池ノ谷左俣。
三の窓には14:00に着く。天気は良いし日は長いのでもっと先まで行けそうだったが、疲れもあつたのでここに泊まることにした。テントはジャンダルム下の池ノ谷側に張った。



富山湾の海岸線・能登半島が見えるロケーションだった。反対側は後立山連峰がきれいに見えている。夕方になると悪天を告げる高層雲が日本海より押し寄せてきた。天気予報を携帯電話のワンセグで受信。その利便性に時代の流れを感じずにはいられない。翌日の天気は確実に悪い。

5月 5 日(火)

TS 4:00 ~池ノ谷乗越 5:00 ~剣岳頂上
6:00 ~早月小屋 8:00 ~馬場島 11:30

天候 曇り時々雨

天候悪化のため時間を早めて出発した。急な池ノ谷ガリーも氷化は無くステップが切ってあれば、さして困難ではない。また気温も低くなく程ほどに雪も硬くなく、快適である。



ヘッドランプで照らされた階段登りを40分ほどで池ノ谷乗越に着く。乗越から雪稜の稜線歩きになる。



長次郎の頭は剣沢側の斜面を一気に巻いた。

写真前方は剣岳頂稜部へ続く登り。

長次郎のコルへの下降も雪が多量にあるとクライムダウンをせずに済むので大変楽だ。



写真は長次郎のコルから山頂への急な斜面。



頂上へ続く緩やかな稜線から後方を振り返る。



トラバースの長次郎の頭と八ッ峰の頭から八ッ峰

頂上にて記念撮影



剣沢方面



雨交じりのガスに煙る富山平野と富山湾／能登半島



早月尾根『かいのいのはさみ』付近の下降



少し下っただけで天気が持ち直した。



天気が悪くなっているので、ガーガー鳴きながら雷鳥君登場。2~3mと近くまで寄ってきて抗議。『人間は邪魔だからあっち行け！』だって！

早月小屋まで30分くらいのところで早月尾根パーティと交信。

正月合宿のデボ品も無傷で無事回収済み。彼らは小屋よりさらに30分くらい下にいるらしい。小窓パーティの荷下げ分は早月小屋前に置いてあった。写真は小屋前から見る小窓尾根。



高曇りで直射日光から開放され、暑くなく、寒くなく歩きには助かる。



小屋前から見る富山平野と富山湾
雪面の状況もこの上なく良い状態で歩きやすく行程がはかどる。



新緑に萌える松尾平までは2時間ほどだった。

松尾平で早月パーティに追いつき合同で下山する。松尾平はそこかしこにカタクリの花が咲き乱れていた。葉っぱは天ぷらにするとおいしいと誰かが言っていた。

馬場島に着くと、駐車スペースが無いくらい車で混雑していた。
県内ナンバーが多く、おおらかにバーベキューとかやっている。
富山県にくるといつも思うのだが、金銭では無い心の『豊かさ』を感じる。
派出所に下山報告を行い、馬場島荘で風呂に入り、13:00すぎには帰路に着く。
途中渋滞が何箇所もあり、思わぬ時間が掛かり、浦和埼大前のデニーズに着いたのは21:30だった。
デニーズで飯と清算を行い、浦和駅前で解散し自宅に戻ったのは24:00少し前だった。

参加の皆さんお疲れ様でした。

=====

場所 剣岳・早月尾根
日時 2008年5月3日～5日
メンバー 掛川、風間、川元

=====
5月2日(土) 浦和高砂小学校前出発21:00=関越道=上信越道=北陸道=
5月3日(日) =馬場島(P)3:30 7:00まで仮眠

5月3日(日) 快晴
(行程)
馬場島8:00～松尾平10:00～1600m11:30～1900mピーク15:00～2000m(TS)16:00

馬場島で仮眠、翌朝6:00頃寝不足の目をこすりながら起床、身支度を行い小窓尾根パーティーと健闘を誓いそれぞれのルートへ別れ8:00出発。
松尾平までの急登を久しぶりの山行と雪山に体調の不安を胸に牛歩で登る、松尾平までは夏道通りでさほど雪も無く順調に行く。
松尾平からは雪が出はじめ、空は青空でピーカン.....
ここからが今日のメインイベントの急登だ！今日の目的地早月小屋まで行けるかな～と不安がよぎる.....何とかなるだろう～
気温上昇に伴い真夏のような炎天下、更に雪面からの照り返しで喉の渴きは地獄.....1Lの水が見る見るうちに底をつく。
今日は快晴で、周囲の景色は最高、大日岳、小窓尾根、赤谷方面全て手に取るように見える。しかし、全体的に残雪が例年より少ない！
小窓尾根など雪稜のはずが、岩稜、緑の木々が目立ち、本当に地球温暖化の影響があるのかな.....?



小窓パーティーと定時交信を何度も交わし、お互いの位置確認、状況確認を行う。
1900mピークにpm3:00頃着、1パーティー既にテントを張って

おりのんびりとしている。ここから小窓尾根を見ると1600m当たりにテントが見える
定時交信の結果小窓パーティーは既にテントの中！我々は、あと高度を300m稼がねば今日のノルマが達成しない！.....
このペースだと小屋まで2時間はかかる.....
天気は良いし、景色も良いし久しぶりの山行を楽しみながらのんびり行くことにする！！



2000mまで登った所で、風間氏が上部ヘンバ探しに偵察に行く、少し登ったあたりで右上に小屋が見えるよ～！と、コール有り。
小屋まで行くか思案の結果、上部に見えるピークを登り廻り込んだところが小屋なのだが、このペースで行くと小屋にはpm5:00頃になりそうな為、明日の労働時間に1時間プラスする事で、4:00今日の仕事は終了とする。労働時間8時間。
早速、整地しテントを張る。今回は極力軽量化を図るという事で、鈴木氏から軽いコンパクトなテントを押借する事にした。



張り終わって、3人分のザックを入れるとかなり窮屈なので、ツエルトを張りザックと小物類をツエルトに入れ、テントの広さを確保してから潜り込み一息つく。

水用の雪を確保し、美味しい～コーヒーを風間氏が入れてくれたので身体ものんびりくつろぎ、明日の行動予定を小窓パーティーと交信する。

5月4日(月) 快晴
(行程)

2000m(TS)6:00～早月小屋 7:00～2400m8:30～2600m10:00～獅子頭下部 11:30～剣岳2999m12:00
剣岳2999M12:30～獅子頭下部 13:30～2600m14:30～2400m16:00～早月小屋 16:45(デボ品回収)～2000m(TS)18:00

朝4時30頃起床、身支度をして6時出発。今日も昨日同様快晴、やや風が強いが青空でピーカン、早月小屋が尾根の右上に見える。
今日は天気が良いし、空身に近いのでピークには立てるでしょう。早月小屋に7:30頃着く、風がかなり強いので小屋の脇で休憩し、身支度を整える。



小屋の右上にあるダケカンバの二俣に、冬用のデボ品がテープで固定されているのを確認。下山時に回収することで、これを横目で見ながら上を目指す。

昨日良く寝たのでペースは昨日より良い。……2400m当たりは夏道が出ている、冬の豪雪から考えると例年より残雪が少ないような気がする。早月尾根からは小窓尾根が目の前に見え、目を凝らしてみると稜線上に数パーティー見える。しかし雪が少なく雪稜歩きより、岩稜歩きが多いのではないかと思う。

良く見ると、1・2・3……4・5人と点で見える、あれは溪稜パーティーかな？？と3人で顔を見合わせる、遅れているのは誰だろう？？と自分たちのことをよそに、勝手な想像をする。しかし天気はすこぶる良い、また顔が雪焼けし、下山後ボロボロに皮が剥けるかな……川元嬢は顔を覆い

アラブの美女？？のように見える？？

早月尾根中間部の50m程の雪壁では、懸垂パーティーと登攀パーティーとが交差し渋滞している。懸垂パーティーがかなり雪壁の雪を落としたので途中は夏道が出ている。我々も、雪が腐っているので夏道の浮石を注意しながら50m攀じ登る。風間氏は日常のトレーニングの成果が有り絶好調、私も、風間氏を見習いトレーニングをせねばと反省をする。また、減量？？も合わせて検討有りかな……

川元嬢は剣岳が初めてなので何とか山頂に立たせてあげたい、彼女もそれなりに頑張って付いてくるので滑落だけ注意をしてあげる。何とか獅子頭の下部まで11:30には着くことが出来、最後の関門を通過すれば目の前には剣のピークだけ！上にはかなりの登山者が見える。

ルンゼの雪壁をクリアし、鎖場を通過し剣沢への分岐標識を横目に見ながら剣岳 2999mの山頂に

12:03 着、ヤッタネ！！川元さん！

頂上は人、人で満員御礼、快晴で360°のパノラマを堪能、目の前には手の届く所に鹿島がある。

30分位のんびりし写真を撮り、12:30 下山。

下りはかなり雪も腐り始めているので、足元に注意して下りる。途中2600mの雪壁は、登りの時より雪も落ち、夏道も出していたので注意して

クライムダウンでも良かったが、安全を期して懸垂をする。下りは気分爽快で、あまり休まず早月小屋まで下りる。

小屋で冬のデポ品回収、半分小窓パーティーに残しザックにつめる、ガス、ガソリン、などなど行きより重い～……

早月小屋で昨日から、おあづけになっていた待望の缶ビールを買う(600円/ケ)高いけど……喉が欲しているので高くても良い～



風間氏と一緒に飲み干す…もうい～～……満足したところでやや千鳥足でテント場まで下りる。TS着 18:00

小窓パーティーとの交信を行い明日の行動

予定を確認、小窓Pは三ノ窓に居ることで明日4:00出発の確認をする。

早月Pは明朝7時の定時交信後出発する旨を伝え本日の仕事終了。労働時間12時間、残業4時間、深夜残業なし！

酒は十分あり、明日は下山だけなので9時頃まで宴会……

5月5日(火) (曇りのち小雨)

(行程)

2000m(TS) 7:30～1900mピーク7:40～1600m9:15～松尾平10:30～馬場島11:00

5時起床、出発は7時なので少しのんびりする。食事をして下山準備をする、しかし今日はどんよりとした天気で雲も垂れ込めており天気の悪化は

早まりそう、午前中持つかな？？……7:25の定時交信を小窓Pと行う、うん！交信から飛び込んできた内容は、もう2400mに来ているとのこと

早～やばいよ！と3人顔を見合わせる、小屋でデポ品を回収して下山する旨確認。

こちらものんびり出来ないので、松尾平までは追いつかれないようにしようと！直ぐにTSを後に出発する。

1600mあたりまで下りた頃、空からボツボツ落ちてきた！雨具を着るほどでもないので先を急ぐ……松尾平手前で定時交信9:25、無線機を取り出し交信を行うと、上部に5人が見える！交信を止めコードを送る。若手は早い！！

風間氏は、松尾平のベンチまでさっさと追いつかれないよう下りていく。

川元嬢と2人で夏道を下りていくと脇の雪渓を5人が下りてきてとうとう松尾平手前で追いつかれてしまった。残念！

松尾平のベンチで全員集合し安全に下山できたことを確認し、全員で馬場島まで下山する。

安田君のザックにはデポ品の一斗缶がぐくり付けて有った……ご苦労様

労働時間4時間、残業なし

馬場島着11:00頃、中山チーフが富山県警に下山報告をし、帰りの身支度をした後、風呂に入り疲れを癒す。この頃から雨が降り始め一路浦和へ……浦和着9:30ごろ

お疲れ様でした…

場所 北岳バットレス・ローテルプラット
日時 2008年7月26日～27日
メンバー 中山、内海、安田

7月26日(土) 川越5:00=芦安6:30=広河原
8:00～バットレス沢出合い11:30～B沢の大滝下
13:00～バットレス沢出合い(BP)14:00

今回は、ウッチー車初出動！

圏央道使って白根 IC まで1時間でした。高速料金はたっぷり4000円取られた。

途中でコンビニに寄って、芦安 P はお決まりの金山沢の第8駐車場。

駐車場に車を止めて、準備を始めたら早速乗り合いタクシーが迎えに来てくれた。

(特別に事前予約したわけではない)

7:40発のバスに乗るのはいやなので、直ぐタクシーで出発。

8:00には広河原を出発できた。

計画では、始発バスに乗り、今日はバットレス4尾根から終了点でピバークし、明日、中央稜を登る予定だったが、色々出発前にあり、2時間ほど出遅れた。

天気はすこぶる良く、快晴で暑い。

しかし、大樺沢沿いの山道は樹林の下とはいえ、真夏の太陽が照りつけ暑く、行程ははかどらない。途中、道が昔に比べて付け変わったりして変化があつたにしても、二股までは遠かった。

二股下15分から雪渓になった。疲れて、二股で大休止になった。先週のシレイ沢から連ちゃんと疲れが出ていたみたいだ。

気を取り直して、バットレス沢出合いまで行く。

出合いで、またもや大休止。

実は天気の具合が良くない。雲がわくわくで、いつの間にかバットレスも見えない。

天気予報では雷との情報。

3000mの岩の上でピバーク中に雷なんて、どうか落ちてくださいと頼んでいるみたいで、とってもいや。

足取りも重く、ピバーク用の水を詰め込み B 沢大滝下まで登る。

取り付いているパーティは1～2組みたいだ。(空いている)

雪渓上に足跡も無く、大滝登ったら最後、降りてくるのは面倒くさい事になるのは明白。

天気はいよいよヤバイかんじ。

ヤッパ、やめたで水を捨て、バットレス沢出合いに戻る。

白根お池小屋に泊まる案も出たが、バットレス沢出合いに、なんとなくピバーク適地があつたりするので、

結局ここに泊まる。

15:30から夕飯を食べ、16:30頃人通りが途絶えたのでツエルトを張って寝た。

雨はそれほど降らなかったが、雷は結構近くで鳴つて、何度か目を覚ました。

7月27日(日)BP4:00～D ガリ一大滝5:00～ローテルプラット取り付き8:30～終了点10:30～頂上
11:30～広河原15:00～芦安(P)17:00～川越
22:00



快晴の朝。ツエルトで朝飯を食べていると、下からバットレスに向かうパーティが2つ来た。

我々も急いで出発。30分ほどで D ガリ一大滝下に着いた。



ここで登攀の準備を整え、鳳凰から昇る日の出を見て出発。



先行パーティは D ガリ一大滝に取り付いた。



我々は5尾根支稜から登ることにし、大滝下の岩のバンドを左に斜上した。

大滝下から見た鳳凰方面





5尾根支稜の登攀
あかるく楽しい登攀で
す。



5尾根支稜(下部岩壁)
を終え、D ガリー上部を
望む。
城砦が少し見え出す。

横断バンド上もロープ
を張りました。(2級程
度のやさしいピッチで
したが……)



やさしいだけに、傾斜
のゆるい斜面をトップ
でロープ 2 本引っ張る
のは大変です。



反面、セカンドは余裕
で振り返って景色を眺
めたり、写真を撮った
りで。

下部フランケルート(1
ピッチ目終了地点に1
パーティ)



なんとかウスユキ草(エ
ーデルワイスの亜種)
なんかも何気にあつた
り。



高山植物が咲き乱れ
ておりました。



D ガリー上部2P 目(な
んか草が多いな~)

日向の大樺沢はなん
か暑そう！



3P 目でやっとローテル
プラット取り付けのハン
グが見えてきました。

振り返るといつの間に
か高度も上がっていま
したが、雲も結構な勢
いで、湧くワクで気を
つけないと。



下部フランケのパーテ
ィ2P 目到達。
ローテルプラット取り付
けテラスでしばし休憩。
8:30暑い！



この草付きバンドを斜
上すればシュバルツカ
ンデへ。
さらに行けば上部フラン
ケの最終ピッチへ。
(4尾根からの懸垂地
点)

最近のルート図？では取り付けのハングをフリーで
登るみたいですが、30年前は人工のルートであぶ
みが必要でした。我々はあぶみを持っていなかつ
たので最近のルート図には載っていない30年前の正
規ルートを行きました。まあ要は、左方面5尾根の
ブッシュを使ってハングを巻いただけです
が……。

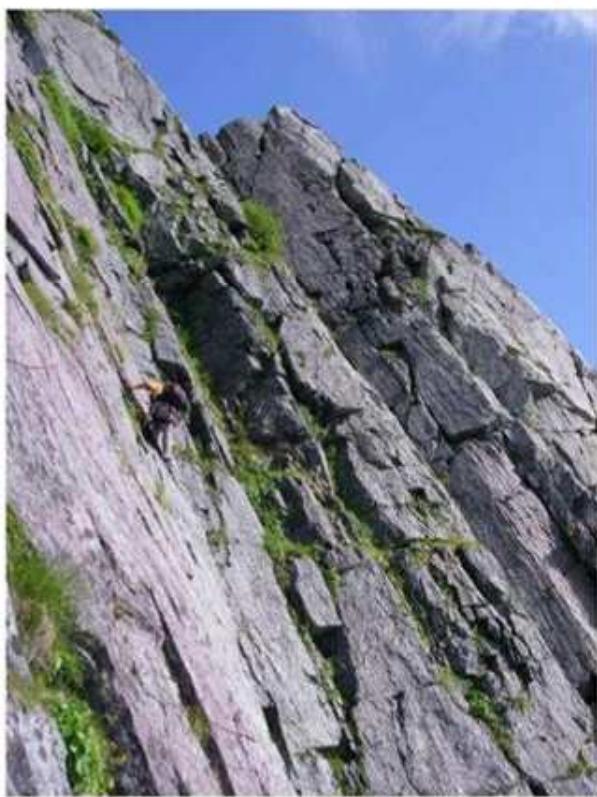
ハングを左に巻いたのは良いのですが、次は当然
スラブを右にトラバースすることになります。
最初の出だしが悪いんです。2~3mmの草の生え
たスタンスはあるのですが、ホールドはつるつるで
何もありません。スラブなので、仕方ありません。
しょうが無いので、お助けを出したのは言うまでも無
く、ハーケンも一本残置しました。



ここはクラックを上に上って、岩のバンドを右にトラバースします。



このスラブ、写真では判らないけど、赤く発色して綺麗なんです。判ります？逆相スラブなんです。
4尾根懸垂下降点が見えます。こんな位置関係です。
ここから上に伸びるクラック沿いにジャミングピッチの始まりです。



ジャミングピッチなので残置されたハーケンはありません。

登山靴で登っていた時代はちょうどクラックの幅が靴の幅に一致していて、ぴったりクラックに靴が嵌つて全く落ちる気がしませんでした。
ちょこっと出っ張りもあり、楽しめます。
出っ張りの乗り越えも楽勝でした。



ハングの上は右のDガリーに逃げて、ローテルプラット核心いやハイライトは終了です。

いつの間にか天候も怪しくなってきました。

セカンド以下もハイライトを楽しませてもらいます。



ガバホールドががっちりあり見た目ほどでは無く、以外に簡単に登れます。



天気がますます怪しくガスってきたので、んびりできません。
ルンゼ沿いにかれきテラスへ一気にロープを延ばします。



4尾根はこのパーティが独占（他にいません）



かれきテラスから1Pで終了点に到着。10:30でした。
急いで武装解除してお花畑の中を縦走路に向かいます。
でも、百花乱舞？でとてもきれいなので、花の名前講習会なんかやって、行程ははかどりました。



天気が悪いからという訳ではないかもしれません、雷鳥のひな2羽を発見。
良く見たら上の岩場でおかあさんが見守っていました。



11:30に北岳頂上につきました。あれっ？標高が1m高くなっている。

標高の認識を新たに
早速下山開始です。
でもやっぱり高山植物が咲き乱れて綺麗です。

なんかまずい天候になってきました。急いで八本歯経由で大権沢のデボ地点に戻ります。
頂上から1時間でバットレス沢出会いのデボ地点に戻りました。

そうそう、デボ地点にサル軍団がおりまして、我々の荷物が狙われていたみたいです。
登山者が通るので中々近づけず、我々が戻ったことで、ボスザルが引き上げていくのが見えました。



狙われたのが悔しい？ので石を投げつけ、大人げも無く『おしりべんべんバーカー！』をしましたが、無視されました。

デボを回収して、13:00に出発しました。生ビールが脳裏に浮かび、その勢いも手伝い、雪渓を一気に下れば下降は早い。

15:00には広河原ロッジで『お疲れ様でした、カンペイ』です。

16:00の乗り合いタクシーで芦安に戻る途中ですごい雷雨です。

前が全く見えません。南アルプス林道時間雨量10mm、短時間雨量30mmで通行止めです。
ラッキーでした。

芦安で先週と同じ温泉につかり、18:00には、またもや先週と同じ甲府の『あのロイヤルホスト』に入りました。
その後、勝沼ICから大渋滞の中央高速で帰ってきました。

=====

場所 南アルプス野呂川シレイ沢
日時 2008年7月20日～21日
メンバー 中山、山下、掛川、木村、福王寺、北村、内海、風間、鈴木五、川元

=====

7月19日(土) 21:00浦和→25:00芦安(P)仮眠

7月20日(日) 5:40芦安バス停→7:00白井橋～7:30入渓～11:00白い滝～BP14:00

白井橋で降ろしてくれるようバスに頼んで芦安を出発。

甲府からのバス一台にぎゅうぎゅうに詰め込まれ、もちろん座れないし、しかも料金は広河原までの分を取られた。
手前の立石沢までなら少し安いらしい。
バスと乗り合いタクシとでは、広河原まで@100円しか違わない。
二度とバスには乗らないと誓った。
白井橋はごらんの通り、林道の途中って感じ。



シレイ沢はごらんの通り、水量が多い。しかもガレ沢。
橋の脇にロープが沢に向かって立て下がっていたが、我々は工事用の山道を上がつ

てつり橋手前から入渓。
それにしても水量が多い。滝は全て水が宙を飛んでいる。

我々のレベルで直登できる滝はほとんど無い。左や右に巻き・巻き。

不安定な場所を巻いたり降りたりで結構いそがしい。

だけど、確実に巻き道は付いている。
時たま、滝の端っこを登らせてもらう。



この滝は全然無理。高まきです。



この滝は中段で左に高まき。

歩き始めて2時間経過するころより、花崗岩の岩床にかわり、明るい沢になってくる。
とにかく登れない滝が多い。
これも左に巻き。



やっと白い滝(F21)が見えてきた。
ここでちょっと休憩。白い花崗岩が綺麗だ。



桶状を水が流れている。登りやすそうなところを見つけて、花崗岩の岩床を登る。
わかります？白い花崗岩と新緑の緑、そして青い



空。
白い滝は直登出来ないので滝の釜左(右岸)の草付きを高巻く。
滝のほうに寄り過ぎると急傾斜の草つきで良くない。
突っ込んで行って進退窮まったメンバーをロープで救出した。



白い滝の上は渓相が一段と明るくなった。癒しの滑滝が続く。



時たま滑滝だけど全身ずぶぬれの滝もあった。ここは最初の二又出会いの右沢の滝。

ら岩壁に染み出しと間違えそうな奥の二又を左に入れる。

水量は二股、奥の二股で激減する。

14:00でまだ早かったが、稜線に出て水が無いのも暗夜行路もいやなので、一つ滝を越えたところで

小広い場所があったので、ビバークした。
夕方になつたらガスガスになって、ちょっと雨の心配をしたのが憂いだった。



7月21日(月) BP6:00～稜線9:00～薬師岳9:30～夜叉神峠バス停13:00＝芦安(P)13:30＝浦和20:00

快晴の朝です。

遡行を開始して、水の流れる滝を一つ越えたら水が消えた。

最大の滝を忠実に詰め、ひたすら白ザレの登り。(約一時間)



やがて白ザレも樹海に飲み込まれていよいよやぶこぎか?

左の樹海こしに青空が光っていたので誘われるまま向かうと、突然表舞台に飛び出したような感じ。
劇的なクライマックス?にしばし感動。ゆっくり歩みを進めれば自然と縦走路に出る。



薬師岳まで5～6分の所。



薬師岳でお決まりの記念撮影。『ザ・夏山』ってところですね!バックは北岳と間の岳。



360° 言葉不要の風景。



これから向かう夜叉神峠へ続く山並み。



南御室の小屋。

樹林の中の淡々とした道を歩いて、夜叉神峠へ。雲海の中なのか、天気が悪いのか、展望も利かず、本当に淡々と2時間たっぷり歩きました。峠の登山口で、たまたまバスが待っていたのだが、見向きもせず、乗り合いタクシーに乗った。乗り合いタクシーは駐車場に止めてある自家用車の前まで送ってくれる。便利だ。金山沢の温泉で汗を流し、甲府のロイヤルホストで飯と清算を済ませ、連休で大渋滞の中央高速に勝沼から乗って帰った。

シレイ沢は沢登りと縦走(展望)が楽しめる結構お得な沢でした。

場所 卷機山 米子沢
日時 2008年10月12日～13日
メンバー 山下、牧野、北村、川元

会山行と日数が合わないメンバーでの計画許可をもらい、前々から行きたかった巻機山・米子沢へ。

10月12日

桜坂の駐車場は百名山ハンターの車で埋め尽くされていた。

さて米子沢の入り口は？と皆が持ち寄った資料がそれぞれ違う。正解は駐車場を少し戻って工事用

林道を上り、最後の堰堤の横に降り立つ道だったのだがここで迷つて約30分のロス。

でも天気も上々でこれからの遡行が楽しみになってくる。



初めは平凡な河原歩きが暫く続く。

ところが滝が出てきて早々、一枚岩で滑って水中にドボン。頭の先まで水に浸かり、ずぶ濡れになってしまった。



シャワークライム覚悟の沢登りとはいえ、10月半ばの山中で「ずぶ濡れ」はかなりキツイ。この先、気温が上がつて乾いてくれるのを期待するのみ。

でも小さな滝を一つ一つ越えていくうち身体も温まってペースも上がってくる。

しばらくは北村氏をトップに快適にピッチをあげ上部ゴルジュ帯の基部へ。先行パーティがザイルを出して取り付いているのが見える。

水量もあり時間が掛かりそうなので左岸の踏跡を辿る。



クマザサを掴んで滑らないよう細心の注意を払って高巻くが、滝への降り口がなかなか見あたらない。踏跡を見失った北村氏とトップを交代、良~く見ると鉛目があるのを見つけてトラバースし20メートル滝の基部降り立つことが出来た。



滝心左にぶら下がったシューリングを掴んで楽に滝上に達すると米子沢「最大の楽しみ」長いナメが眼



が両側から迫ってくる。

前に続く。

両脇の見事な紅葉、正面には青空を背景に巻機の稜線がたおやかに浮かんでいる。ヒタヒタと沢靴を濡らしながらの快適なナメの感触は沢登りの醍醐味の一つだ。

時間があれば平らな岩を見つけて軽い昼寝でもしたいところだ。

身体もすっかり乾き、休んでいるとウトウトしだくなってくる。

ナメ滝を過ぎ、幾つか簡単な滝を越えると沢相は狭く水量も減って、鮮やかな錦秋の木々



奥の二俣では右は「植生保護」のため立ち入り禁止の立て札があり自然と左俣ヘルートを取る。

ここで避難小屋へ直接突き上げる沢道を見失い稜線直下の草原の中へと入り込んでしまうが、そこはもうフンワリと金色に輝く天上の楽園を歩くようだ。



一登りで池塘が点在する稜線辺りに飛び出して、米子沢の遡行は終わりとなった。

さて前から一度泊まりたかった巻機山の避難小屋へと向かう。

しかし小屋の扉を開けてビックリ。

立錐の余地も無いほど混みよう、二階に上がるとマットを拡げた先客の「一杯なんだよ！」というキツイ視線の集中砲火に退散する。

どうしようか？と思案するも今から下山するのもカッタリイ、取り敢えず4人分のスペースを空けて貰い、一夜の宿とすることに。

10月13日

狭いながらも快適に過ごした夜も明け、朝5:45 下山開始。



水溜まりには薄氷。
昨日にも増して透明度の高い空気を吸いながら白く凍った木道を慎重に歩く。

めぐるめぐ鮮やかな山肌を思う存分堪能しながら井戸尾根を降りること2時間45分で元の桜坂駐車場に降り立つ。

越後湯沢でゆっくりと温泉に浸かり関越道が混み出す前に帰京。
秋の山の醍醐味をたっぷりと味わうことが出来た山行だった。

【10/12】

桜坂駐車場(8:30)-最初の滝(9:00)-12m スダレ滝(10:10)-上部ゴルジュ 20m 滝上(11:45)-上部ナメ(12:10)-奥の二俣(13:30)-稜線(14:30)-避難小屋(14:45)

【10/13】

避難小屋発(5:45)-ニセ巻機(6:00)-桜坂駐車場(8:30)

=====

場所 秋の荒川三山と赤石岳
日時 2008年10月11日~13日
メンバー 中山、鈴木直、小川、中尾

=====

10月10日(金)

南与野22:00=畠薙第一ダム(P)3:00(仮眠)

首都高速経由清水ICまで2時間半、そこから井川ダム経由畠薙第一ダムまで山岳ラリーもどきで2時間半、合計5時間の道のりだった。『つかれた～！』

10月11日(土)

畠薙第一ダム(P)8:40=樅島ロッジ10:00~千枚小屋16:00



せっかくはるばる関東から来たのに朝から雨。ちょっとガックリ。
しかも、ナニ？ この行列。
先頭は5時から2時間並んでいるとのこと。
初めての我々は現地の事情も知らずに7時まで仮眠していた。
7:30になって東海フォレストのバスが来た。

30人乗りのバスじゃ乗り切れない。
我々は、いつ来るとも知れない二便に乗る事になり、さらに延々と待たされる。

暇だから、ダムをうろうろする。でも、雨降りなんです。予報じゃ晴れなんじゃないか？
傍にシズ鉄バスのバス停が……。でも、バスは来ない。路線が廃止だって！ 要するにここは陸の孤島。マイカーでないとほとんど来れない。
ダムサイトの駐車場は一杯になっている。昨日到着したときはガラガラだった。



関東ナンバー、東海ナンバーで埋まっている。
ダム湖の向こうは雨雲だらけ。憂鬱な時間が過ぎていった。

1時間待ってバスが来た。

バスは補助席まで使って定員一杯乗り込むのは良いのだが、荷物を置く場所は無い。
よって乗客は全員ザックを膝の上に乗せてザックを抱っこする姿勢になる。
バスは未舗装のガタガタの林道を右に左に上下に揺れながら進む。
バスの揺れは程よいハズが無く、ザックを支えながらでは、居眠りもできない。景色も見えない。
東海フォレストが乗客を運び切れずに慌てているバスの無線がBGMで耳に入ってくる。
従業員のマイカーまで使って運んでいるようだ。
早く運ばないと乗客の小屋への到着が夜になってしまうからだ。

ただ苦痛の一時間(一時間も)が経って、やっと樅島ロッジに到着。



只今、観光開発途中つて感じで、ウッドィな建物を取り揃え中。

ここは標高1120m。こ

こから歩き始め、今日

は標高差1500m登らなければならぬ。

雨は何となく小止みにはなってきた。



つり橋を渡り、深～い樹林の登りが始まる。
展望が利かず、ひたすら深～い樹林の登り1時間で少し先が見えるところにでる。

送電線鉄塔の下。
途中で気がついたのだが、この尾根を登っている人たち老若男女はみんな歩く速度が早い。

荷物が多い、少ないの差はあるのだが、我々は皆さんにパンパン抜かれる。

エッ！ また抜かれた。って感じ。登り慣れしている人ばかりで、初めては我々のみつて感じ。

北アルプスのロープウェーで行くような山登りとは



格段に異なる深い山域に入る心構えみたいなものを感じた。登山道が林道に沿うようになると天候が良くなってきた。

何のことやら判らない蕨段と言う名称の先の見晴台からは深い谷と南アルプスのジャイアントが展望出来た。この写真中央の鞍部には荒川小屋。

小赤石岳とその向こうにちょっと盟主赤石岳。

基本の深深い樹林をガマンガマンでひたすら歩き続けること6時間でやっと樹林帯に囲まれた千枚小屋に着く。

バスに乗りたいため素泊まり。建物は差別か、優遇か、判らないが、食事付きと異なる別棟になる。



別棟は母屋より一段高いところにあり富士山が正面に見える。

建物の前には三脚の列。

この写真が撮れるから。

我々は運良く窓からこの景色を酒宴のツマミに夕食のひと時をすごせた。ラッキーかも。

10月12日(日)

千枚小屋5:00～悪沢岳7:30～荒川小屋10:00～赤石岳12:30～赤石小屋15:00

本日は今回山行のメインイベント10時間に渡る稜線の縦走。



早朝5時出発。千枚岳手前で日の出。

ダイヤモンド富士にはならなかつたけど、この瞬間はいつも言葉不要。

その名の通り、赤く焼ける赤石岳



千枚岳頂上にて



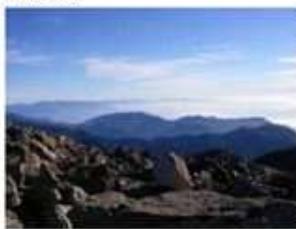
丸山(3032m)から南アルプス北部



悪沢岳(3141m)から乗鞍、御岳、中央アルプス、駒ヶ岳ロープウェーに朝日が反射して時たまキラリとその存在を教える。



これから辿る、荒川中岳(3083m)、前岳(3068m)



赤石山脈の盟主、赤石岳



悪沢岳から200mほど岩尾根を下り、緩やかに歩みを進めればきれいな中岳避難小屋



振り返れば悪沢岳の威容と富士山



中岳・前岳中間の南アルプス主稜線分岐。
30年ぶりのなつかしい場所。
北岳から一人で来た時は悪沢岳に行こうか赤石に行こうかの迷い道……。



甲斐駒ヶ岳、千丈ヶ岳、間の岳、塩見岳

さあ！なつかしの荒川小屋へいこう！



夏のお花畠の跡地……。きっと草紅葉はきれいだと思う。



鞍部に小屋が見えてきた。赤石岳はどんどん大きくなる。600mの下降。



小屋は建物も位置も変わっていた。
学生時代に一人で縦走してきたときは、無理もたたり、霧ジョンとガスの中、濡れて体温が下がり、死の恐怖に追われてやっとたどり着いたおんぼろ小屋。
このおんぼろ小屋で熱を出し、ろくな食事も出来ず、寝込んでたった一人で過ごした『あの2日間』が今につながっている。



小屋前の紅葉。あの時も10月で紅葉がきれいだった。
今日は連休のせいで人であふれている。
奥西河内源流の紅葉
大聖寺平への道を辿る。でつかいなあ～。



中央アルプスが目の前に見え、遠く奥美濃や鈴鹿の山も見える。



小赤石岳への500mの登り。



小赤石岳(3081m)から下降に使う赤石東尾根



盟主赤石岳と百間平、兎岳へ続く稜線



赤石岳(3120m)から富士山。
こんなきれいな小屋は無かった。石積み?の避難小屋の記憶があるだけ。
あの時はガスガスの雨降りで何にも見えなかった。

30年後にやっと見れた景色。
これから下る赤石東尾根と今宵の宿赤石小屋



おもしろそうな冬期ルートを提供してくれそうなラクダの背を持つ赤石東尾根。

夏道は一旦手前岩尾根をカールへ下り、途中からトラバースで尾根に上がる。



なつかしの稜線に別れを告げ、ガラガラの急な斜面を下降する。
落石注意。登りはかなりキツイと思う。



赤石沢北沢源流の紅葉がきれいだ。
やがて登山道は東尾根上に入り、再び深い樹林帯に吸い込まれていく。





今宵の泊まり場、赤石小屋。
昨日と同じで、素泊まりを理由に別棟で静かに過ごせる。

10月13日(月)

赤石小屋5:00～樺島ロッジ7:30＝畠瀬第一ダム
10:00＝南与野17:00

深い森林に覆われた秋の南アルプスの朝は暗い。ヘッドランプを付けて下降開始する。樺段と呼ばれるところを過ぎて、調子に乗ってどんどん降りる。ふっと気づいたら林道が真下に見えた。ロッジの暖炉に当って、しかも朝の日差しを浴びて、生ビールで乾杯。地元代表ってことで、ロッジのおねえちゃんに関東までの楽で早い道を聞いたが、我々の通ってきた道がベストとの答えにあきらめムードが漂う。反省した東海フォレストが一時間早くバスの臨時便を出してくれて、運良くそれに乗れた。畠瀬ダムまでは、途中バスの後ろのタイヤがパンクしたおかげで搖れが前にも増してひどくなつた以外は既に経験すみの慣れた道程に変わっていた。赤石温泉白樺荘で無料の温泉に浸かり汗を流し、一銭も落とさずに帰ってしまうことに後ろ髪を引かれ、おばちゃんのクチ車に乗って食堂で飯を食べて、長~い帰路につく。

=====

場所 親岳 早月尾根
日時 2008年12月28日～31日
メンバー 中山、鈴木、安田、小川、中尾

=====
12月28日(日) 大宮＝越後湯沢＝富山＝上市
＝伊折－馬場島荘(泊)

越後湯沢からの特急が強風のため1時間遅れで11時過ぎに富山に着く。富山駅ビルの食堂で名物？(白えび天丼)を食べ、富山地鉄で上市へ。上市駅では遅れに遅れた我々を待ちかねた旭タクシーにせっつかれそそくさと身支度を整える。上市からは4WDのワゴンタクシーで伊折に向かう。伊折から林道は運転手さんの好意で剣センターまで入ってもらう。センターからだと馬場島までの林道歩きは1時間くらい短縮される。気温はやっと0℃。高めである。雪と風が舞ういつもの林道をあるくこと2時間で16:00前には馬場島荘に着く。派出所で山探を借りる。明大が2600m付近でここ2～3日にドカ雪で胸までのラッセルで登ったり降り

たりしているとのこと。但し、本日は10パーティ入山で5パーティは早月小屋に着いたとのこと。たぶん明日以降頂上までのトレースは当てにできそう。

今回は馬場島荘に泊まる。林道歩きで濡れることを考えると、ここで濡れた物を乾かし、風呂に入って、ビールと飯とくれば、翌日の行程が楽だ。若手は元気で4杯飯を食べていた。

この小屋と派出所にて翌日以降の天気情報をもとに計画を練る。予想通り、予定通りに30日登頂し31日に下山しないと大雪になりそう。早速、長期滞在分の余分な荷物はここにデボすることになった。

12月29日(月) 馬場島荘～早月尾根～早月小屋(TS)

前夜は飲みすぎた。体を伸ばして布団で寝たせいもあるが、AM5:30に朝飯の呼び出しのTELが鳴り、やっと起きる。ぼおっ～として、しかも前夜の飯がもたれてみんな小食。私はさらに、ぼおっ～としてたので味噌汁をぶちまけて、周囲のひんしゅくを買ってしまいました。



行動中のお湯を小屋で分けてもらい7:00に出発する。

天気は晴れ。こりや良い天気だ。



トレースバッチリで夏道標準タイムで松尾平着。陽が差し込み始めた。快晴に近くなってきた。(ブナクラ方面)



高速道路である。出発から2時間で1600m付近。(1時間当たり300mペース)



赤谷(アカタン)山



1700m付近の登高。
バックは富山平野



いつのまにか天気が
怪しくなってきた。暗
雲が夕暮れとともに迫
つてくる。



3時間で1800m付
近。
1900m付近。気持ち
が良いのでついつい
今日登頂しちゃおー
か?なんて冗談も。



我が、ベーステント。
本日の夕食はジフィー
ズのカレーライスでした。
いろいろ工夫があ
り大変おいしくいただ
きました。



2200m早月小屋手前。
少々足が上がらなくな
ってきた。
ちよつと天氣
が???



16:00の天気図見
た
ら、2つ目低気圧。しか
も日本海にあるやつが
寒気を伴っている。
ヤバッ!って感じ。天
気予報も脅かしがずい
ぶん入る。



早月小屋に向こうの大
木にしっかりデポ品発
見!
頂上とそれに続く早月
尾根上部。トレースば
っちり!。ラッキー!

12月30日(火) TS～早月尾根～劍岳頂上～早
月尾根～早月小屋(TS)



おなじみ小窓尾根。

AM3:00起床。

天気は悪い。外も暗くて意氣消沈。



AM6:00に気を取り
直してヘッドランプを
照らして出発。
幸い、先行者のトレー
スが明確に残ってい
る。
雪稜に入る7:00頃明
くなり始める。



明日が天気悪いから
今日ここで一回記念撮
影。

高度を上げるにつれ風も雪も吹き荒れてくる。
冬山本チャン2回目の新人中尾は『死にそうに怖
い!』とは言っているものの、
ビビって手足が動かないわけではなく確実に・着実
に登高を続けている。
本人の性格も手伝い、手足のリーチの長さが悔し
いほど活きており、安心して見てられる。



でも、今回大量に余
るので荷下げる大変
だ。
一番重い1.8Lの焼酎
から消化開始!
天気が良いのでのんび
り雪を溶かして水を作
る。



獅子頭下の急斜面まで2時間半掛かる。
獅子頭の通過は一度
ルートを見失うが、結
局夏道のクサリ場をト
ラバースする。
その後、カニヘ。ロー
ブを使ったり、視界が
悪かつたり、とにかく時
間が掛かる。



タイムリミットぎりぎりの
11:00に頂上に着く。
頂上は比較的天気は
荒れてない。(ここまで
の途中と比較して!)
早速記念撮影。ヤッタ
ー!

休憩も無しに早速下山開始。
どんどん天候は荒れて、休憩するような風の弱い場所は無い。
休み無しで下降せざる得ない。
でも、フィックスロープがルートを示してくれ安心して確実に忠実に下れる。

テントには14:30に戻った。
雪に埋まりそうなテントを掘り起こし安堵のコーヒー
タイムをとれたのは16:00だった。
連続5時間無休憩の行動だった。
帰ってきてから気づいたのですが、私は左の小鼻
に顔面凍傷をありがたく頂いていました。

本日の夕食は年越し前蕎麦でした。1kgもありとても5人では食べ切れませんでした。
でもデボの焼酎はなんとか飲みきました。

19:00就寝前に一回、テント周りを除雪。
深夜1:00にテントが押されてきたので一回除雪で
した。
大雪です。

12月31日(水) TS～早月尾根～馬場島～伊折
=上市=富山=湯沢=大宮

4:00起床、やっぱり大雪になりました。予報的中
です。
テントはこの通り埋まりました。テントは入り口
が埋まらないように斜面側に張ったので脱
出するなんて状況では
ありません。

テントの掘り起こしは思ったより時間がかかり、出発
は7時になりました。
もちろんトレースなんてありません。
下りで腰までのラッセルで部分的には胸までのところ
もありました。
もちろんワカンを履いての話です。
でも、今日は下山するパーティが多いようで、先行者
を追いかけるように次々と出発です。結局20数人
でのラッセルですので、早い早い。

途中で下から登ってくる学生パーティとすれ違った
後は、彼らのトレースを追う。
我々は、いつの間にか先頭集団に入ってしまった。
学生のトレースは1800m付近でテント跡として消

えていた。
我々の先を行く先頭は、変な尾根に入ろうとして50
mくらい先を行っていた。
私は視界が無くても、直ぐに地形や記憶で『変だ!』
と感じた。
すぐさま安田氏持参のGPSにて確認。
ファインディングは的中でした。
自分のファインディングの成否が、GPSという文明
の利器により、画面に地図と現在位置が示された
瞬間に判定されるのです。
ファインディングは、頭の中の地形図上に常に自分
の現在位置を追いながら行きます。
このことがルートが違う・違わないの判断になり、万
が一ルートを外れた際の気づきになります。
今回の事例では、全く一步も間違えませんでした。
気づきの後の迷いやルート探しなどの時間ロスは0
分(いや0秒)でした。
それほどの強力な助っ人です。

それからは、我々が先頭でラッセル・ファインディン
グでしばらく下降しました。

途中、馬場島からラッセルして登ってくるパーティと
すれ違った後は、元の高速道路のトレースが続い
ていました。
そこで、我々の先頭も終了。
気が抜けて、疲れも出てきて、のんびりの歩きにな
りました。
11:30には馬場島荘着。山探を返却してタクシー
会社に連絡して迎えを伊折まで呼びました。
12:00に出発し、長~い林道を歩き14:30に伊折
着。
此の林道歩きはみんな疲れてしまい、しかも肩もバ
ンパンに腫れた歩きになりました。



16:00には富山に着き、
19:00の特急列車を待
つ間は大晦日でどこも
早く店じまいする中、何
とか飲み屋を見つけ、
祝勝会になりました。

大宮までも余った酒とツマミで祝勝会は続き、22時
に大宮駅で解散しました。

2年間に渡る挑戦で何とか登ることが出来ました。
皆さんお疲れ様でした。 中山

=====
場所 西穂西尾根
日時 2009年3月20日～22日
メンバー 内海、鈴木直、小川、中尾、中山
=====

3月20日(金)雨のち曇り後晴れ

8:00に奥飛騨温泉出発。いきなり前夜から雨。

憂鬱になりながら穂高平までは雨に降られる。



穂高平の小屋に着くころには雨は小止みになる。
しばし休憩。昨年2月に来た時はずっとラッセルだった。

急激に天気が回復。時折、陽が指す中を昨年と同じルートでまっすぐ西尾根に取り付く。
もちろんトレースは無い。でも2月と比べれば圧倒的に楽。つぼ足でもOKな位。
昨年2月は尾根に取り付いて2時間粘ったが折しも大雪で100mも進めなかつた。



途中でまたガスる。
2時間ほどで雑木林からつがの木の林に入る。



さらにしばらく歩いて夏道の1940mの標識で他から登ってきたトレースと合流。ずいぶん時間がかかった。

ここでテントを張るには低すぎるのでピッチを上げてトレースをたどる。

標高2100m付近より急に風が強くなってきた。視界も回復していく。



標高2300mに風の弱い樹林に中の平坦地を見つけテントを張る。
16:00。



3月21日(土)快晴
朝から快晴、強風。6:00出発。



第1岩峰はトレースが着いていたので自然に右に回りこむ。
これがちょっと失敗。
ずっと雪の斜面の巻きになってしまった。



はるか頭上は西穂頂上方面。



振り返ると乗鞍と焼岳に朝日。



急な雪面を他のパーティも交えて岩壁伝いに登る。
雪面を登っている間に第二岩峰も下を巻いていることに気づく。



だいぶ高度が上がってきた。西穂山荘が見える。



とにかく尾根に上がるということで目先に見えるコルを目指して登高する。
このあたりアイゼンは爪しか刺さらない。しかも雪面はさらに硬くしまって
いる。
結局ジャンクションピークの次のコルに出てしまった。槍ヶ岳が見える。ここから強風地
帶に入る。



ジャンクションピークと
西尾根(一番下が第一
岩峰)

ロープウェーの駅が下に見える。
ここからが核心になってしまった。
まず、先行するパーティの1名が転落・滑落……。
200mは転がっていった。凍った斜面で強風でバ
ランスを崩したか?
緊張が走り、重い空気に包まれる。
一部始終を見る。
幸い傾斜のゆるいところまで転がっていって自然に
止まった。
大きく重いザックを背負って横向きにザックごと転
がるとザックの遠心力でピッケルは刺さらない。
方向転換もできなかった。足や腕で無理に止めよう
としなかつたことが骨折を免れたようだ。
仲間が助けに下降する。

救助要請も無く、大事に至ってなさそうだったので、
自分たちのこと集中

する。
登るにつれ強風はます
ます強くなる。上部は
岩稜と雪稜が続く。
一つ岩稜を越えたら、
頂上が見えてきた。
さあ、あの頂を目指
して最後のひとがんば
り！！。
槍に涸沢岳、ジャンダ
ルムを横に眺めて最後
のがんばり。

夏とは違ひ狭い頂上に
9:30に着く。



西尾根と笠ヶ岳



残るは登りより怖い下
降。下に見える樹林目
指して下降開始。
良い天気で大展望を
楽しみながらの下降。
なぜ風が強いのか判
った。



この西尾根、涸沢西尾
根より明らかに飛び出
している。



岩稜のクライムダウン
は続く。フィックスもあ
るのだが着雪と深雪に
埋まっており使えな
い。

基本に着実にアイゼンを刻む。
途中から沢を下降することにした。
雪崩れの危険は全く無し。有るとすれば自分のクラ
ンボン技術のミスだけだ。



ミスをしないよう緊張し
て下る。
幸い、ツアッケは全て
刺さる。少し雪面が氣
温で緩んできたようだ。
早いやつはあっという
間に第一岩峰へ下る。
遅いのは新人。だが、
ここで転ぶより着実な
ほうが良いに決まっている。



11:30には樹林帯に入り、ロープウェー組と無線
交信試みるが応答無し。



よって携帯電話で呼
び出してみるとまだ鍋
平高原でロープウェー
1時間待ちとのこと。

12:00にはテント着。
明日は雨とのことで今
日中に下山決定。テ
ント撤収開始。



テンパからロープウェ
ー駅から西穂山荘へ
続く尾根。



笠ヶ岳をバックに記念撮影し下山開始。



槍ヶ岳から西銀座の山々。



西穂と西尾根。(左のピークがJP。右の高いところが頂上)



下に奥飛騨温泉。

13:30の無線交信。標高2100m付近。
帰りはトレースの大きい方をたどって夏道と思われる方向に行く。

結局沢沿いを急下降して、牧場に出る。



急下降の後は平になつたのだがとにかく潜る。ズボズボ……。
やがて大雪原の中の小さな穂高牧場の小屋が見えてきた。頭上は槍ヶ岳。15:30。

駐車場に着いたのが16:30だった。体が久々にガタガタになった。
たるまの湯で汗を流し、まつりしてからPM9:00頃、安曇野道の駅でテントを張って一泊する。

3月22日(日)雨

6:00にテントを撤収し、松本のロイヤルホストでマッタリし、午前中には埼玉で解散する。

西穂西尾根は小粒でびりりと辛く、新人クラスのレベルアップには最適です。

皆さんお疲れ様でした。

=====

場所 明神岳・東稜

日時 2009年5月2日～4日

メンバー 内海(L)、小川、鈴木直、中山

=====

5月2日(土) 晴れ

風穴の里で仮眠した後、沢渡駐車場へ。

しかし、鶴ヶ島～松本間の高速は混んだ。料金は内海号@1150円。
沢渡～上高地はタクシー。料金は一人@100円。
上高地出発7:50。



会山行では4年ぶりに明神への道を歩く。
今回は明神岳・東稜。
明神館の前に展望解説があった。

明神池へのつり橋を渡り、右に林道を進み100m

程で林の中の養魚場跡?へ入る。
建物の脇を進むと林の中の踏み跡に導かれる。
林を抜けると下宮川のガレを登る。



明神館から1時間程歩き、休憩。後ろを見ると、急傾斜だったことがわかる。



ここから道標に導かれ右に枝沢のような、ちょっとした窪に入る。



窪を抜けると広いガレ斜面。
炎天下で暑く、しかも急な斜面に喘ぐ。



明神から2時間で宮川のコルに到着。



前方を見るとひょうたん池へ向かって先行者が点々と……。



左からの落下物に気をつけて広い斜面のトラバース開始。
途中デブリも越えるが大した大きさでは無い。
暖冬で雪が少ないのだと思う。



一旦、トラバースをしてから沢沿いに登る。



宮川のコルから1時間でひょうたん池下までこれた。



ひょうたん池のテント場までは、15分も掛からなかった。12:20着。
ここまで4時間だった。



東稜を見上げると、人が点々とおり、ルートを示している。
直ぐ上の岩稜はロープを使っているようだ。

我々は、疲れたのでここでテントを張った。
午後は迷うことなくまたりと酒・酒・酒…
酒…で終わった。
ここまで冬のラッセルは結構きびしいかも。

5月3日(日) 晴れ後曇り



5時に出発できる。直後の岩稜はロープを15mほど使った。
岩稜の上の雪壁は雪が硬く縮まっているので傾斜はあっても快適に登る。
下はひょうたん池とテント場。

快適・快適と思っていたら、『テントのポール落としました』の連絡。

エー！？。
回収不能とのこと。なんだ今夜は被りか～！……。
トラバースも雪が縮まつていて登り易い。



2時間でやっと明神岳が見えた。核心のバットレスに人集りも見える。



ラクダの背から前穂も見えてきた。コルはテントが張れる。



ラクダの背に立つリーダ。



バットレスは順番待ち。
バットレス手前は雪稜になっていて、広い場所は無い。



ここで30分の順番待ち。
常念岳・大天井岳が見える。でも暇だ～！。



みんなちょっと苦労して登っている。
フィックスロープはあるのだが、数年前ここで
フィックスロープ切断事件で転落死亡事故が
起きている。
やっと我々の順番。



かないくらい高い場所にスタンスがある。
お助けが下がっている理由がわかった。
掴んで登る人、足を突っ込んで登る人、うまい人は、
そのまま登るといった具合。



我々はロープ1本で4人つながって一気に登った。



その後も陽光で緩んだ
急な雪壁は50m程続
き緊張した。
その急な雪壁も傾斜が
緩むと稜線近く。



雪が無くなり、歩きにく
い岩の道をたどればそこ
は頂上。10時30分着。



奥穂をバックに記念撮影。



どうも天気の様子がよろしくない。何となく雲も増えてきたし、風もぬるくなってきてている。
テントのポールは無いし、どうしようか？
予定では前穂の頂上を往復した後、明神尾根を下降する計画。

5峰までは冬に来ているので、明神尾根は5峰手前まで歩いて偵察とし、前明神沢を下降して上高地へ下山することにした。
早速明神岳2峰とのコルへ岩くずの積もった斜面をガラガラ落石しないように腰が引けながら降りる。



明神尾根を登ってきたパーティが懸垂下降している。我々はここを登る。
トラロープはあるが心細いのと、傾斜が急なのでロープを張る。



最初は中段まで登り、
トラバース。

結構急な登りだがスタンス、ホールド共に豊富で、見た目ほど苦勞は無かった。



懸垂下降もトラバースなので結構いやかも。



コブ尾根のアップ。雪稜に人が点々…。



2峰の頂上からは道が続いていた。でも雪が無いので快適とは言いたい。



実はこんなに離れている。



2峰と3峰間はほんの少し岳沢側をトラバース。



4峰・5峰のコル13:00。ここから前明神沢下降。でも雪が無い。ガレを少し、ハイ松帯を少し下降して雪面へ。



3峰頂上から4峰・5峰・上高地。



雪が少ないため途中では滝が露出。仕方ないので脇の尾根を一回50m懸垂下降した。滝を降りたら沢の傾斜がゆるくなった。のんびり下る。



3峰の下りが実は結構問題だった。
最初、一人が50m懸垂下降したが傾斜がゆるい上、Zピッチになりロープが回収できない。

一旦、懸垂ロープを回収し、20m懸垂し、最後はクライムダウンになった。
ここは、フィックスロープで通過するのが良いみたい。

3峰基部から5峰と上高地。

15:30に登山道にぶつかった。ここで武装解除。
1時間歩いて小梨平にキャンプ場へ。



なんとなくポールが無いテントを設営し、カッコがついたところで宴会の準備。
ここは焚き火OK。



3峰はこんな感じ。左の雪面を渡って、左中央から右へ岩脈を登り、途中から左へ登り、左の肩へ出るのがルート。



4峰から上高地。

また、ビール……酒……ワインと飲みすぎになつた。

なにか今回は、交通費より酒代が高く付いた結果になつた。

5月4日(月) 晴り

4時に目が覚め、撤収。
沢渡駐車場には6時前に着いた。
中の湯で温泉につかり、まつたりする間もなく、松本のロイホで飯と清算し、渋滞が無い高速道路を使って午後には帰り着いた。
帰りの高速代は@1200円だった。50円の差って何？。

皆さんお疲れ様でした。

=====

場所 2009年夏合宿 IN 穂高岳
 日時 2009年8月13日～16日
 メンバー 中山、鈴木直、中尾、掛川、風間、山下、木村、伊丹

=====

8月13日(木) 前夜発＝沢渡(P)＝上高地～横尾～涸沢(BC)

浦和高砂小前21:00、自家用車2台に分乗して出発。
 東松山ICより関越・上信越・長野道経由で松本IC、
 沢渡(P)1:00着
 軽い酒宴後2:00には仮眠。
 5:00起床で出発準備。装備・食料の分担分け・パッキングを行う。
 天気は曇天。何となく憂鬱な雰囲気が漂う。
 6:00にジャンボタクシー(7500円)にて上高地へ。
 上高地に到着してまもなく小雨が降り出した。空を見上げると雲が足早に北へ向かっている。
 こりや横尾まで持たない！
 上高地を7:00に出発。雲の流れ同様我々も足早に徳沢8:00着



横尾への途中で本降りになった。あーあアウト！横尾からはビシャビシャの登山道を行く。

雨に煙る屏風岩



13:00に涸沢BC設営。
 雨と風がじんじん吹き荒れ、寒くてビールなんて飲む気も起こらず午後はマッタリ持参の酒を飲んでごす。そうそう今回の食

当はN尾氏。中々几帳面で新人I丹氏をリードしながら料理してました。

結局まだ外が明るい内に寝てしまって、夜11時に目が覚めたメンバーがいたとか……。
 雨は21:00頃には上がった。



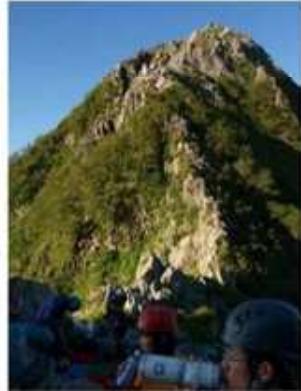
8月14日(金) BC～北尾根～前穂～奥穂～BC
 3:00起床、4:40出発。
 天気は良い。
 テントから15m程で雪渓上に出る。



雨で滑りやすくなった雪渓をそれぞれのペースで登る。
 途中で左岸の5・6のコルへの道に入る。

5・6のコルへの道は陽が射さず少々暗いが暑くなく快適。
 他にも数パーティが登ってくる。

岩くずの急な斜面を詰め上げると5・6のコル。
 7:00に5・6のコル。頭上は北尾根5峰。



富士山方面の視界・雲海がきれいだ。
 ちょっと下には奥又の宝石、奥又白池が光っている。



奥穂と涸沢岳



岩岩になる。

3峰での順番待ちがいやだったので早速出発。5峰を登る。後方は6峰。
 5峰中段までは岩くずの尾根だが上部には一瞬お花畠が広がる。
 お花畠の抜けるとまた



4峰『やな感じ～』
5峰を下ってコルへ

4峰は右から登る。



先行する山岳会からの落石がひどい。
『落石しますから気をつけてください』って。
『ふざけんな！』
落石しておいて一言も謝罪が無い。
俺ら一つも落石してねーよ！ 良く見てルートやスタンス選べよ。
そんなんじやいつか事故るよ！
4峰上部に入り落石地帯から開放。



K川氏負傷の報。
緊張が走る。
本人いわく大したこと
はない。岩にはさんだ
だけ。
後で聞いた話だが、
やっぱり落石被害との
こと。



4峰上部は大岩の乗り越しが多い。
3・4のコルで休憩。K村さんがミニトマトを配
ってくれた。旨かった。
3峰の登りを見上げる。
上部チムニーが見え
る。



少し登って登攀準備
ザイルオーダーは(N
山・K間・I丹)(Y下・
K村)(S木・K川・N
尾)

順番待ちの間に風景観賞。
順番が来て1ピッチ目の登攀。



写真は1ピッチ目テラス。



2ピッチ目チムニー右の
岩溝からテラスを望む。

岩溝途中でチムニーに空いた『窓』。奥又白池が見える。



2ピッチ目を登るK間
氏・I丹氏。バックは徳
沢。



2ピッチ目テラスにて確
保するY下氏



上から2ピッチ目岩溝
をのぞく。
岩溝を拡大するとS木
氏がいた。



『K村さ～ん、え・が・
お！』と言って撮った
一枚。本人曰く、いつ
ぱいいっぱいとの事。



2ピッチ目終了のY下氏、K村氏
2ピッチすぎると急に傾斜が落ちるのでザイルをしまい、再び岩稜を行く。



2峰の懸垂下降。Y下氏
K村さん



パーティ・ラストを務める重鎮K川会長。元気いっぱい！当然懸垂下降も余裕しやくしやく。



前穂高岳には10時に着いた。
ちょこっと休んで恒例の記念撮影。奥穂がバックです。気持ちいい！

紀美子平への下降で事件発生。
先行するN山、K村、N尾と他のメンバーが一瞬の濃い霧でばらばらになってしまった。
先行しているといつても距離は20mも離れてない。
紀美子平で待てど暮らせど20分。様子がおかしいと気づいて登り返してみたが姿は発見できず。
N尾氏に渓稜コールの発声練習を数回してもらったが応答なし。
どうも変だ。上から降りてくる人・数人に聞いてもだれもいないと言う。
40分経過し、他のルートから奥穂に向かったと判断。我々も出発。

12:30に奥穂頂上着。でもメンバーは誰もいない。
よくみたらT部井さんと公共放送アナウンサーが弁当を食べていた。もしかして登山教室のロケ？
メンバーがいないのでいよいよヤバイ雰囲気になったとき、携帯電話が鳴った。
Y下氏から



『どこにいるんだ？』
『そっちこそどこにいるの？』『お前がビールって前穂で言ってたから、途中で見失ったんで先に行ったと思い追いかけたんだ。奥穂に

いなかったから穂高山荘まで来たんだ。いなかったから電話したんだ』
あ～あやっちやったって感じでした。謙虚に反省しなければ……。
早速、穂高山荘に降りた。山荘前のテラスにメンバーが確認できた。よかった～。

山荘からザイティングラードをすごい混雑の中を下降し涸沢小屋寸前でメンバーに聞いた。
『下山祝いしない？』『ぜひお願いします』
ということで、『カンペーイ』



みんなのどカラカラ。
一気飲みで直ぐにビールは無くなった。
特に、K村さん、N尾さん、I丹さん、『祝本チヤンデビューおめでとうございます。』

涸沢のテントには15:00に戻った。テントは満杯。
テントに残しておいた装備を天日干しした。
それと一緒に酒宴も始まった。



8月14日(木) BC～北穂東稜～北穂～BC～徳沢(TS)
3時起床、4時30分発。
負傷のK川会長はテントキーパ。



北穂への道を登る。



南稜トラバース地点のガレ場で休憩。
休憩後北穂沢を横断し対岸のガレ沢に取り付く。



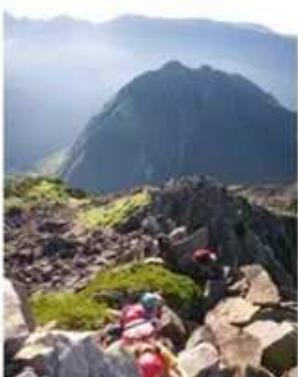
落石を出さないように、
また当らないようにガレ沢右岸を登る。
最後に簡単な枯れ滝を越えた。
滝からほんの数分で東稜に出る。



ここはお花畠。
しばし休憩する。



懸垂下降点にいるS木
氏
10mほどの懸垂下
降。
続けて降りる。



準備をして岩稜を登る。
前回来た時は道の通り
に行ったら全て巻いて
しまった。



ゴジラの背って上部か
ら見るとこんな感じ。



清潔しい稜角を登る。



続く岩稜を登る。



大岩の積み重なった
稜線を通過。
いよいよゴジラの背。こ
こでザイルを出す。
N尾氏本チャントップ
デビュー！50m目一
杯ザイルを張る。



程なく北穂頂上へ。9:
30着。早ッ！



フィックスされたロープ
を使ってゴジラを通
過。



次の目標はここ！



Y下氏Vサイン。



槍ヶ岳。

北穂の頂上はすごい人だかりであふれんばかり。
早々に撤退開始。



北穂のテント場。
南稜の夏道を下降する。
南稜の岩場も慎重に。



お花畑の道を汗ダクで下る。
テントが見えてきた。
あれ？既に撤収開始？？さすがK川会長。我々が下山しているのを発見したか？



11:00テント着。撤収開始。11:30出発。
15:00には徳沢にてテント設営。
今日も生ビールが旨い。カンバーライ！



軽い祝杯の後は、テント場にて夕食及び宴会。宴会は延々と続き、歌も出たしエロ話も出て、結局何時に寝たのかは判らなかった。

8月16日(日) TS～上高地＝沢渡(P)＝帰京
3時起床、5時出発、二日酔いで頭が重い。
6時に上高地にてジャンボタクシー7000円で沢渡(P)へ。
中の湯で汗を流し、松本のロイホで清算し、13:00過ぎには寄居Pに居た。
渋滞は始まったばかりでぎりぎりセーフ。
ここで解散し帰宅した。
参加者の皆さんお疲れ様でした。
でも、楽しかったですね！！。

=====

場所	上越 足拍子岳
日時	2010年2月13日～14日
メンバー	山下・内海・掛川・風間・鈴木 G・ 小川・福王寺・中尾・中野(2/14) 中山・安田・北村・伊丹・折原(2/13 ～14)

=====

直前になって意外にも小さな高気圧に覆われそうだった。
この時期(2月)の登頂記録が殆どない山なので成功率は極めて少ないとと思っていたが上手くいけば頂上が踏めるかも知れない、そんな気がしてきた。
先行パーティとして5名が入山しているのでトレー

スも頂いちやおうと言う算段である。

岩原の駅舎で仮眠後、土樽駅対岸の橋向こうで待つフク&アヤヤの両名と合流、AM6:00行動開始。シッカリ付いたトレース(有り難や有り難や...)を踏みしめて右上気味に尾根を辿る。ヘッドランプの灯りも要らなくなると背後に上越国境の山々に陽が当たり出し好天になりそうな予感。



【晴れ行く稜線】



8:00、先発隊のゴアライトと緑のエスパースが並ぶ平地に着く。1142m 近くの平坦地だろうか。この頃から青空が拡がると同時に気温が下がり始めたのを感じる。風も特に無く穏やかだ。



【先発隊を射程に】



【The 雪山！】
稜線が狭まり傾斜が増してくると右に張り出した雪庇に注意しながらの登高となる。雪山らしい霧囲気♪

途中、左下に切れ落ちた急斜面を直登する箇所をやや慎重に越えると前方の尖った山稜にトレースを付けている先発隊が視界に入る。もう山頂は指呼の間だ。





状況によってはナイフリッジになりそうな雪稜だが比較的安定していたため、ザイルを出す必要もなくまっすぐに伸びた頂稜に向かって暫く喘ぐと 9:37、全員が足拍子岳の山頂に立つ事が出来た。
無風快晴 2月とは思えない程、穏やかに晴れ渡っている。5年前の2月会山行で登れなかつたリベンジがやっと出来た気がした。
下りは3ピッチ程ザイルを固定し注意しながら下降する。
気温が上がってきたのでアイゼンに団子になった雪が付着して難儀する。アンチスノーブレートは必須だ。安全性が格段に違う。
一気に下山し汗だくになって 12:45、駐車場着。混み出す前の関越に乗って帰京、楽しい山行でした。

=====

場所 早池峰山・栗駒山を訪ねて
日時 2010年6月19日～21日
メンバー 牧野・鈴木(五)他 4名

=====

●6月19日(土)晴れ

「いつまで、寝てるんですか！」の声に起こされる。てっきり「道の駅」の職員に注意されたのかと思ったら、そこには、青森から来たSさんの顔があった。
昨夜、早池峰山の岳駐車場の少し手前の「道の駅」の、それも自販機のある室内(?)で団々しくも宴会後、仮眠していたのだ。

そこより、岳駐車場へ。7時半のシャトルバスに乗り込み、登山口「小田越」に着く。



※登山口の小田越。
携帯トイレを売る監視員がいた

総勢 6人(OB会員 2名を含む高校時代の先輩たち)、各々のペースで歩き始めること 30分ぐらいで樹林を抜け、岩礫にハイマツの混じる気持ちのいい道にでる。



※岩とハイマツの道を
ただ黙々と歩む

ここは高山植物の宝庫らしく、そこの間に色々な花が咲いていた。同行のE氏がレクチャーしてくれるが、興味のない私にはチンパンかんぶん。なにせ、お恥ずかしいことに、かつて高山植物の女王「こまくさ」を「こまつな」と言い間違えるくらいの人間なんだから俺に教えてダメだよ！



※何の花でしょう？ 忘れた



※赤い花忘れたその2



※お花畠、これも忘れた
その3 シナノキンバイ？

いよいよ道は急になってきた。登山道は滑りやすい。蛇紋岩という岩だそうで、黒光りしていて、乾いているのに結構滑るので要注意。



※結構、道は急に。蛇紋岩が滑りやすい



※早池峰山頂を望む。
左のこぶ辺りが山頂
おつおつ、梯子段がで
てきた。写真で見るほ
どたいしたことはないが、
少し緊張を強いられる。



※稜線にでる真近かの
一枚岩に架けられた階
段



※こんな鐵の階段が 2
本 見た目ほどではありません

各人、難なく登り終えると、しばらくして稜線に飛び出す。小湿地の木道をすぎると山頂直下には雪田が広がっていた。
※雪田現わる、いよいよ、山頂真近か。足取りも軽く





避難小屋、早池峰神社奥宮のある1917Mの山頂は北上山脈の最高峰だとか。

※お決まりの山頂記念写真、疲れていない様子

下りは河原の坊に下り(この道が結構、急なのです。監視員が言うには、中高年にはこの道を登りに勧めているとのこと)、シャトルバスで朝来た駐車場へ戻る。



※下りには北鎌尾根を思わせる(?)ような岩峰も

盛岡南ICより一関ICへ。数年前の大地震で通行止めとなっていた

た栗駒に向かう須川温泉への道が今年の5月末に開通。一路、その道をただつつ走る。時間はもう、17時をまわっていた。須川温泉に着くが、土砂降りの雨。この雨の中、良いテント場がない。やむなく、来た道を戻り、途中、名水がある駐車場にテントを張り、いつもの大宴会。水はうまいし、酒はいっぱいあるし。(ここは、最高にいいところですよ。地元の人が名水を汲みにくるところらしい。石碑あり。まだ、工事整理中なのか、翌朝、工事の人たちが上がってきていた。ちょっと気がひけたが…すみません)

<コースタイム>

浦和(18:30)→東北道柴波IC→道の駅(2:20)
小田越(8:05)→五合目(9:30)→早池峰山(10:30 10:55)→河原の坊着(13:50)

●6月20日(日)曇り・雨

硫黄の臭いがきつい。ここは栗駒山の登山口・須川温泉。ときどき激しく降る雨の中を笊森避難小屋に向かう。



※お湯が流れる須川登山口



※この岩が大地震で崩れたとか。ゴザに隠れているところが露天風呂

沢を渡り、対岸に上がる。そこよりいよいよ登りになる。かつてこの道は下ったことがあるが、登りとなるとやけに避難小屋と栗駒に向かう分岐までの道が遠かった。途中、雪渓を2本渡る。1本の雪渓で難渉する。夏道に下りるところの足場が悪い。



※第一の雪渓を渡る

ピッケル・アイゼンなし。2人、ヤブの中に突っ込み、危うく止まる。それでもなんとか脱し、東栗駒へ登る沢を横切れば、一投足で笊森避難小屋に着く。日はまだ高い、午前10時。今日はここに沈殿。小屋の側には雪田があり水豊富。小屋はログハウス風の洒落たたずまい、トイレは水洗。お泊り料はゼロ。

<コースタイム>

須川温泉→笊森避難小屋(10:00)

●6月21日(月)時々雨

昨日の足場の悪い雪渓を今度は上り(下りほどではないが、ちょっと大変)、栗駒への分岐へ。小雨が降ってきたので「このまま帰ろうか」という意見もあったが、一人張り切りボーイがおり、すでに栗駒への道へ入っていった。皆無言。やはり行こう。

階段状の道をただひたすら登っていくこと1時間半、ガスに煙る山頂に到着。何も見えず。



※栗駒山頂、「山頂は今日も～雨～だった」

どうもこの山頂とは縁がないのか三度とも雨で、絶景は望めず。下りの稜線上は風が強い。須川への分岐より本格的な下りとなる。



※緩い小雪渓。派手なザックカバーの人は誰でしょう?



ところどころ緩い小雪渓を下り、急降下すると昭和湖に着く。

※エメラルドグリーンの水を湛える昭和湖



そこからは木道の道をたどれば、終点須川はもう近い。さあ、温泉だ。

※いよいよラスト、温泉が待っているぞ！足取りも軽く



振り返ると雨も止み、迫ってきた栗駒山の稜線がくっきりと望まれた。

※返り見る秋田の名峰栗駒山

<コースタイム>
避難小屋(6:00)→分岐(6:40)→栗駒山(7:45)→須川温泉(9:50)

=====
場所 裏銀座～船窓岳～針ノ木岳
日時 2010年7月27日～8月3日
メンバー 鈴木G
=====

● 7月27日(晴れ) 新穂高温泉～双六池

痛い！やはり、この靴ではダメだったか！前回の山行で左くるぶしの辺りが痛み、心配してきたことが現実になってきた。こうなったら、もう、靴を足に慣らすしかない、と覚悟を決め、左俣林道をわさび平小屋に向けて歩き出す。荷は19キロ、少しでも軽くするため、水は最後の水場「秩父沢」までペットボトル(900ミリ 2本)には、わさび平小屋で少し入れるだけにした



しばらく車道を進み、右岸の登山道に入る。いよいよ、7日間の縦走の始まりだ。石交じりの道がつづく。
※ 小池新道登山口
さあ、いよいよ出発だ

夜行バス(毎日アルペニ号 竹橋毎日新聞社前22:30～新穂高温泉6:00 ¥7000)の疲れと、樹林の中の蒸し暑さで少々堪えるが、足の痛み以外、体調はますますのようだ。

秩父沢は雪渓が豊富に残っていて、辺り一帯はひんやりする。最後の水場だというので水を満タンにし、ジグザクの道をシシウドヶ原に向けて進む、背後の彼方には焼ヶ岳が見える。

※ まだまだ雪渓が残る
最後の水場 秩父沢



40分ほどで指導標の立つシシウドヶ原に。実はここでも、枝沢から水がとれた。ここより道は右に急旋回する。かつては大ノマ乗越にまっすぐ突き上げていたという。



沢の中の道を歩むこと1時間ぐらいで、湿地帯になると鏡平の池に出た。

※ 鏡池 穗高連峰は霧の中

残念ながら池に映る穂高連峰はガスのため全景は望めなかつたが、ここにテント場があれば最高にご機嫌の場所である。

今日はここまでの人もいるようだ。早くも生ビールを飲んでいる人もいる。こっちとらそはいかない、まだ、弓折乗越の稜線まで本日最後の登りがある。山荘より池の脇の木道を渡り、弓折岳に向けて登る。

しばらくして道はトラバース道となり、笠ヶ岳と双六岳の稜線に飛び出す。
※ 弓折乗越からの南岳～奥穂(中央キレット)を望む



あとは花見平のお花畠を経て、一路、双六池に向けて下るのみだ。



※ 雪田の中につづくトレース 左後方にかすかに鷲羽岳が



※ まさに「花見平」に咲き乱れる名も知らぬ花

しばらくすると、昨年強風の中で苦戦してテントを張った双六池のテント場が見えてきた。さあ、ビールだ！ビールだ！なぜか、足取りも軽くなってきた…。



※双六池のテント場遠望 中央に聳えるのは秀麗鷲羽岳

<コースタイム>
新穂高温泉(6:20)→わさび平小屋(7:40 7:55)→秩父沢(9:20 9:30)→シシウドヶ原(11:20)→鏡平山荘(12:20 12:35)→双六池(15:00)

● 7月28日(快晴) 双六池～水晶小屋

満天の星空の下、目覚め、4時、出発。双六小屋の横からわずかな急登で分岐点(巻き道ルート・中道ルート・稜線ルート)に着く。今日は天気も良さそうなので、稜線コースで双六山頂を目指そうと思ったら、注意看板あり。(稜線コース・巻き道コース 残雪多し、危険!)



※ 双六岳の山腹はまだ雪が多かった

ちょっと迷ったが、素直に指示に従い、昨年同様、「中道コース」を行くことにする。途中、ご来光に手を合わせ、朝露の中、お花畑の気持ちいい道を進む。そのまま行くと双六岳と丸山の鞍部に出てしまうので、途中、左に上がる道がついていたので、そのトレースを辿って行くと、山頂につづく「稜線コース」の道に出くわした。もう、そこからは山頂は指呼の距離。

槍・穂高の全景はまだ雲の中だったが、笠ヶ岳が姿を現わしている。お決まりの証拠写真を撮つてもらい、三俣蓮華へと向かう。



※ 雲海に浮かぶ穂高連峰



※ 天空を突き刺す穂先



※ 双六山頂にて



※ 雪渓の彼方に槍の全景が姿を現わす



※ 笠ヶ岳遠望

途中、丸山の登りあたりから北側も雲が切れてきて、黒部五郎の見事なカールが望めた。その右には薬師の雄姿も。



※ 黒部五郎岳の見事なカール

丸山からちょっと苦しい登りで富山・岐阜・長野を分ける三俣蓮華の山頂に着く。昨年はこの山頂は酷い風雨の中での通過であった。きょうは、穏やかな晴天の中、槍・穂高・黒部五郎・薬師、そしてこれから迫る鷲羽・水晶岳が迎えてくれている。

山頂より急降下、双六への「巻き道コース」を右に分け、這い松の中の道を下って行く。登りではそれほど感じない足の痛みが、下りになるとよみがえってくる。



※ あっ、三俣山荘が見えてきた！

しばらくの下りで、水が豊富に流れている三俣山荘のテント場に出た。



腹が減った、大休止。

※ 百名山 鷲羽と水晶岳(黒岳)

ここで予備水筒を含めて4リットルの水を持って行こうといったんは満タンにしたが、担いでみたら意気消沈。この重さで本日、最大のアルバイト「鷲羽岳」への高度差400メートルに挑むには、年を取り過ぎた。「老いては“山”に従え」とばかりに、素直に2リットルは捨てる。

山荘から仰ぎ見る鷲羽岳はさすが百名山の一つ、その雄姿は堂々たるものだ。

瓦礫のジグザクの道をただひたすら歩む。無心。右手から、かつて若き溪谷のとき湯俣から迫った「伊藤新道」が入ってくる。いまは廃道(小屋の人は「旧道」と呼んでいる)である。

歩く、無心、歩く、無心、歩く、無心……。東に北鎌尾根、硫黄尾根、背後の南にはいま越えてきた三俣蓮華、そして西には祖父岳を経て雲の平とつづく道。



※ 北鎌尾根と硫黄尾根



※ 鷲羽の登りより、三俣蓮華岳を振り返る



いよいよ、山頂間近か？ 右手眼下に紺い水を湛えた鷲羽池が望めた。

※ 眼下にブルーの水を湛える鷲羽池



10時50分、山頂。
この鷲羽岳は黒部に注ぎ込む大河の一滴がここから始まる、と言われている。

ここからはこれから辿るワリモ～水晶小屋への緩やかな道が望める。岩苔乗越への道を左に分けるワリモ北分岐を通り、お花畑の中をルンルン気分(死語か、語彙不足です)で水晶小屋へ。

※ ワリモ分岐の先の一面に広がるお花畑

ここはテント場がないので、本日は小屋に素泊まりとなる。荷を置き、空身で水晶岳へ。



※ 水晶岳へと向かう



途中、鎖場が一ヵ所あるが、なんなく今回縦走の最高峰2978メートルの山頂に立つ。
赤牛に連なる「読売新道」がまっすぐのびている(いつか、やらねば…)、そして三日後に行く針ノ木岳が、かつて行った雲の平が…。

※ 水晶よりの帰り道 小屋の奥に常念、その左は大天井岳

<コースタイム>
双六池(4:00)→分岐(4:30 4:45)→双六岳(5:40 6:00)→
三俣蓮華岳(7:30 7:40)→三俣山荘(8:25
8:50)→鷲羽岳(10:50)→
水晶小屋(13:00 13:15)→水晶岳(13:55 1
4:05)→小屋に戻る(14:40)

● 7月29日(暴風雨)前線通過のためか、一日中、雨・風強し 停滞とする

● 7月30日(曇りのち晴れ)水晶小屋～鳥帽子小屋

湿布が効いたのか、停滞休養がよかったのか、今日は痛みがない。

「よし、これならいいけるぞ！」と、東沢乗越目指してヤセた岩稜の崩壊した尾根を、気をつけながら下る。

下りついたところが、東沢谷の源頭だ。黒部湖から東沢谷を遡行していくと、ここに突き上げてくるそうだ。



※ 東沢谷を遡るとここに

今朝はまだ一面ガスが立ち込めていて、時折切れ、晴れ間がのぞく、そんな天気模様である。真砂岳から野口五郎岳への登りになる。左手に五郎池が望まれる。右から竹村新道が入ってきて少し行くと、真砂岳への分岐があった。荷を置き、山頂を目指したが、何も見えない。結局、どこが山頂やら分からなかった。

戻り、野口五郎を目指す。風が強くなってきた。雨が降っていないだけまだいい。瓦礫のジグザグの道がつく。ガスの中に突然、人影が現れたかと思ったら、そこが山頂だった。



※ 何も見えなかつた野口五郎岳山頂

野口五郎小屋に下りた頃には晴れ間もでてきた。大休止。(かつてはテント場があったが、ここは風が強く、小屋のトタンが飛ばされたり、テントが飛ばされたりして危険なので、いまでは無くなつた、と小屋の人が言っていた)

三ッ岳に向けて進む。稜線漫歩。展望コースとお花畑コースの分かれ道に立つ。迷わず、後者を辿る。これが良かった。途中、雪田があり、冷たい水が流れていたので、汗をぬぐい、さっぱりする。

すぐに展望コースと出合う。そのあたりからは、鳥帽子岳の鋭峰がかすかに見えている。広い尾根の花崗岩の砂礫地にはコマクサが咲き乱れていた。



※ 可憐なコマクサをズームアップ



※ ガスに煙る鳥帽子岳

鳥帽子ヒョッタン池のテント場に下り着く。花咲き乱れるとてもいい場所である。ここに水が流れていれば、最高なんだが…。



※ひっそり建つ鳥帽子小屋

11時半、まだ時間も早いので、一張りしかなかったテント場で、勿論、ゆっくりビールを飲む。本日はこれにて終了！



※気持ちのいいテント場(白いのが我がテント)

<コースタイム>

水晶小屋(4:45)→東沢乗越(5:25 5:35)→野口五郎岳(7:50)→野口五郎小屋(8:05 8:25)→鳥帽子小屋(1:20)

●7月31日(曇りのち晴れ)鳥帽子小屋～船窪小屋

鳥帽子小屋を後にする。小屋の横よりすぐブナタテ尾根を右に分け、縦走路は左へ。ニセエボシの登りを終え、鳥帽子岳山頂への分岐に下りる。空身で鳥帽子山頂往復に。



途中、クサリ場が三箇所あった。

※鳥帽子山頂手前のクサリ場(小屋には「自己責任で登ること」と大書されていた)

三本目のクサリを登るとそこが山頂である。字の見えない標柱がガスの中に立っているだけの岩に囲まれた、ちょっとあつけない所であった。

この日より、岩手県の男性(70歳に近いか)と、三重県のS山岳会の猛女二人(60歳半ば?)。彼女らは西穂から槍を越えて来て、私と同じ柏原新道を下るという)と同会の男性(62歳、同じく西穂から入り、な、何と彼女たちと別れ、梅海新道を経て親不知まで)との四人で、抜きつ、抜かれつ、時には一緒に進むことになる。

鳥帽子分岐より、霧の中、幻想的なエボシ四十八



池を巡り、南沢岳、不動岳へ。

※このような池が至る所にあった エボシ四十八池

本日のコース、特に南沢岳～不動岳～船窪岳への道はアップダウンが多い上に、崩壊地の脇につけられた悪路で、梯子・クサリ・ワイヤー・ロープがいたるところに出てくるという。



※崩壊地の道を下る場所が多い



※そんな悪路にも時どしてこんな花も咲いていた



※ガレた崩壊場所に架かる危うい桟道

不動岳以降は樹林の中、200メートル前後の登り下りが連続した。特に梯子段では荷がきつく、疲れた身体には堪える。ワイヤー・ロープを伝って下りる際にはストック2本が邪魔になるので、片手に短くしてまとめる。いくつ鞍部、コブを越えたであろう、ホトホト疲れきった頃、船窪岳(?)2459Mのピークに着いた。しかし、書かれていた標柱には「船窪第二ピーク」とある。

「エッ、ということは、まだこの先に山頂があるってこと？」

「そうかも、しませんね？」

「そうよ、だって、針ノ木谷に下りる乗越しがなかったもの」



「え、じゃあ、さっきの鞍部は船窪乗越しや、なかったんだ」
仕方ない、気を取り直して荷を背負い、再出発。しばらくして、今度はほんとうの船窪岳山頂。

※やっと着いたここが船窪山頂でした

そこからはロープを伝い、急降下。下り立った所が「船窓乗越」であった。左に針ノ木谷に下りて行く道がある。こんな道を下る人なんかいるんだろうか？ 谷を隔てて左手には針ノ木小屋が小さく見えていた。小屋を挟んで右が蓮華岳、左が針ノ木岳だ。



辿る尾根の右手には時折、高瀬ダムの湖面が見える。

※崩壊した山肌の先には高瀬ダムが望める

船窓小屋はある辺りか？ 見上げても、見上げても尾根はつづいている。

疲れきったころ、テント場についた。受付を出す小屋はここよりまだ20分ほど登ったところにあるという。

まずは設営、水汲みに。

『注意！ 危険ですので、水汲みは暗くなつてからは行かないでください』との看板がある。



行ってみて、納得！ そこは崖の下、ロープを伝って水場に下りて行く。

※崖の下の水場(中央三つ目の草の辺り)

ビールを買いに小屋に行く。まず、テント場より10メートルぐらいある急な梯子段を登る。そこからは山腹をからんでトラバース道が小屋につづいている。

七倉・蓮華岳への分岐をすぎると、先方に小屋が見えてきた。



※いま、人気絶好調のランプの宿「船窓小屋」

この小屋は昨今、おかみさんの人気とランプの小屋でもあり、わざわざ、泊まりにくる人が多いらしい（翌日、泊まったひとが言うには食事が抜群に良かったとのことです）。

小屋前のテーブルでは同行の三重の女性が生ビールを飲んでいる。誘われたが、あの梯子段を下りるかと思うと、いま、ここで飲みたいのはやまやまだが、安全を期して、ビールを2本買い込み、テント場に戻ることにした。

小屋の前方には槍ヶ岳が、そして前穂北尾根が輝いていた。

<コースタイム>

鳥帽子小屋(4:30)→山頂分岐(5:10)→鳥帽子岳(5:30)→分岐(5:45 6:10)→

船窓第二ピーク(12:05)→船窓山頂(13:40)→船窓テント場(14:55)〈水場下り5分、登り10分〉

● 8月1日(晴れ)船窓小屋～針ノ木峠

まっすぐ進む七倉尾根(船窓小屋へ)を見送り、指導標に従い左へ七倉岳を目指して登って行く頃には、左後方に立山が朝もやの中に、姿を現わしていた。今日も天気は良さそうである。



※立山遠望

七倉岳山頂より200メートルほど七倉乗越に向かって急降下、鉄の梯子を下りきると、乗越である。



※七倉岳

右手下の七倉沢より、涼しい風が吹き上げてくる。大口を開け、朝の新鮮な空気を一杯吸い込む。北葛岳へ登り、再び、300メートルほど北葛乗越へ向けて下る。下り立った北葛乗越からは針ノ木谷に下りる道があった。

大休止。

ここからは蓮華岳に向けて、500メートルの登りとなる。眼前には岩壁が立ちちはだかっている。まず、レンゼ状の中につけられている鎖を伝い、登って行く。足場はしっかりしているので見た目ほどではないが、



少々、緊張を強いられるところだ。

※北葛乗越からレンゼの中のクサリ場の登りへ



クサリ、梯子とつづく。下からは三人が登ってくるので、落石に気をつけなければならないので、かえって神経が疲れる場所であった。

※鎖がつづく、まだまだつづく

やがて、安全な場所に入り、小休止。そこからは、暑い陽射しの中、蓮華に向けて、ジグザクの道を進む。岩層の急斜面は「蓮華の大下り」と言われるところで、さしつめ、逆コースなので「蓮華の悪戦大上り」といったところか。なぜか、フシギなくらい、岩層の大きさが同じなのだ。何んでなのだろう？

一步、一步、また一步……牛歩のごとき歩みでも、時間が経てば目的地に辿り着く。11時ジャスト、山頂着。山頂には祠があった。



※暑さの中、たどりついだ蓮華山頂



蓮華岳よりは大きく道は西へ曲がり、針ノ木峠に下っている。緩い斜面にはコマクサが咲いていた。
※眼下に針ノ木小屋が迫ってきた



※針ノ木峠の道標の裏にはあの有名な大雪渓がある

登ってくる人が多くなってきた。峠より蓮華山頂を往復する人たちである。ジグザクを急降下すると峠に下り立った。
すると、目の前に白いヒゲ面の男が立っているではないか！
「あつ、塚越さん！（高校の1年先輩。元溪稜会員。穂高町在住）」
と叫ぶと、あっちも目を白黒させて、「おお、なんで五郎がここにいるんだ！」
とびっくりしている（近所の人たちを連れて、日帰りで針ノ木雪渓を上がってきたが、ひとり具合が悪くなった女性がいたので、数人が蓮華に向かっている間、峠で待っていたのだ）。
奇遇だ。数分ずれたら分からなかつた。こんなことがあるものなんだな、とお互い感心しながら、しばらくしゃべり合つた。そして二日後、扇沢下山後に連絡をすることを約し、別れたのであった。

<コースタイム>

船窪テント場(5:10)→七倉分岐(5:30)→七倉
乗越(6:25)→北葛岳(7:30 8:00)→
北葛乗越(8:45)→蓮華岳(11:00 11:25)→
針ノ木小屋(12:15)

● 8月2日(快晴)針ノ木峠～種池山荘

寒い！ 寒さで目が覚める。白みかけた空には星が瞬いている。きょうも天気は期待できそうである。今日辿る針ノ木～スバリ～赤沢岳～鳴沢岳の稜線がはつきり見える。

小屋の裏手より、針ノ木岳への登りに入る。右手前方には爺ヶ岳の奥に双耳峰の鹿島槍が、左手には一昨日、苦戦した不動岳から船窪岳へ連なるアップダウの多い尾根が見える。こちら側から見ると、改めてその登り下りの多さになるほど、大変だったことがよく分かる。

瓦礫の急斜面を斜上する。ハイマツ帯になり頂上が近づいてくると、針ノ木岳とスバリの鞍部にどこでかい山が出現した。劍岳だ。その威容に息をのむ。



※突然、劍が……

針ノ木山頂。絶景とはこのことを言うのだろう。立山・劍が眼前に迫っている。源次郎尾根・ハッ峰・長次郎雪渓が。そして改めてよく見ると、五色ヶ原～獅子岳～鬼岳～竜王岳～立山～別山～劍の山々が……。



※針ノ木山頂 立山・劍の雄姿が眼前に



※立山全景

三重のステキな猛女が上がってきた。
「あれ、男性は？」
と聞くと、彼は親不知まで行くので、先を急ぐので早立ちし、別れたとのこと。
朝食（起き抜けは食欲がないので、いつも1時間後ぐらいの最初の休憩で摂っている）後、スバリ岳に向か、先に下りる。岩がゴロゴロした嫌な感じの道を鞍部まで下り、スバリ山頂に瓦礫の道を登り返す。



※スバリの登りより針ノ木岳を振り返る



※スバリ岳が迫ってきた



※スバリ山頂と立山



※越えてきたスバリ・針ノ木の岩峰

この先、登り下りがつづくスバリ～赤沢岳～鳴沢岳の岩稜帯からは常に立山・剣の雄姿が望まれ、時に、眼下に黒部の湖面が顔を覗かせていた。こんなに、剣・立山を見続けられたのは初めてである。



※黒部湖 左、湖面にかすかに白く見えるのは走る船



※剣岳の上にトンボが飛んでいる！？

赤沢・鳴沢間の真下には「関電針ノ木トンネル」が通っている。あの裕次郎が映画「黒部の太陽」のラストシーンで見せた場所が、おそらくこの辺りかと思う。

鳴沢岳を通過。露岩帯を新越山荘に向かって降下。山荘よりは緩やかなお花畑がある尾根を岩小屋沢岳に登り、種池へ。



※新越山荘からのお花畑を分ける道

種池山荘から2時間半、一気に扇沢ターミナルに下りようかと思ったが、既に歩きつづけて9時間過ぎていたし、やはり疲れた身体でのラスト2時間半は「老いたからだ」に転んでもいいと思い、やめた。だんだん、若さを失ってくると、考えも軟弱になってくるようだ。ま、それも、仕方ないか！

早々にテントを張り、いつものように「ビールの人」となってしまった。

<コースタイム>

針ノ木小屋(5:10)→針ノ木岳(6:20 6:55)→スバリ岳(7:40)→赤沢岳(9:45 10:00)→鳴沢岳(11:00)→新越山荘(11:35 11:50)→岩沢小屋岳(12:45 13:00)→種池山荘(14:20)

● 8月3日(快晴)

いよいよ、下山日だ。種池山荘を後に、扇沢への道を下る。越えてきた蓮華岳・針ノ木峠・針ノ木岳が朝日に輝いている。



※小屋より爺ヶ岳南峰を望む



※よく整備されている柏原新道



※さらば！ 蓮華と針ノ木岳

柏原新道は爺ヶ岳南尾根の山腹をからんで、緩やかに下っている良く整備された道である。

五月、鹿島槍に登った折、テントを張ったところはあの辺りかも？ と南尾根を眺めながら、快適に下って行く。

途中、雪渓を横切る。つづいて、ガレ場を通過する。たしかに、この辺りは雪崩が起きそうなところである。

五月、この柏原新道が使えないのが納得できる。

大分、下ってきた。南尾根の取り付きはこの辺りだったんだろうか？ 二箇所、そんなところがあった。1900と1800メートルの辺りである。おそらく、1800地点だったようと思える。五月とは趣が異なっているので、はっきりとは確認できなかったが。

バスが着いた時間なのか、上がって来る人が増えてきた。いよいよ、今回の縦走もフィナーレに近づいてきたようだ。(完)

<コースタイム>

種池山荘(5:10)→扇沢出合(7:40 扇沢バス発8:55)→大町温泉郷「薬師の湯」

=====

場所 湯桧曽川支流高倉沢廻行

日時 2010年8月22日

メンバー 牧野、風間、鈴木 G、山下、北村、掛川

=====

久しぶりに時間が取れたので、21日(土)8:30 牧野→鈴木 G→山下→風間宅の順でお迎えにあがり、中高年で高倉沢

へ水遊びに行ってきました。

一番若い北村君は、仕事の都合で土曜日からの参加が無理な為、翌日土合駅 AM6:00 に参加。これで全員そろい高倉沢へ

前日、土合駅に12:00頃到着。駅舎内は暑いのと明るく虫が多いため、駅舎前の広場で早速それぞれ好みの酒を持ち合い酒宴となる。

徹夜の酒宴かと思いきや、飲兵衛連中にしては意外と早く2:00終宴となり就寝！ zzzzzzzz

前日の早い？？終宴のせいかあまり二日酔いも無く、楽しく水遊びをしてきました。

今回の高倉沢は、湯桧曽本谷・白毛門沢等、人気の沢と異なり我々以外には入渓者はおらず、静かな雰囲気で楽しい水遊びでした。

沢の身支度をして土合駅 6:30 発、舗装道路を湯桧曽駅方向へ 10 分程歩きトンネルを抜けたところで、踏み跡に沿って湯桧曽川に下降。

浅瀬を探して対岸へ渡渉、さらに下流方向へ 100mほど移動。

高倉沢の水量がチョロチョロと少なく、また入渓口が倒木で狭くなっている為、注意しないと見落としかねない。



倒木を跨ぎながら少し進むと、沢は右へ曲がり水量の多い三段で約30mのF1が現れ、ここから水量は多くなる。

酒豪達就寝！



F1:30m 中段にて、上部は25m この下に5mの滝あり
下降中の2人



F1:30m ここは右岸の濡れていないところを登攀、初心者がいたらザイル要！



左股:ハングした滝 25m…登攀不可、右岸の草付きスラブを登り落ち口へトラバースする。
入渓者が少ないせいか、踏み痕が無くトラバースが草付きと足元がドロドロなのでスリップ注意！！



左股：大滝？ 25m 左岸の草付き交じりを登るが、滝側に寄るとコケで滑るので注意！



上部から見た大滝、上から覗くと傾斜があり、高さもある。



左股:大滝 25m



左股:大滝 25m 取り付けて…北さん



左股:大滝 25m

F1 の滝を登ると滑が続き暫く行くと、F2 で 20m ほどの滝が出現する、水量が多く直登は不可。右岸の草付きに Fix ロープが張られており、ごぼうで登る。少し傾斜があり足元が滑るので注意！

F2 を過ぎてゴーロ状を暫く行くと、二俣になり右の沢に入り右股遡行となるはずだったが、水量と大きさが 3:1 位で気まずかず直進してしまった。途中小滝をいくつか越えると、大滝が幾つか出現し最後の 25m の大滝？になる。……ここで渓相の雰囲気の違いに気付いたが、戻って右股に行こうかとの話もあったが、上に稜線らしきものも見えているので、左股をこのまま詰める事に決定！……

しかし、20 分程詰めた当たりで、水量が細くなり伏流してしまい源頭の雰囲気となる！……上を見上げると、稜線までかなりの藪漕ぎだ～。資料だとここからどうも 2 時間の藪漕ぎらしい…………この暑さで藪漕ぎはやだ～…………全員即決！で下降となる！(10:30頃)

右股遡行は次回の楽しみとして、3回ほどの懸垂下降で F1 下に下山となる。途中二俣を確認したが後の祭りでした。(岩の上にケルン有り)

湯桧曽川を渡渉し、道路まで這い上がりトンネルを抜け、土合駅着 13:00 頃、着替えをして、時間的には高速が混む前なので、温泉に入らず即帰宅となる。…………浦和着 5:00 頃

お疲れ様でした…………次回は間違えないで右股を遡行しましょう。

場所 北岳冬合宿
日時 2010年12月30日～1月3日
メンバー Y(リーダ)・N・S・I・O・O

12月30日(木)
前夜発ワンボックス新車O号で移動し、白根IC近くの道の駅にてテント仮泊。
今夜は満天の星空だ。



道の駅とは言っても完全住宅街。年末の深夜と言え、犬の散歩やトラックの出入りでうるさく快適とは言えなかつた。
早朝にテントを撤収し夜叉神峠へ移動。



駐車場は車で埋まりかけている。

何だか天気が怪しくなってきた。予報より早く崩れてきた。



夜叉神トンネルは長い。通過に20分は掛かる。写真の中央の奥に見える点が野呂川側の出口の明かり。



ながーい夜叉神トンネルを抜け、更にトンネルを抜けて御野立て所

淡々と林道を歩く

ひたすら淡々と歩く。天気が悪化し周りが暗くなりつつあるので気持ちも何となく暗くなりがち。



歩き始めて2時間で驚住山下降点。あれ？ 登りだ。



登山道が凍っているので途中からアイゼン着装にて何だカンダで吊橋まで2時間掛かった。



対岸は発電所。
天気は本格的に悪い。



吊橋は重量制限があるらしく一人づつ渡る。
吊橋が長いので、結構ゆれて怖い思いをした人も。

問題はこの先で起きた。
林道まで変な急な登りばかり。一般登山道とは思えない登りになる。
何で2級の岩登りがあるのか？ 案内には林道護岸のコンクリート壁の下に出てルート消失。
コンクリート壁下をカモシカのようにへつてやっと林道に上がる。
雪が湿雪でヤッケや手袋が濡れたのでトンネルに入ってしばし休憩。
沈黙の時が流れる。
何となく、ここからトンネル3つ目にテント張る雰囲気が漂い始める。

で、30分歩いてやっぱりそうになった。



場所は赤垂隧道のあるき沢橋よりで頭上からつららが落ちてこないところを選ぶ。
雪は益々勢いを増し本降り状態。明日のラッセルが気にかかる。

でも、流水も見つけ、乾いた平らなトンネルにテントを張るのは、暗いのが難点だが、やっぱり悪天候時はこのようなところが快適。



荷物は全部外に置いてテントは広々。



天気図をとると2つ目低気圧。まあ計画どおりか。
で、一安心。早速、テントの中では干し物と酒盛りが始まった。

でも、来ちゃったんです。自動車が…しかも2台。
本当は林道は冬期閉鎖なのに。あせった！
テントの端を手前に引いて軽トラの通る部分を作つて、『悪いね！ 手間かけさせちやって』とおじさん

声掛けられ一安心。
その後、このトンネルには後から来た1パーティがテントを張った。

12月31日(金)



あれ？快晴だ。風も無い。



あるき沢橋から池山尾根の登りが始まる。
急になったり緩やかになったりの登りが延々と続く。



対岸の林道と同じ高さになるまで2時間掛かった。
これが南アルプスの冬か～。



テント場を出発して3時間で尾根の上に上がって休憩。
ここから尾根は緩やかならだら登りになる。



いい加減疲れたころ池の跡地に着く。



数年前に立て直された避難小屋。ここまで4時間近く掛かった。

前夜の雪で尾根上は相当な積雪でしかも寒いからふかふか。
ラッセル厳しいのかと思っていたら運良くトレースにありつける。
ありがたい。
避難小屋からトレースをたどって城峰を越え、更に一時間ほど登った尾根のコルにテントを設営した。
ここからは西農鳥が良く見える。

上に登ると急に風が強くなってきた。
予定通り冬型が強まってきた。明日は休養日。
疲れを癒そう。

1月1日(土)

夜半から風が強くなり、テントをばたばた揺らし、しかもウォールについた霜が顔に振る掛けり快適には寝れなかつた。

一旦、4:00に天候判断で起床したが、外は真っ暗だし天気が悪いので予定通り朝寝を決める。
しかし、6:00頃から風がおさまり静かになつた。
外を見ると農鳥岳の稜線がくつきり。



リーダ判断で飯を食つて出発。
でも、トレースが消えラッセルになる。今日は我々が先頭。



砂払いまで2時間掛かった。砂払いから樹林が無くなる。風は無風。間ノ岳



後ろを振り返ると富士山……あれ？富士山の右に光るのは何？



あれ？海だ。駿河湾と伊豆半島・天城連山が見えている。すごい。



ボーコン手前で樹林帯を完全に抜け、広い斜面を登る。ここまで砂払いから30~40分。
やっぱり山登りは天気が良いと気持ちいい。



でも、鳳凰三山方面は怪しい雲に覆われて来ている。



ボーコンの頭に出た。
やっと北岳が見えた。
でもすっかり悪天の兆し。



1月2日の日の出。
我々は昨日はテントの中に居て見れなかったので、我々にとって今年の初日の出。
あけましておめでとうございます。



ここで記念撮影。バックは間ノ岳。



万歳三唱。今年も良い年でありますように。



この先を思索する。
風も急に出てきたし雲の流れも早い。



間ノ岳のモルゲンロート。アルベングリューエンだ。

リーダー判断で今日はここまで。



ボーコンの頭への登りから更に風が強くなる。

運が良いといえばそうだが、元々今日は停滞日。
程ほどの運動で体をほぐしたのかな?という気持ちでテントまで下山。
帰りは早い約一時間。



ボーコンの頭を過ぎ、途中の稜線で休む。
風は強いが、雲がどんどん無くなっていく。が、ここで事件発生。
Iが足の指の感覚が無いと訴える。いつから無いのか聞くとテントを出発してからとのことで…凍傷か?
まずいな…。

1月2日(日)

今日は昨日とは逆。起床したころはそうでもなかつたが出発する頃になって風が強くなってきた。
今日は北岳を登頂してテントを撤収して林道まで降りる長丁場。
日の出が見たいとか、正月用写真が撮りたいとか、色々言い合って結局6:00少し前には出発。



昨日とは違ってラッセルは無い。
風のみ。
砂払いには日の出前に着く。なんだか天気が悪いし、寒いなどということで休憩。
羽毛服など着込む。



天気が上々なのでツエルトでも被らせて待たせておくかの案もあったが結局リーダー判断でリーダーがIを連れてテントまで下山することに。残った4人で頂上を目指す。



少し、富士山が見えてきたが、雲が垂れ込めていて。これじゃ年賀状用の写真は無理かな?



ボーコン沢の頭下で明るくなってきた。少し天気が回復傾向か?

八本歯の頭までは結構距離があり時間が掛かる。
しかも風が強いし雪煙は上がるは、雪面はバリバリにクラストしている。
八本歯の頭から岩稜の下り。トレースが無いので慎重に下る。
最後の1ピッチのみザイルを張る。



八本歯のコルからの雪煙舞う北岳の斜面。
ラッセルが厳しそう。実際にここはラッセルが
厳しかった。



八本歯を振り返る。ここ
は夏道どおりに通過し
た。



でも慎重に足元に気を
つけて下らないと岩との
ミックスの稜線なのでス
リップしてしまう。
ここは急斜面でスリップ
厳禁。しかも、もなか雪
がまとめて雪崩れてき
そう。
慎重に下って分岐へ



稜線直下の登りはバリ
バリにクラストした斜
面。
アイゼンの爪が根元ま
で入らない。
滑落絶対禁止！



分岐から吊尾根へのト
ラバース。ここもスリップ
厳禁。慎重に。
前方展望は甲府盆地。

北岳稜線分岐。西側斜面は雪があまり無く代わりに
エビフライ？いやエビのシッポが一面に花咲いて
いる。
凍った斜面をラッセル交えて頂上を目指す。
10時に頂上着。風はほとんど無い。しかも快晴。



もしかしたら今年初め
ての登頂者？夏の喧
騒は全くない。
我々4人だけの頂上。
4人だけの時間がゆっ
くり流れる。



ここからの下りでは我々
のトレースを辿って、後
続者がぞくぞく現れる。
八本歯の登り返しはトレ
ースバッヂで楽勝。
ここも楽勝。全く不安は
無い。



富士山と光輝く駿河
湾。年賀状用の写真
をゲット。



輝く雪山！
甲斐駒もばっちり。
文字通り稜線漫歩



仙丈岳と北アルプスも
鹿島槍までくっきり。こ
ちらの写真も年賀状用
か。



北岳バットレス。この雪ならバットレスに取り付ける。
八本歯コルから夏道降
りて、夏道が尾根を外
れるところから反対にト
ラバースして5尾根末端
を目指していく。
Dガリー大滝のハング
は埋まっているので簡
単。



さあ、名残惜しい頂上
に別れを告げてゆっ
くり下ろう。
テントでリーダーとIが待
っている。
文字通り大展望の下
り。

テントには1時過ぎに到着。
リーダーにアイスコーヒーを作ってもらう。
話によると我々の飲んだアイスコーヒーを作ったコ
ッヘルは、
Iが凍傷・解凍治療のためしばらくお湯に足を漬け
ていた後に使ったらしく、良い御出しがでていると
か……。
Iの凍傷も見る限りは1度でも軽いほうみたいだ。
念のため、荷物を軽くし両手ストックで足に負担を
掛けずに下ってもらう。
テント撤収後14時出発。
16時30分にあるき沢橋到着し、行きで使ったトンネ
ルに再びテントを張る。

今日は自動車は来なかつた。

1月3日(月)

5:00出発。まだ暗いのでヘッドライト。
吊橋までの下りで変なくだりがあるのを嫌がつて懸垂下降できるようにザイルを用意しハーネスをつけ出発。

トンネルを抜けたところでアイゼン装着。

でも、なーんだ、ちゃんとした道あるじやん。
トンネル脇に登山道発見。
ほっとする。
で、ハーネス解除。

吊橋渡って鷲住山の登りに入る。



やっぱりえらい急なの
ぼりに喘ぐ。
予定通り。
途中で夜が明ける。
白根三山が荒川谷の
向こうに見え始める。
もう天気は下りぎみ。

野呂川の林道が下になり始める。

出発して2時間ちょっとでスーパー林道に上がる。
？下りより早かった？？？。
上に上がったのでそれなりに再び気温が下がり寒

くなる。
しかし林道にあつたはずの雪はすでに消えている。
頭上のつららの落下に当らないように気をつけて帰路を急ぐ。



トンネル入り口出口は
氷柱…これも倒れて・崩れるときもある。
御野立て所。行きでは見えなかつた白根
三山。



夜叉神トンネルの入り口でしばし休憩。
このトンネルを抜けると南アルプスとはさうなる。

暗いトンネルをヘッドライトの光で歩いて甲府側出口へ。
出口側はトンネル全体にシャッターが覆われていてぐるり戸で外に出る。
ぐるり戸を誰かが開けた。光がまぶしい。

ぐるり戸を抜けて、トンネルの彼方に『ありがとう、さ



ようなら』と別れを告げ、
トピラを閉めて儀式は完了。
リーダーお疲れ様・みんなお疲れ様

車に乗り、天恵泉白根桃源天笑閣へ。
初風呂でごつたかえしていたが無料の福引でIIは一等賞で温泉10回券ゲット。
有効期限は2011年中。
10回も来るのかなと思っていたら地元の人と早速、
景品交換。
IIは新年から運が良いのか悪いのか。

何でもIIはYリーダーと更にグレードを上げた北岳に挑戦する約束をしたとか。

=====
場所 谷川岳東尾根
日時 2011年2月27日
メンバー N・S・Y・O・I・O
=====

前夜21:00に谷川ロープウェイ駐車場集合
22:00就寝、3:00起床・4:00出発
冬期閉鎖され雪で埋もれた国道を歩く。
雪は締まっており足が潜ってもすね位。

状態は良い。
マチガ沢出会いを通過後、何箇所かデブリを渡る。
まだ暗いので上から落ちてきても見えないので気分的には緊張気味。



一の倉沢出会いまで40分位だった。

分くらいで上部を見上げる。



出会いで武装し5:00に中に入る。
一の沢出会いまで10

天気も良いし、何より雪が締まっていて良い。
やっと辺りが明るくなり始める。
一の沢の登りは傾斜が急なので先行者のトレースを追う。

途中で雪が深いところやカリカリに凍ったところなどあるが、
傾斜は急なままである。
1・2の沢右壁左方ルンゼがバッチャリ凍っている。
10人は取り付いて行列だった。



後ろを振り返るとかなりの傾斜で登ってきたのが判る。



一の倉岳。
1・2の沢中間稜を合
わせ、いよいよクライ
マックスへ。



一の沢に入って1時間
ちょっとでシンセンのコ
ルが見えてきた。
シンセンのコルまでは
休憩する場所は無い。



S・O・Oパーティが先
行する。
アップでも絵になる。
我々も後を追う。

シンセン岩峰基部から一の沢を望む。

シンセンのコル7:30
休憩後東尾根を登り
始める。
振り返ると一の沢左稜
の鋭い稜線。
ここは次のステップ。
爽快な登高に笑顔も
はずむ。



第2岩峰はまっすぐ行く。

ザイルは、S・O・Oと
Y・N・Iの2パーティで
結ぶ。
西黒尾根も人が登つ
ている。
第2岩峰はここが苦労
した。

抜けるとまた雪稜登高
この露岩は雪の状態で適宜ルートを選んだ。

でもスリップするのは
絶対禁止。
露岩を抜けるといよい
よハイライトの雪壁と雪
稜帶。
ここはザイルなしだっ
たので結構緊張した。



第一岩峰は…、あれ?
巻き? 直登しないの?
まあ、雪がしっかりして
いるから、…まあ! いい
か!
でも、なんか巻きの傾
斜が急な感じ。



雪稜も途中で下りがあるのでピッケルを刺す
手に力が入る場面もちらほら。
なんだよ! あ~あ、カニ歩きか~。こわそう。
いよいよ最後のクライ
マックス。稜線直下雪
底の乗り越しだ!
おッ!
O君トップ。さすが20
代。
しかし、急な雪壁。

はあはあ息切れする登りがずっと続くのと、上のあ
れが落っこちてきたら…。
想像したくないけど。



下の国道まで一直線
だよな…。
底の下をトラバースし
て…。
意外にも底の下の雪
はガッチャリ凍っていて
不安が無くなった。
残りは底の乗り越しだけ!

いつも思うのだが、ここから頭を出す瞬間がたまなく快感。

「へへッ！」「やったー！」って……。



やっぱ行かなきや、わ
かんないよねー！
頭出した瞬間にこれが
見えるんだよ！バーン
って感じで。
谷川岳トマの耳。



勝利の記念撮影(ちょ
っとオーバーな表現
か?)
12:00ちょいすぎ。



トマの耳からオキの耳
を望む。



スノボの人のほぼ右真
横から出てきたんだ。
帰りは気が抜けたのと
体力もヘロヘロになっ
たのもあり天神尾根を
下る。

ロープウェーで14:00前には駐車場に下山した。
ばっちり快晴。爽快・快適登高ができた楽しい一日
だった。

=====

場所 夏合宿・尾白川本谷～甲斐駒ヶ岳
日時 2011年8月13日～15日
メンバー 中山・折原・大熊・堀・杉山

=====

8月13日

前夜発で仮眠は竹宇の駒ヶ岳神社の駐車場。



幸いにもタクシーを捕
まえ、日向山登山口ま
で乗せてもらう。
水平な林道を進み、約
1時間で錦滝。
さらに1時間で尾白川
本谷に下りる。



早速エメラルドグリー
ンに彩られた淵の遡
行を開始する。
水量は若干少ない。



水も冷たくなく、快適
な遡行になる。
ここは名所のひとつ。
さあカマで泳ごう。



徐々にゴーロが少なく
なり花崗岩の岩床帯
に入る。



癒されながら、ひたひ
たと歩く。
冷たくないで積極的
に水の中を行ったほう
が楽。
ここも癒される。



ここはロープを使って
通過。



鞍掛沢を過ぎると見事
なまでの岩床帯にな
る。
ついつい飛ばし気味
になり、休憩が無い。
噴水滝



左から行ける。
噴水滝から上は益々
岩床が広がりゴーロと
いう言葉を忘れて登れる。



出会いから1時間で北
坊主沢に達し、さらに
30分ほどで西坊主沢
に達する。
いよいよ巨岩帯が現れ
始める。
ここは大岩の左の隙間
から行けると思い、突
っ込んだが見事に外
れた。



黄連谷出合いに13:0
0前に着く。先に行け
そうだったが気持ちが
良い場所なので泊まることにした。



変な滝登りを行い、

今晚のデザートはパイ缶だった。

8月14日



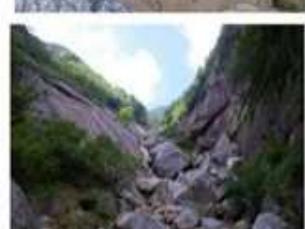
いよいよ本谷の遡行
開始。
まずは昨日に引き続
いて癒しのナメからス
タート



最後は右に追いやら
れ、4級 A0 の凹角をザ
イルを張って突破す
る。
突破したところには巻
き道があった。
さらにカマに突っ込んで、…。



出合いから30分ほどで
坊主岩が見えてくる。



このカマはおぼれるの
で入らなかった。
ますます巨岩帯になっ
てくる。しかも左右は壁
になり巻けない。



時折、なめ滝は出で
くるが左右に探せば直
登できる。



落ちている岩がとても
大きく、少々怖いものを感じる。
大岩の間をルートを探
して、右・左。
時折、岩の下を潜ったり。
段々谷が狭く深く両岸
のスラブが迫ってくる。



癒しが続く。



いよいよ有名な核心。
まず、ルート工
作?…。右側は崩壊
していて岩がすぐもげ
る。
残置ハーケンが無い
のでハーケンを3枚打



つ。
そして、シューリングを掛け、A1・空荷で通過。
ぬるぬるびしょびしょで
結構すべる。
ザックは別に吊り上げ。



最後はシューリングを回
収しながら登る。
溪流シューズが壊れた
ので応急修理する。
次は大岩くぐり。ぼろ
ぼろの岩くずで悪い。



核心を過ぎたので変な
ところは無いのかと思
っていたら、また出てき
た。



ハングしていくて登れな
いのでまたもや空荷で
ショルダー。



やっと巨岩帯を抜け、
30m滝が見える。
ここは唯一のビバーク
サイト



30m滝は白ザレが堆
積していく悪い。
体重を掛けるとザーと
崩れ落ちる(流れ落ち
る)



二俣を左に入り、最後
の水場で補給。

左の樹林帯に入った
がミスルート。結局、元
の沢の上部を右にトラ
バース



さしたる蔽滲ぎもなく
あっさり縦走路に出る。
縦走路は高速道路み
たいに感じる。
6合の石室までは僅
かだった。18:00着・
夕日が綺麗だ。

8月15日



今日は、甲斐駒頂上
を経て黒戸尾根下山
の長い一日。



稜線漫歩する。



仙丈ヶ岳



八ヶ岳



黒戸尾根



北岳



さあ、下山しよう。

竹宇の駐車場に着いたのは15:30過ぎだった。
降りるにしたがって暑くなるには参った。

=====
場所 レディース隊冬合宿・女峰山
日時 2011年12月29日～30日
メンバー あやばん&おまぬけ3号、4号
=====

12月 29 日(木)

今年のレディース隊冬合宿。年越しの日程を組めないメンバーで、なんと三年連続で女峰山への挑戦をする事にした。

しつこいって？ええ、そうですとも。

4時半に浦和を出発。一路、旧霧降高原スキー場駐車場へ。駐車場には一台も車がいなかったが、支度をしているともう一台到着。

共同装備を分け、それぞれのザックを持ってみると3号は相変わらず鉛が入っているかのような重さだ。勿論、個人装備の液体のせいなのだけど…



7時半に出発する。良い天気だ！

(今年はトレイ使えました)

昨年、工事関係者が言っていたように、旧スキー場は閉鎖され、遊歩道などが建築中のようだ。トレースの付いた登山道を1時間強登るとキスゲ平だ。



今年は、降ったばかりのパウダースノーで昨年よりはるかに積雪量も少ない。これから行く、赤薙山も正面に綺麗に見える。

風もほとんどなく、天気も良く、歩いていると結構暑くなってくるほどだ。おまけに、若者二人がトレースをかけてくれているので、昨年と段違いの歩きやすさだ。



キスゲ平から二時間ほどで、赤薙山に到着。

若者のトレースここまで。この先、トレースの無い新雪を行く。動物の足跡って、結構夏道どおりについているみたいだなと思った。



今日は、昨年に比べて雪も少なく奥社まで行かれそうだ。奥社は勿論の事、女峰まで、綺麗に見えている。



ちょっとしたリッジもサクサク下る。

赤薙山頂から約一時間強で、昨年のテンバだった場所に到着した。そこから更に1時間程で、14時に



奥社に到着。久々に泊まり道具の詰まつたザックには結構疲れた～

整地し、テントを張っていると気温がグンと下がっていった。今回こそは、女峰山登頂できるんじゃないかな？って期待を胸に6時過ぎに就寝。

12月 30 日(金)

夜半から 非常に強風が吹き荒れてくる。風はますます強まり、4時に起床するも 気圧はグングン下がっているし どうする？？？

とりあえず、出発を遅らせることとする。あ～やっぱり、今年も山頂は無理かあ(泣)



テントを畳んで8時に出発。一旦下り、登り返す。2年前の時よりは、だいぶ歩きやすい。が、風が結構強く雲も出ている。



女峰山方面も、昨日のよう晴れていない。一日天気がずれていたらなあ……



10時前に、一里ヶ曾根に到着。今回の到達点とする。トホホ…(女峰山をバックに。ビュービュー寒いです…)



昨晚泊まった奥社方面



あとは、奥社に戻り荷物をまとめてグングン下る。途中の、ちょっとした岩場。雪が舞っている。



振り返ってみる女峰山と奥社。
期待した「三度目の正直」は、今年も成功することは無かった(泣)

※しつこく、3年連続で訪れたこのコース。毎年、雪の状態が全く違っていて 別の顔を見せてもらいました。

それにしても、なかなか登頂させてもらえないよ～(泣)

=====
場所 黄連谷左俣
日時 2012年1月7日～9日
メンバー N.O.O.S.A
=====

1月 7日



駒ヶ岳神社駐車場9:45発
5丈には雪が無いから水2.5L～3Lを荷上げする。
黒戸尾根は笹平まで雪が全くない。

笹平からぼちぼち雪が出てくる。

5丈小屋跡に15時に到着。約5時間、水を荷上げしても5時間は平均年齢が高くても予定通り。

1月 8日



5時出発。黄連谷までの下降路は相変わらずわかりにくい。
坊主の滝には7時30頃着く。



我々の取り付きは2番目。滝のスケールが八ヶ岳とは格段に違いデカい！
スクリューでビレーして2Pで越える。



坊主の滝の上から氷の回廊が始まる。
正面は左俣・右に曲がるのは右俣



我々は左に折れて左俣に入る。10:00
しかし雪がとても少ないので右俣はこの時期としてはピックチャンスに見えた。



出合から少々氷の回廊を歩くと氷瀑のお出まし。この滝を越えるのに時間を費やしてしまった12:30



いよいよビッグスケールで連瀑帯に入る。スリップ絶対NGです。ザイルを張りっぱなしになる。



15:00に難関大滝に到着。すでに体力も残りわずかで大滝を登る気にならぬ。右のルンゼから巻くことに。

しかし巻が悪く2時間かかり早夕暮れ。結局大滝を巻いたところでビバークとなってしまった。ツエルト1枚でシュラフなしビバークは結構寒かった。

1月9日

長い夜が明け6時にビバーク地を出発。天気少し悪く小雪。最後の滝も高巻とにかく稜線に向かった。



奥の三俣手前は大きな崩壊地になっておりわかりにくい。



ともかく左・左へ向かえば良いことが後からわかった。

10:00にピタリ8丈の鳥居に到着。



5丈小屋跡テンバまで駆け下りて、12時に重荷を背負って下山開始。

刃渡りを降り、生還した実感を感じた。

前回は1985年の成人の日に来た。この時は、今とは比べ物にならない貧素な装備とITなど無くわずかな情報だけで來たが、体力だけで左俣を5丈小屋から日帰りした。いよいよ次は右俣である。

近年の会活動記録

2008年度山行記録

会	2008/4/13	上州武尊山（雪山）	内海 L 他
個	2008/4/20	上州武尊山（雪山）	鈴木直 川元
個	2008/4/22	赤城山（黒檜岳）	風間
個	2008/4/27	高尾山	安部
個	2008/4/27	浅間山本峰	木村 安田
個	2008/4/29	榛名山掃部岳	風間
春	2008/5/3 ~ 5	小窓尾根～剣岳	中山 内海 北村 鈴木直 安田
春	2008/5/3 ~ 6	早月尾根～剣岳	掛川 風間 川元
個	2008/5/3 ~ 5	朝日連峰 月山	福王寺他2名
個	2008/5/16	鳥海山 BCスキー	安田
個	2008/5/31	奥武藏 伊豆ヶ岳	風間
個	2008/5/31	外秩父7峰縦走	木村 安田
個	2008/5/31 ~ 01	八ヶ岳開山祭 赤岳	福王寺 他3名
個	2008/6/7	高尾山	安部
個	2008/6/7	奥武藏 越上山	風間
個	2008/6/7	虎毛山（宮城）	牧野 鈴木五 中田
個	2008/6/8	平出沢～袈裟丸山	鈴木直 川元 他1名
会	2008/6/15	奥多摩 小川谷 大麦谷遍行	牧野 風間 中山 沖山 内海 北村 鈴木n 福王寺 安田
個	2008/6/28 ~ 29	尾瀬沼	中山 他2名
個	2008/6/28 ~ 29	富士山	風間 鈴木直
個	2008/6/28	日光男体山	鈴木五
個	2008/6/28	上越大源太山～七つ石山	木村 安田
個	2008/7/5	秋川 盆堀川 楠ヶ窪遍行	木村 安田
個	2008/7/12	小菅川本谷遍行	鈴木五 木村 福王寺 安田
個	2008/7/12 ~ 13	西穂高岳	中山 他2名
会	2008/7/20 ~ 21	シレイ沢遍行～鳳凰山	掛川 風間 山下 中山 内海 鈴木五 木村 北村 川元 福王寺
個	2008/7/26 ~ 27	北岳バットレス Dガリー～ローテル・プラット	中山 内海 安田
個	2008/8/9 ~ 24	インド/ スタルジャン・バルバット峰	風間 鈴木直
個	2008/8/7 ~ 10	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～唐松岳縦走	小川 他1名
個	2008/8/10	奥多摩 大雲取谷遍行	鈴木五 北村
個	2008/8/10 ~ 11	後立山 唐松岳	安田 他2名
夏	2008/8/13 ~ 15	剣岳	中山 内海 小川 木村 川元 中尾 安田
個	2008/8/13 ~ 14	扇沢～爺ヶ岳	安部 他1名
個	2008/8/1 ~ 16	岩木山 八甲田山 後方羊蹄山 トムラウシ	福王寺 他2名
		黒岳 大雪旭岳 十勝岳 羅臼岳	
		斜里岳 雄阿寒岳 雌阿寒岳	
個	2008/8/23	上越 荒沢岳	木村 安田
個	2008/8/29 ~ 31	白神山地 白神岳 岩木山	牧野 鈴木五 中田 他3名
会	2008/9/13 ~ 15	谷川岳集中 中芝新道 一ノ倉岳南稜	中山 山下 鈴木五 内海 川元 鈴木直
個	2008/9/23	蓼科山	中山 他2名
個	2008/9/27 ~ 28	北岳バットレス4尾根主稜	安田 他1名
個	2008/9/28	西黒尾根～谷川岳	福王寺 他2名
個	2008/9/28	富士山	鈴木直
個	2008/10/4 ~ 5	大行沢遍行～大東岳	牧野 鈴木五 中田
会	2008/10/11 ~ 13	南アルプス 荒川三山 赤石岳縦走	中山 小川 鈴木直 中尾
会	2008/10/12 ~ 13	上越 米子沢遍行～巻機山	山下 牧野 北村 川元
個	2008/10/12	八海山	福王寺 他2名

個	2008/10/15	黒斑山	安部 他 1名
市	2008/10/18	横瀬 二子山	鈴木直
個	2008/10/18 ~ 19	尾瀬沼～尾瀬ヶ原	中山 他 2名
個	2008/10/18 ~ 19	南会津 博士山 七ヶ岳	中田
個	2008/10/25	上州武尊山	木村 安田
個	2008/10/26	天覧山 岩トレ	中山 内海 中尾
個	2008/11/8	天覧山 岩トレ	中山 鈴木直 内海 中尾
個	2008/11/22 ~ 23	男鹿山塊 日留賀岳 高原山	木村 安田
会	2008/11/22 ~ 24	後立山 遠見尾根～五竜岳	鈴木直 中山 山下 小川 中尾 鈴木五 北村 川元
個	2008/11/29	妙義 星穴岳	福王寺 木村 安田
個	2008/11/30	大岳山	鈴木五
会	2008/12/13 ~ 14	雪上訓練 富士山	内海 中山 鈴木直 牧野 風間 掛川 小川 福王寺 中尾
会	2008/12/27 ~ 28	冬合宿 金峰山、瑞牆山	木村 福王寺
会	2008/12/28 ~ 31	冬合宿 早月尾根～劍岳	中山 鈴木直 小川 中尾 安田
会	2008/12/30 ~ 2	冬合宿 北沢峠～仙丈ヶ岳、甲斐駒	内海 風間 山下 北村
会	2009/1/10 ~ 12	八ヶ岳 アイスクライミング 他	鈴木直 中山 牧野 風間 山下 内海 鈴木五 小川 中尾 関根
個	2009/1/25	谷川岳 天神尾根 雪上訓練	中山 内海 青木 安田
会	2009/2/15	越後湯沢 荒沢山	風間 中山 山下 内海 牧野 鈴木直 鈴木五 奥園 瀬藤 武 木村 北村 福王寺 中尾 沖山 青木 安田
個	2009/2/21 ~ 22	八ヶ岳 天狗岳	木村 安田

2009 年度山行記録

	2009/3/15	那須岳	山下・鈴木G・北村
会	2009/3/20 ~ 21	西穂高岳西尾根	中山・内海・鈴木N・小川・中尾
会	2009/3/21 ~ 22	西穂高岳	掛川・鈴木G・安田・木村・青木
	2009/4/4	平標山	安田・鈴木G
会	2009/4/12	谷川岳天神尾根雪上訓練	牧野・掛川・鈴木G・瀬藤・中山・ 村田・安田・小川・北村・鈴木N・ 福王寺・木村・安部・中尾・関根
	2009/4/18 ~ 20	爺ヶ岳～鹿島槍	鈴木G・安田
	2009/4/27	藏王	関根他
合	2009/4/30 ~ 5/2	前穂北尾根	牧野・鈴木G・安田
合	2009/5/2 ~ 4	明神岳東稜	中山・内海・小川・鈴木N
	2009/5/5	岩手山	福王寺他
会	2009/5/24	藤坂ロックガーデン	牧野・掛川・風間・瀬藤・中山・ 内海・沖山・鈴木G・安部・安田・ 木村・北村・鈴木N・中尾
	2009/5/27 ~ 28	月山	関根他
	2009/6/4 ~ 5	毛勝山	牧野・鈴木G・中田
	2009/6/13	両神山金山沢	安田・木村・福王寺他
会	2009/6/14	藤坂ロックガーデン	牧野・風間・山下・瀬藤・中山・ 沖山・内海・鈴木N・木村・小川・ 北村・福王寺・中尾
	2009/6/20	南秋川軍刀利沢	安田・木村・中尾
会	2009/7/19	奥秩父竜喰谷	瀬藤・安田・青木
会	2009/7/19 ~ 20	奥秩父豆焼沢	牧野・山下・鈴木G・木村・福王 寺・中尾
会	2009/7/19 ~ 20	奥秩父古礼沢	中山・内海・鈴木N・北村
	2009/7/25	富士山（高度順化）	風間・内海
	2009/7/25 ~ 26	北ア燕岳	中山一家
	2009/8/3 ~ 5	北ア剣岳	福王寺一家
	2009/8/8 ~ 9	北ア唐松岳	中山一家
	2009/8/8 ~ 15	北ア立山～薬師～笠ヶ岳	鈴木G
	8/初 ~ 中	中国ガンシェンカ雪峰	内海

合	2009/8/13	～	16	穂高前穂北尾根・北穂東稜	掛川・風間・山下・中山・鈴木N・木村・中尾・伊丹
	2009/8/17	～	20	北アルプスノ平	福王寺一家
	2009/8/15			湯檜曾川東黒沢	安田・北村
	2009/8/23			日光白根山	山下
	2009/8/26			葛葉川本谷	福王寺一家
	2009/8/29	～	30	奥秩父雲取山	中島
	2009/8/30			吾妻連峰大滝沢	牧野・鈴木G・奥蘭・安田・木村・福王寺一家
	2009/9/4	～	5	八ヶ岳南部縦走	北村
	2009/9/4	～	6	秋田駒ヶ岳～乳頭山	安部
会	2009/9/13			阿武隈 南沢	牧野・瀬藤・中山・内海・鈴木G・安部・中尾・伊丹
会	2009/9/13			阿武隈 白水沢	安田・鈴木N・沖山・木村
	2009/9/19	～	21	飯豊連峰	福王寺一家
	2009/9/20	～	22	北アルプス 檜ヶ岳	青木
	2009/9/21	～	23	上高地徳沢周辺	小川
	2009/9/23	～	29	北アルプス北部縦走	中島
	2009/9/26			白毛門沢	福王寺一家
会	2009/10/10	～	12	北岳バットレス集中	中山・内海・鈴木N・北村・小川・福王寺・中尾
	2009/10/17	～	19	戸隠 高妻山	福王寺一家
	2009/10/24	～	25	鳥海山・栗駒山	牧野・鈴木G他
会	2009/11/21	～	22	後立山唐松岳	掛川・風間・鈴木G・山下・中山・中島・内海・小川・福王寺・北村・伊丹・折原
	2009/12/5			藤坂ロックガーデン	中山・木村・福王寺・伊丹・折原
合	2009/12/29	～	30	日光女峰山	木村・福王寺
合	2009/12/29	～	1/1	穂高連峰明神岳	中山・小川・安田
合	2009/12/31	～	1/2	八ヶ岳集中	掛川・風間・山下・鈴木G・内海・中尾・伊丹・折原
	2010/1/2			富士山	奥蘭
会	2010/1/9	～	10	八ヶ岳権現岳	瀬藤・安田・北村・中野
会	2010/1/9	～	11	八ヶ岳天狗尾根	中山・中尾
会	2010/1/9	～	11	八ヶ岳権現岳～ツルネ東稜	風間・鈴木G・福王寺・青木
会	2010/1/10	～	11	八ヶ岳権現沢	牧野・山下・内海・伊丹・折原
	2010/1/20			扇山 (中央線沿線)	安部
会	2010/1/26			アバランチトランシーバー訓練 (土合)	瀬藤・牧野・風間・山下・中山・内海・北村・福王寺・安部・中尾・伊丹・折原・中野
	2010/1/30	～	31	北八ヶ岳	福王寺一家
	2010/2/3			奥武藏巣山	奥蘭
	2010/2/6			奥日光	安田・木村・北村・福王寺・中尾・折原・中野
会	2010/2/13	～	14	足拍子岳	中山・安田・北村・伊丹・折原
会	2010/2/14			足拍子岳	山下・掛川・風間・鈴木G・内海・小川・福王寺・中野
	2010/2/20			八ヶ岳	中山・安田・伊丹・折原・中野
	2010/2/28			谷川岳積雪期講習会	瀬藤・風間・折原

2010 年度山行記録

	2010/3/20	～	白毛門	風間・鈴木G・山下・伊丹	
会	2010/4/18	～	谷川岳マチガ沢雪上訓練	内海・牧野・風間・山下・中山・木村・中尾・伊丹・折原・中野	
合	2010/5/2	～	4	土合～白毛門～巻機山	内海・牧野・鈴木G・鈴木N・折原
合	2010/5/5	～	4	巻機山～白毛門～土合	風間・中山・小川・中野
	2010/4/24	～	25	八ヶ岳阿弥陀南稜	中山・小川・鈴木N・折原
	2010/4/10	～		谷川岳西黒尾根	中山・小川・伊丹・折原
	2010/4/21	～		奥秩父	安部他 3 名
	2010/5/1	～	2	谷川岳～仙ノ倉岳	安田・北村・中尾
	2010/5/8	～		那須南月山	安田・木村

会	2010/5/23	～	藤坂 RG (岩登り訓練)	内海・牧野・掛川・風間・山下・鈴木G・中山・村田・小川・安部・木村・北村・沖山・鈴木N・福王寺・伊丹・折原・中尾・中野・大熊
	2010/5/29	～ 30	東北船形山	牧野・鈴木G
	2010/5/15	～ 16	越後駒ヶ岳	安田・木村
	2010/6/5	～	野反湖 白砂山	安田・木村
	2010/5/30	～	谷川岳 (雨天中止)	風間・山下・瀬藤・福王寺・折原・大熊
	2010/6/6	～	谷川岳一ノ倉沢南稜	中山・鈴木N
	2010/6/5	～ 6	八ヶ岳開山祭	福王寺ファミリー
	2010/6/13	～	那須岳峰の茶屋	北村
	2010/6/12	～ 13	北ア燕岳	中山ファミリー
	2010/6/13	～	谷川岳一ノ倉沢南稜	内海・山下・折原・掛川・沖山・伊丹
	2010/6/13	～	谷川岳一ノ倉沢中央稜	風間・大熊・瀬藤・福王寺
	2010/6/19	～ 21	早池根～栗駒山	牧野・鈴木G
	2010/6/26	～	三峰～雲取山	中島他2名
	2010/6/26	～	竜喰谷	安田・木村・福王寺・中尾・折原・中野
	2010/7/3	～	奥多摩鷹巣沢	風間・中野・大熊
岳	2010/6/20	～	天覧山	瀬藤・風間・大熊・折原・中野・山下
会	2010/7/18	～ 19	奥鬼怒赤岩沢	内海・風間・山下・安田・鈴木N・木村・福王寺・中野・折原・中尾・大熊
	2010/7/24	～ 25	巻機山	中島他2名
	2010/7/24	～ 25	北岳バットレス	中山・鈴木N・大熊
	2010/7/23	～ 24	北岳～間ノ岳	福王寺他
	2010/7/26	～ 27	常念岳～蝶ヶ岳	福王寺ファミリー
合	2010/8/11	～ 14	北ア赤木沢	内海・風間・伊丹・大熊
	2010/8/5	～	西丹沢鬼石沢	福王寺ファミリー
	2010/8/7	～ 8	苗場山	鈴木n他1名
	2010/8/7	～ 10	秋田桃洞沢・和賀岳	安田・木村
	2010/8/9	～ 11	北ア穂高縦走	福王寺ファミリー
	2010/8/12	～ 14	北ア穂高東稜	鈴木n・折原
	2010/8/13	～ 16	北ア燕岳～檜ヶ岳	中山ファミリー
	2010/8/15	～ 16	北ア唐松岳～五竜岳	山下夫婦
	2010/8/19	～ 21	南ア聖岳～光岳縦走	福王寺ファミリー
	2010/8/21	～ 22	小川山	鈴木n・折原
	2010/8/22	～	谷川連峰高倉沢	牧野・掛川・風間・鈴木G・山下・北村
	2010/8/28	～ 29	吾妻連峰大滝沢	牧野・内海・安田・木村・福王寺・中尾・折原・他2名
	2010/9/1	～ 3	北海道幌尻岳	中島夫妻他1名
	2010/9/11	～	日光白根山	鈴木G
会	2010/9/12	～	藤坂 RG (セミフレスキュー)	内海・牧野・掛川・風間・山下・中山・鈴木n・木村・安田・小川・福王寺・伊丹・折原・中野・大熊
	2010/9/18	～ 19	徳本峠～霞沢岳	木村・福王寺
	2010/9/18	～ 19	北八ヶ岳	伊丹他1名
	2010/9/18	～ 19	谷川岳一ノ倉沢2ルンゼ	風間・内海
	2010/9/18	～ 19	北岳バットレス中央稜	中山・鈴木n・折原・大熊
	2010/9/19	～	日光白根山	山下夫婦
	2010/9/19	～ 20	鳥海山～月山	牧野・鈴木G他1名
	2010/9/26	～	尾瀬小瀧沢	安田・木村
	2010/10/16	～ 17	秋田駒ヶ岳	牧野・鈴木G
	2010/10/23	～ 24	庚申山	鈴木G
	2010/10/23	～ 24	浅草岳～鬼ヶ面山	安田・木村
	2010/10/27	～	伊豆ヶ岳	風間
	2010/11/4	～	秩父丸山	風間
	2010/11/13	～	木村	上野村諏訪山

	2010/11/14	～	二子山中央稜	鈴木N・沖山・折原・大熊
	2010/11/16	～	雁寄山	風間・安部
	2010/11/21	～	藤坂 RG	中山・鈴木n・小川・伊丹・折原・大熊
	2010/11/27	～ 28	富士山	鈴木n・折原
	2010/12/12	～	中央ア宝剣岳	山下・風間・瀬藤・内海・中山・鈴木G・奥蘭・木村・鈴木n・福王寺・伊丹・折原・大熊
	2010/12/16	～	八ヶ岳裏同心ルンゼ	中山・鈴木n・大熊
合	2010/12/29	～ 30	日光連山女峰岳	北村・木村・福王寺
合	2010/12/30	～ 3	南ア北岳	安田・中山・鈴木n・伊丹・折原・大熊
合	2010/12/31	～ 2	南ア西穂高岳	内海・風間・山下・鈴木G
岳	2011/1/3	～	高尾山	橋田ファミリー
岳	2011/1/8	～	那須岳連検定講習	安田・木村・北村・福王寺
	2011/1/8	～ 9	八ヶ岳広河原沢右俣3ルンゼ	中山・鈴木n・伊丹・折原・大熊
	2011/1/9	～	八ヶ岳広河原沢左俣3ルンゼ	牧野・風間・山下・小川
	2011/1/19	～	黒斑山	鈴木G・他1名
	2011/1/30	～	日光白根山	鈴木G・牧野・風間・山下
	2011/1/29	～	甲斐駒ヶ岳日向山(冰瀑)	中山・鈴木n・大熊
	2011/12/13	～	那須茶臼岳	牧野・鈴木G・山下・中野

2011年度山行記録

	2011/3/31	～ 22	メラピーク	風間
	2011/4/10		藤坂 RG	瀬藤、中山、沖山、鈴木g、小川、安田、木村、北村、鈴木N、福王寺、折原、中野、大熊、杉山、堀
	2011/4/29	～ 30	上州武尊	木村、福王寺
	2011/4/29	～ 1	白馬主稜	中山、小川、杉山
	2011/5/2	～ 3	元橋～エビス	安田、鈴木N、大熊
	2011/5/2	～ 4	土合～エビス	瀬藤、鈴木g、風間
	2011/5/3	～ 4	土合～大障子	中山、中野
	2011/5/3	～ 4	元橋～越路	伊丹、折原
	2011/5/3		浅間山	福王寺
	2011/5/4		至仏山	福王寺
	2011/5/14	～ 15	乾徳山	安田、木村、福王寺
	2011/5/15		藤坂 RG	中山、山下、北村、伊丹、折原、中野、大熊、堀、杉山
	2011/5/21	～ 22	明神岳	牧野、鈴木g、中野
	2011/6/3		赤岩尾根	北村、中山、折原、杉山
	2011/6/3		秩父丸山	風間、鈴木g、安部他
	2011/6/4		大黒茂谷	安田、木村、福王寺、折原、中野
	2011/6/9		大源太山	福王寺
	2011/6/12		谷川南稜、中央稜	山下、風間、中山、福王寺、折原、中野、大熊、堀、杉山
	2011/6/19		有明山	福王寺
	2011/6/26		豆焼沢	北村、中山、伊丹、折原、大熊、堀、杉山
	2011/7/2		両神山金山沢	伊丹、折原、中野、杉山
	2011/7/5		八ヶ岳権現岳	福王寺
	2011/7/6		金峰山	風間、鈴木g、安部他
	2011/7/9		大雲取谷	北村、風間、鈴木g、福王寺、大熊
	2011/7/9		中津川大若沢	安田、木村
	2011/7/16		上州武尊沢	安田、木村
	2011/7/16		上州武尊沢	折原
	2011/7/17	～ 18	上州武尊川場沢	山下、牧野、鈴木g、奥蘭、中野、堀
	2011/7/17	～ 18	上州武尊大沢	瀬藤、風間、中山、大熊、杉山
	2011/7/17		上州武尊岳	北村、福王寺、折原
	2011/7/22		藤坂 RG	伊丹、折原
	2011/7/22	～ 23	北岳	福王寺他

	2011/7/24	ヌク沢左俣右沢	北村、牧野、風間、山下、鈴木g、福王寺、中野
	2011/7/30 ~ 31	常念岳～蝶ヶ岳	福王寺他
	2011/7/30 ~ 2	西穂～奥穂～槍ヶ岳	小川
	2011/7/31 ~ 6	後立山・梅池新道	鈴木g
	2011/8/4 ~ 5	針木岳	福王寺
	2011/8/11 ~ 12	御嶽山鈴ヶ沢	安田、木村
	2011/8/13 ~ 15	尾白川本谷	中山、折原、大熊、杉山、堀
	2011/8/14 ~ 16	尾白川本谷	瀬藤、掛川、風間、山下、福王寺
	2011/8/18	富士山	福王寺
	2011/8/28	巻機山米子沢	中山、中野、大熊
	2011/8/28	鳥海山	福王寺
	2011/8/28	三ツ峠	鈴木n、折原
	2011/9/6	八ヶ岳権現岳	伊丹
	2011/9/6 ~ 9	駒岳八峰	鈴木n、折原
	2011/9/7 ~ 10	駒岳源次郎尾根	大熊、堀
	2011/9/8 ~ 9	槍ヶ岳	伊丹他
	2011/9/10	尾瀬大蘿沢	安田、木村
	2011/9/10 ~ 11	南アルプス	中山、中野、福王寺
	2011/9/11	大源太山	山下
	2011/9/18	藤坂 RG	山下、中山、福王寺、伊丹、中野、経塚
	2011/9/23 ~ 24	白馬岳	山下他
	2011/9/23 ~ 25	中央空木岳	木村、中野
	2011/9/23 ~ 25	北鎌尾根～穗高	折原
	2011/9/5 ~ 10	マナスル	風間
	2011/10/8 ~ 9	大行沢	安田、木村、福王寺、大熊
	2011/10/8 ~ 9	三ツ峠	折原、鈴木n、伊丹、堀
	2011/10/9 ~ 10	大行沢	牧野、鈴木g、山下
	2011/10/29	二子山中央稜	安田、木村
	2011/10/29	越沢バットレス	折原、鈴木n、伊丹、大熊、堀
	2011/11/5	妙義星穴岳	安田、木村、福王寺、大熊、杉山
	2011/11/13	北八ヶ岳天狗岳	山下他
	2011/11/13	藤坂RG	折原、鈴木n、堀、経塚
	2011/11/23	三ツ峠	折原、経塚
	2011/11/28	九十九谷筆頭岩	安田、大熊
	2011/12/11	裏同心ルンゼ	中山、鈴木n、伊丹、折原、大熊、杉山
	2011/12/11	滝子山	安田、木村、北村、福王寺
	2011/12/18	谷川雪上訓練	安田、牧野、瀬藤、山下、中山、鈴木g、木村、北村、鈴木n、福王寺、伊丹、折原、中野、大熊、杉山
	2011/12/20	木曾駒ヶ岳	福王寺他
	2011/12/24	広河原3ルンゼ	瀬藤、中山、安田、伊丹、折原、大熊
	2011/12/29 ~ ,30	日光女峰山	木村、福王寺、中野
	2011/12/30 ~ 31	谷川岳	瀬藤、中山、鈴木n、伊丹、大熊
	2011/12/30 ~ 1	八ヶ岳天狗尾根	山下、安田、北村、伊丹
	2012/1/3	広河原3ルンゼ	中山、鈴木n、折原、大熊
	2012/1/7 ~ 9	黄蓮谷左俣	中山、安田、鈴木n、折原、大熊
	2012/1/7 ~ 9	甲斐駒ヶ岳	木村、福王寺
	2012/1/22	谷川岳	山下、鈴木n、経塚
	2012/1/23	経ヶ岳	福王寺他
	2012/1/29	黒斑山	山下、鈴木g、北村、経塚

2012 年度山行記録

	2012/3/11 ~ 12	八海山雪洞山行	北村・牧野・鈴木G・瀬藤・鈴木N・大熊・福王寺・伊丹・折原・杉山・堀・経塚
	2012/3/18	伊豆ヶ岳	風間・安部・経塚・奥薗・矢内・瀬藤・瀬藤gニア

2012/3/18	日光白根山	山下・牧野・鈴木G・北村
2012/3/24	日向倉山	福王寺・大熊
2012/3/25	八ヶ岳天狗岳	鈴木N・経塚
2012/3/12 ~ 13	八ヶ岳権現岳	福王寺・大樹&一樹（個人山行）
2012/4/8	谷川岳天神尾根	安田・牧野・瀬藤・中山・鈴木n・折原・北村・大熊・伊丹・折原・風間・山下・鈴木G・堀・経塚・杉山
2012/4/28	鳥海山スキー山行	安田・木村・鈴木G
2012/5/4 ~ 6	南阿光岳	中山・鈴木n・大熊・杉山
2012/4/28 ~ 29	白馬岳主稜	中山・北村・鈴木n・福王寺・大熊・折原・杉山・伊丹
2012/4/24	両神山	福王寺親子
2012/4/10 ~ 11	石鎚山・剣山	福王寺
2012/4/22	鹿沼ザイルワーク訓練	風間・瀬藤・矢内・玉木
2012/5/1 ~ 2	栗駒山・鳥海山	福王寺親子
2012/5/4	棒ノ峰	風間・掛川
2012/5/5	たぬき山	安田・木村・鈴木G
2012/5/20	藤坂 RG 岩場でのレスキュー訓練	牧野・安田・風間・中山・北村・鈴木n・福王寺・大熊・杉山・堀・矢内・玉木
2012/5/19	八ヶ岳阿弥陀南稜	大熊・福王寺
2012/5/26	只見川布川沢大滝沢	安田・木村
2012/5/27	只見志津倉沢	安田・木村
2012/5/26	両神山	福王寺&J'ニ7、他
2012/5/28	経ヶ岳	福王寺一家
2012/5/27	谷川岳一ノ倉中央稜	大熊・鈴木n・折原・杉山・堀
2012/6/10	沢レスキュー訓練丹波山一之瀬川竜喰谷	安田・牧野・風間・中山・北村・木村・福王寺・鈴木n・大熊・伊丹・折原・杉山・経塚・矢内・玉木
2012/6/16 ~ 18	秋田駒ヶ岳	牧野・鈴木
2012/6/24	谷川岳一ノ倉沢中央稜	大熊・折原・堀
2012/6/30	棒ノ折山	安部
2012/6/30	西丹沢世附川沖ビリ沢	木村・安田・鈴木n・福王寺・伊丹・大熊・経塚・矢内・玉木
2012/7/14 ~ 16	槍ヶ岳	中山・鈴木n・大熊・折原・杉山・矢内・玉木
2012/7/26	奥穂高岳	福王寺他2名
2012/7/28 ~ 29	北岳バットレス4尾根	鈴木n・折原
2012/7/23	国師岳・奥千丈岳	風間・鈴木G・安部
2012/7/21	谷川岳～天神平	村田他4名
2012/8/4	湯桧曾川東黒沢	木村・福王寺
2012/8/1 ~ 3.	中央ア駒ヶ岳	福王寺
2012/7/29	谷川岳高倉沢	掛川・牧野・風間・大熊・山下
2012/7/30 ~ 1	白山	安部
2012/7/15	奥多摩坊主谷	風間・木村・福王寺・北村・伊丹
2012/7/10	大菩薩	風間・大熊・安部
2012/7/26	中御在所谷西横川	安田・北村・木村・福王寺
2012/8/15	奥多摩水根沢	奥薗・大熊・堀・折原
2012/8/19	秩父二子山中央稜他	折原・鈴木n・大熊・杉山・玉木
2012/8/22	八ヶ岳赤岳～阿弥陀	風間
2012/8/22	湯ノ丸山～烏帽子岳	山下
2012/8/28 ~ 1	劍岳チンネ登攀	鈴木n・大熊・折原
2012/9/1	日和田山	風間・掛川・峯尾
2012/8/11 ~ 19	北ア劍岳～上高地	中山一家
2012/8/16	上州武尊沢	福王寺親子
2012/8/21	八ヶ岳赤岳	福王寺親子
2012/9/3	越後駒ヶ岳	福王寺親子
2012/9/10 ~ 11	北ア餓鬼岳	福王寺親子
2012/9/16	日光根名山	風間・北村
2012/9/16 ~ 17	唐松～五竜岳	山下他

	2012/9/28	～	29	北ア餓鬼岳	中山・北村
	2012/9/29			御座山	安田・木村
	2012/10/8	～	9	上高地周辺霞沢岳	大熊
	2012/10/6	～	8	涸沢～北穂高岳	中山一家
	2012/10/21			八海山	鈴木G・風間・小川
	2012/10/21			谷川岳天神尾根	中山・山下・安部・折原・経塚
	2012/11/2			湯の丸山	風間・鈴木G・安部
	2012/11/3			湯の丸山	山下他1名
	2012/11/3			藤坂RG	折原・奥蘭・矢内・玉木
	2012/11/23	～	25	北ア八方尾根～唐松岳	風間・牧野・鈴木五・杉山・経塚・玉木・中山・大熊・折原
	2012/11/25			谷川岳天神尾根	瀬藤・村田・北村・鈴木直・堀
	2012/12/1			筑波山	福王寺
	2012/12/9			日光白根山	山下・牧野・掛川・風間・中山・北村・鈴木n・福王寺・大熊・折原・杉山・矢内・峯尾
	2012/12/28	～	31	八ヶ岳赤岳	福王寺・風間・峯尾・矢内
	2012/12/28	～	2	八ヶ岳北稜石尊稜	中山・大熊・折原・峯尾
	2012/12/31	～	2	横岳西壁石尊稜	山下・鈴木n・杉山
	2012/1/13			黒斑山	風間・鈴木五
	2012/1/13			仙丈岳	中山・大熊・折原・峯尾
	2013/1/12	～	13	八ヶ岳天狗尾根	北村・福王寺・玉木
	2012/1/13			北八ヶ岳天狗岳	山下他1名
	2012/1/20			金峰山	山下他1名
	2013/2/10	～	11	富士山雪上訓練	風間・中山・村田・福王寺・大熊・矢内・玉木・峯尾
	2013/2/16	～	17	富士山雪上訓練	瀬藤・北村・鈴木G・伊丹
	2013/2/23			奥多摩高水三山	中野
	2013/2/23			日光雲龍渓谷	奥蘭・鈴木N・福王寺・大熊・矢内
	2013/2/26			赤薙山	福王寺親子
	2013/2/11			蓼科山	山下他
	2013/2/23			県岳連雪洞講習	瀬藤
	2013/3/2			黒檜山	中野・風間・鈴木G・福王寺

2013年度山行記録

	2013/3/16	～	17	八海山雪洞講習会	中山・鈴木n・北村・福王寺・玉木・峯尾・中野・折原・牧野・風間・鈴木G・大熊・野村・布村
	2013/3/23			浅間水のとう	中野・福王寺・他1名
	2013/3/24			上州武尊奥蘭・折原	
	2013/3/30	～	6	九州登山三昧由布岳・祖母岳・高岳・開聞岳	福王寺
	2013/5/3	～	6	燕岳～大天井岳～槍ヶ岳	中山・折原・矢内・布村
	2013/5/3	～	6	横尾～槍ヶ岳	掛川・風間・奥蘭・小川・野村
	2013/4/8			丹沢ヤビツ峰～塔ノ岳～丹沢山	折原
	2013/4/13			八ヶ岳天狗岳	風間・鈴木G
	2013/4/13	～	14	北ア唐松岳	中山・大熊・中野
	2013/4/13			秩父二子山	折原・矢内・玉木・堀・他
	2013/4/20			平標山	風間・福王寺・中野
	2013/5/4			日光白根山	山下他
	2013/5/19			平戸の岩場	大熊・掛川・風間・山下・瀬藤・中山・福王寺・中野・折原・矢内・野村・布村
	2013/5/26			奥武藏軍刀沢	北村・福王寺・中野
	2013/5/26			谷川岳一ノ倉沢中央稜	折原・玉木
	2013/5/30			上州御荷鉾岳	風間・鈴木五
	2013/6/1			秩父大持沢	福王寺・中野
	2013/6/1			三ツ峠	折原・堀・玉木・矢内
	2013/5/25	～	26	北八ヶ岳	奥蘭
	2013/5/30			八ヶ岳真教寺尾根～県界尾根	奥蘭
	2013/5/27			茅ヶ岳	中島

	2013/6/9	南秋川熊倉沢右俣	掛川、風間、伊丹、折原、矢内、野村
	2013/6/9	南秋川熊倉沢左俣	北村、山下、福王寺、中野、折原
	2013/6/3	荒船山	風間、鈴木G、安部
	2013/6/23	片品側大蓮沢	北村、福王寺、中野
	2013/6/23	茅ヶ岳	風間、鈴木G
	2013/7/21	平戸の岩場	瀬藤、風間、山下、中山、小川、北村、福王寺、中野、折原、野村、布村、(荒川)
	2013/7/13 ~ 15	北岳バットレス (D ガリー奥壁)	大熊、折原、玉木
	2013/7/14	西沢渓谷西のナメ沢	中野、福王寺、風間、野村、鈴木G
	2013/7/28	丹沢小川谷	折原、玉木、布村
	2013/8/15 ~ 18	穂高合宿縦走	福王寺・掛川・風間・奥蘭・山下・小川・中野・野村
	2013/8/15 ~ 18	穂高合宿竜谷	折原・中山・大熊・布村
	2013/8/7	秩父二子山	風間・中野
	2013/8/28	籠ノ登山	山下
	2013/7/23 ~ 10	北海道山三昧	福王寺ファミリー
	2013/8/25	安達太良山	福王寺ファミリー
	2013/10/13 ~ 14	楠俣川ヘイズル沢	風間・大熊・野村・布村・荒川・中野
	2013/10/19	大源太山	鈴木G・北村・中野
	2013/10/27	日和田	鈴木N・折原・野村・荒川
	2013/10/28	日光白根	風間・鈴木G・安部
	2013/10/2 ~ 3	名取川�行沢	牧野・鈴木G・北村・中野
	2013/10/12 ~ 14	後立山連邦	中山家族
	2013/11/8	本白根山	中島他1名
	2013/11/9	黒檜山	中島他1名
	2013/11/23 ~ 24	北ア唐松岳	中山・福王寺・野村・布村・山下・折原・荒川・大熊・鈴木・中野・福王寺J
	2013/11/17	妙義山塊星穴岳	北村・大熊・中野・鈴木・荒川
	2013/12/15	谷川岳雪上調練	18名参加
	2013/12/29 ~ 31	冬期合宿 (天候不良撤退)	掛川・風間・折原・大熊・荒川・中山・鈴木・布村・野村
	2013/12/8	八ヶ岳裏同心ルンゼ	中山・折原・布村
	2013/12/22 ~ 23	八ヶ岳ジョウゴ沢	中山・福王子・折原・布村・荒川
	2013/12/23	裏同心ルンゼ	小川・鈴木・大熊・福王子 jr.
	2013/12/23	阿弥陀北稜	中山・鈴木・荒川・福王子 jr.
	2013/12/23	赤岳主稜	大熊・福王子・布村
	2013/12/23	大同心沢	小川・折原
	2013/12/31 ~ 1	富士山奥蘭	
	2014/1/4	三ツ峠	奥蘭
	2014/1	日光女峰山	福王寺・中野・野村・布村
	2014/1	南ア日向山	折原・鈴木・中山
	2014/1	霧積周辺アイスクライミング	北村・福王寺・中野・布村
	2014/1	八ヶ岳真教寺尾根	奥蘭・野村
	2014/1	高雄山	風間・安部
	2014/1	秩父大霧山	風間
	2014/2/2	四阿山	山下
	2014/2/23	湯ノ丸山・烏帽子岳	風間・鈴木G
	2014/2/26	湯ノ丸山・烏帽子岳	山下
	2014/2/16	秩父蕨山	奥蘭

2014 年度山行記録

員	2014/3/9	上州武尊 (川場スキー場よりピストン)	北村、福王子、折原、中野、矢内、野村、布村
員	2014/3/15	榛名山黒岩 (岩練習)	矢内、布村、荒川、中野
員	2014/3/16	谷川岳 車尾根 (雪稜トレ)	中山、折原
員	2014/3/16	日光白根山	鈴木直、北村、福王子
員	2014/3/21 ~ 22	西穂高岳 (記念山行)	掛川、風間、奥蘭、大熊
員	2014/3/21 ~ 23	新春輝く槍ヶ岳	中山、折原、野村

員	2014/3/21	秩父 柴崎ロック	矢内、布村、荒川
員	2014/3/29	妙義 筆頭岩	北村、福王子、大熊、野村、布村、中野
員	2014/4/5	裏妙義 山急山・高岩	福王子、大熊、野村、中野
個	2014/4/1	北八ヶ岳 (渋の湯~)	風間、鈴木五
会	2014/4/12 ~ 13	唐松岳(雪上トレ)	福王子、山下、大熊、中野、荒川、北村、折原、鈴木直、野村、福王子Jr.
会	2014/5/3 ~ 4	A隊：西穂高岳まで(春合宿)	鈴木直、折原、野村、布村
会	2014/5/3 ~ 4	B隊：涸沢岳西尾根=奥穂高岳 往復(春合宿)	中山、北村、大熊、荒川
員	2014/4/19	鹿沼岩山	北村、福王子、鈴木直、中野、矢内、大熊、布村
員	2014/4/26 ~ 27	立山雄山東尾根	折原、中山、大熊
個	2014/4/27	平標山	山下、他
個	2014/5/4	四阿山	山下、他
個	2014/4/11 ~ 2	海外遠征 ローツェ ※エベレストBCまで	風間 大山
会	2014/5/18	阿寺の岩場(岩訓練) 16名×100円+1500円(車)	山下、風間、北村、鈴木直、折原、野村、布村、荒川、矢内、中野、福王子、福王子Jr、瀬藤、掛川、経塚、中崎(見学者)
員	2014/5/31	西丹沢 小川谷廊下	風間、鈴木五、北村、福王子、中野、布村
員	2014/5/31	谷川 一ノ倉	折原、大熊、矢内、鈴木直
員	2014/6/14	奥武藏 鶴冠谷 左俣	奥武藏 鶴冠谷 左俣
員	2014/6/15	秋川 天王岩	秋川 天王岩
員	2014/6/28	那須 井戸沢	那須 井戸沢
個	2014/6/17	尾瀬 大蘿沢	尾瀬 大蘿沢
個	2014/6/24	籠ノ登山 (東西)	籠ノ登山 (東西)
会	2014/7/13	三ツ峠 遭難対策部主催 岩訓練	大熊、掛川、鈴木直、北村、折原、野村、布村、荒川、小川、福王寺、村田、中野、矢内、中山、福王寺Jr.、経塚(計16名)
員	2014/7/19 ~ 21	小川山 岩トレ	鈴木直、折原、矢内、経塚 計4名
員	2014/7/20 ~ 21	尾瀬 小瀬沢、万太郎谷 大ベタテ沢	野村、布村、中野 計3名
員	2014/7/26 ~ 27	鋸岳	布村 計1名
員	2014/7/27	三ツ峠 岩トレ	鈴木直、折原、荒川、経塚 計4名
員	2014/8/2	越沢バットレス 岩トレ	鈴木直、折原、野村、荒川、経塚 計5名
員	2014/8/2	万太郎谷 大ベタテ沢	北村、福王寺、布村、中野 計4名
個	2014/7/14	尾瀬 小松原湿原	風間、安部 計2名
個	2014/7/21	奥多摩 軍多利沢	山下、他1名 計2名
個	2014/7/26	北八ヶ岳	風間、鈴木五郎 計2名
個	2014/7/26 ~ 27	尾瀬 北岐俣沢～ブナ沢	北村、中野 他2名 計4名
員	2014/8/19	白根山 金精峰より	福王寺、福王寺ひろき
員	2014/8/25 ~ 27	黒部五郎岳	中野
員	2014/8/28 ~ 29	北アルプス笠ヶ岳	福王寺
員	2014/9/6	巻機山 米子沢	福王寺、野村、中野
個	2014/8/5 ~ 6	北アルプス槍ヶ岳 雨天撤退	村田 他
個	2014/8/17	水根沢	山下 他
個	2014/8/24	八ヶ岳 真行寺尾根 雨天撤退	村田 他
個	2014/9/6	八ヶ岳 真行寺尾根(リベンジ)	村田 他
会	2014/9/13 ~ 15	北岳バットレス 四尾根	★企画部担当 ○A 中山、荒川 ○B 鈴木直 CL、野村 ○C 北村、矢内
員	2014/9/13	沢登 ウルシケ谷	福王寺、布村、中野
員	2014/9/14 ~ 15	上越 丹後山～中ノ岳	大熊

員	2014/9/20	沢登 海沢谷	福王寺、風間、大熊、野村、布村、中野、荒川、中崎
員	2014/9/23	岩練習 阿寺	鈴木直、福王寺、福王寺Jr、荒川、野村、布村、大熊、岩瀬、中崎
員	2014/9/28	沢登 竜喰谷	山下、風間、鈴木直、福王寺、野村、布村、北村
個	2014/9/5 ~ 6	北ア 西穂高岳 (ピラミッドピーク)	掛川 他 5名
個	2014/9/13 ~ 15	北ア 大キレット	村田 他
個	2014/9/14 ~ 15	南ア 小仙沢	山下 他
個	2014/9/22 ~ 23	北ア 西穂高岳 (ピラミッドピーク)	村田 他
会	2014/10/19	A隊 一ノ倉南陵	鈴木直、風間、野村、岩瀬、福王子Jr.
会	2014/10/19	B隊 幽ノ沢V字状岸壁右ルート	北村、中山、福王子、中野
会	2014/10/19	C隊 マチガ沢 東南陵	布村、大熊
会	2014/10/19	D隊 堅炭尾根	折原、村田
員	2014/11/8	裏妙義 木戸壁右カンテ	北村、福王子、折原、中野、布村、野村
会	2014/11/29 ~ 30	富士山	中山、野村、折原、布村、北村、岩瀬
員	2014/10/9	北横岳	風間、鈴木五郎
員	2014/11/22 ~ 24	鹿島槍ヶ岳	北村、折原、野村
員	2014/12/5	八ヶ岳 裏同心	福王寺、折原
会	2014/12/14	谷川岳 薩 (雪上訓練：歩行訓練、滑落停止等)	山下、野村、布村、北村CL、矢内、中崎
会	2014/12/21	谷川岳 裏斜面(雪上訓練：歩行訓練、滑落停止等)	岩瀬、折原、風間 CL、瀬藤、福王子L、福王寺大樹、鈴木直樹
会	2014/12/29 ~ 31	北ア合宿は中止により八ヶ岳 阿弥陀岳北陵	中山、岩瀬、布村、折原、北村、野村
個	2014/12/13	北八ヶ岳	山下、他元会員
個	2015/1/3	黒斑山	山下、他元会員
会	2015/1/17 ~ 18	遭難対策部 地図読み 日光付近社山	A : 折原L、福王寺、岩瀬、福王寺大樹 B : 北村L、鈴木、布村 C : 山下L、野村、矢内、村田 (日帰り)
員	2015/1/11 ~ 12	鳳凰三山 1泊2日	中山、鈴木、北村、福王寺、折原、野村、布村
員	2015/1/24 ~ 25	松木沢 黒沢アイスクライミング前夜発 日帰り	鈴木、折原
会	2015/2/14 ~ 15	富士山 (アイゼン歩行、滑落停止)	中山、北村、村田、鈴木、福王寺、折原、野村、布村、大樹 9名
員	2015/2/7 ~ 8	松木沢 黒沢アイスクライミング	折原、北村、野村、布村、矢内
員	2015/2/21 ~ 22	21日霧積・22日神津牧場 アイスクライミング	21日 : 折原、野村、岩瀬、布村、中野 22日 : 折原、野村、岩瀬
員	2015/2/28	霧積 アイスクライミング	折原、野村
員	2015/2/28	黒斑山	福王寺、中野

2015 年度山行記録

会	2015/3/21 ~ 22	八海山	中山、北村、折原、布村、野村
員	2015/3/7	谷川岳・東尾根	折原、中山、野村
員	2015/3/8	平標	北村、福王寺
員	2015/3/14	谷川岳・一二の中間稜	折原、鈴木、野村
員	2015/3/15	日光白根山	北村、福王寺、中野、布村
員	2015/3/28 ~ 29	赤岳・東稜	中山、北村、折原、布村、野村、福王寺
会	2015/4/12	谷川岳・天神尾根・歩荷訓練	中山、村田、小川、北村、鈴木、折原、中野、野村
会	2015/4/19	日光白根山・歩荷訓練	山下、北村、鈴木、福王寺、中野、経塚、矢内、布村、岩瀬、中崎
会	2015/5/2 ~ 4	白根峰山縦走	中山、布村、野村
会	2015/5/2 ~ 4	鎧岳、甲斐駒ヶ岳縦走	北村、鈴木、折原、矢内
会	2015/5/3 ~ 4	甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根	村田、小川、中野、岩瀬

員 個	2015/4/23 2015/4/29	～ 24	五龍岳 那須岳	折原、野村 山下、他一名
会	2015/5/17		平戸の岩場、阿寺の岩場・岩トレ	矢内、折原、岩瀬、野村、中山、経塚、中野、鈴木、福王寺、布村、Jr、大熊、北村、中崎
会	2015/5/24		平戸の岩場、阿寺の岩場・岩トレ	大熊、北村、経塚、小川、中崎
員	2015/5/23		榛名山・黒岩・クライミング	折原、鈴木、矢内、岩瀬
員	2015/5/30		越沢バットレス・マルチピッチ	折原、鈴木
員	2015/5/30		二子山・中央稜・マルチピッチ	矢内、岩瀬
員	2015/5/30		大蓮沢・沢登り	北村、中野、野村
員	2015/6/6		石津窪・沢登り	布村、中野、福王寺
会	2015/6/14		坊主谷・沢登り	中山、北村、矢内、中崎、鈴木、折原、経塚、中野、布村、野村
員	2015/6/28		手戸沢・沢登り	布村、野村、福王寺
会	2015/7/12		日光男体山・歩荷訓練	中山、北村、矢内、鈴木、折原、経塚、布村、山下、福王寺、岩瀬、大熊、野村
会	2015/7/26		日光男体山・歩荷訓練	大熊、中野、小川、東條、北村
員	2015/7/18	～ 20	小川山・クライミング	折原、鈴木、小川、野村、岩瀬、経塚
員	2015/7/25	～ 26	豆焼沢・沢登り	折原、野村
員	2015/7/11		南沢・沢登り	布村、北村、中野、福王寺
員	2015/7/25		霧降沢・沢登り	布村、北村、福王寺
会	2015/8/8	～ 9	細沢・沢登り	野村、中山、折原
会	2015/8/8	～ 9	北岳・トレッキング	小川、経塚、東條
会	2015/8/8	～ 9	小太郎沢・沢登り	北村、福王寺、中野、布村、大熊
会	2015/8/13	～ 15	黄蓮谷右俣・沢登り	折原、野村、岩瀬
会	2015/8/15	～ 16	鞍掛沢・沢登り	北村、鈴木、中野、大樹
会	2015/8/22	～ 23	シレイ沢・沢登り	野村、鈴木、折原
会	2015/8/22	～ 23	赤抜沢・沢登り	矢内、北村、布村
員	2015/9/5		溪稜祭下見、芝崎ロックガーデン	布村、野村、中野、中崎、大樹
員	2015/9/12		芝崎ロック・クライミング	北村、福王寺、布村、中野
員	2015/9/21	～ 23	槍ヶ岳・西稜・バリエーション	中山、野村、鈴木、折原、布村
員	2015/9/27		ベースキャンプ・室内クライミング	中野、大熊、経塚、野村、布村、岩瀬、折原
員	2015/10/3		秋川、天王岩・クライミング	布村、鈴木、小川、中野、折原、野村、岩瀬
会	2015/10/17		溪稜祭・下吉田キャンプ場	14名
会	2015/10/24	～ 25	北岳・デボ山行	野村、鈴木、折原、布村
員	2015/10/12		谷川岳・巣剛新道→西黒尾根・トレッキング	矢内、中崎
員	2015/10/12		河又・クライミング	布村、小川、北村、大熊
員	2015/11/7		古賀志・クライミング	布村、経塚、矢内、野村
会	2015/11/21	～ 22	北アルプス燕岳	北村、中山、鈴木、中野、経塚、折原、野村、岩瀬
員	2015/11/28	～ 29	八ヶ岳 硫黄岳～赤岳	折原、野村
会	2015/12/31	～ 2	北岳・デボ回収	北村、中山、鈴木、折原、野村
員	2015/12/13		妙義山相馬岳・北稜・バリエーション	北村、野村、中崎
員	2015/12/20		八ヶ岳・峰の松目沢・アイス	中山、北村、野村、折原
員	2016/1/2		那須朝日岳・東南稜	福王寺、大樹、中野、布村
員	2016/1/10		谷川岳・西黒尾根	矢内、布村、中崎
員	2016/1/24		松木沢黒沢・アイス	折原、野村
員	2016/1/31		三つ鱗・四十八滝沢・アイス	中山、北村、野村、折原、福王寺
員	2016/2/6		八ヶ岳・広河原沢・アイス	中山、折原
会	2016/2/28		谷川岳	山下、中山、村田、北村、鈴木、福王寺、折原、中野、矢内、野村、布村、大樹
員	2016/2/11		中津川・アイス	布村、福王寺、矢内
員	2016/2/11		赤岳・主稜	中山、野村、折原
員	2016/2/21		八ヶ岳・広河原沢・アイス	折原、野村

編集後記

今回も皆様のおかげで無事 60 周年記念会誌を発行することが出来ました。原稿ならびに貴重なお写真をご提供頂いた OB 諸先輩方をはじめ会員の皆様、また編集発行に際しご協力頂いた指導部の皆様に感謝いたします。

近年インターネットの普及に伴い、当会でも山行記録はホームページを通じて広く公開しております。山行において、デジカメやスマホといった便利な道具が使われ、記録も文章から写真、そして動画といった手段に変わりつつある時代です。こうした記録の形が変わっていく中で、会誌というもののあり方も昔と異なってきているのだなあとつくづく感じました。

掲載した山行記録は当会のホームページで公開しているものの中から抜粋させて頂きました。ページの都合で一部の写真を割愛させて頂きましたので、一部文章のつながりが不自然な部分が生じてしまいました。原稿を書かれた方には深くお詫び申し上げます。

なお、ホームページにはこの他多数の報告がアップされておりますので、ぜひオリジナルの報告もご覧ください。

また、今回は過去の会報の電子化を試み、付録として添付いたしました。貴重な昔の会報をご提供頂いた OB 諸先輩方には心より御礼申し上げます。添付の DVD は PC でしかご覧いただく事は出来ませんが、少しでもあの頃の山の空気を感じて頂ければ幸いです。

当会のホームページ <http://www.urawakeiryo.org>

編集担当 村田雅治
平成 28 年 11 月



付録の DVD について

本 DVD は PC でのみご覧いただけます。なお一部 DVD プレーヤーで JPEG 画像が再生できるものがございますので、本 DVD にあわせて収録いたしました。

フォルダ構成

PDF これまでの会報の PDF ファイルが収録されています。

JPEG これまでの会報の JPEG 画像ファイルが収録されています。

ご注意！

会報データには個人情報が含まれておりますので、取り扱いには十分ご注意いただきますようお願い申し上げます。



浦和溪稜山岳会